本令ハ明治三十九年六月一日ヨリ施行ス

●醫院職員ニ明治四十年勅令第七十五號第七十六號準用　明治四十年七月廿日勅令第二百七十七號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ關東都督府醫院職員ニ明治四十年勅令第七十五號及第七十六號ヲ準用スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治四十年勅令第七十五號及第七十六號ハ關東都督府醫院職員ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十一年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

○四十年勅令第七十五號ハ統監府營林廠高等官ニ關スル制ナリ

○四十年勅令第七十六號ハ陸軍現役將校同相當官統監府營林廠職員ニ任セラレタル者ニ關スル制ナリ

●通信官署現業者ニ勤勉手當給與ノ件　明治四十一年七月廿九日勅令第百六號

朕關東都督府通信官署ニ於テ現業ニ從事スル者ニ勤勉手當ヲ給スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

關東都督府通信官署ニ於テ現業ニ從事スル者ニハ關東都督ノ定ムル所ニ依リ勤勉手當ヲ給スルコトヲ得

前項ニ依リ勤勉手當ヲ受クル者ニハ明治二十四年勅令第二十七號但書ノ規定ヲ適用セス

附　則

本令ハ明治四十一年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

●通信現業員勤勉手當給與規則　明治四十一年七月廿九日訓令第六十五號　通信省署

明治四十一年五月訓令第五十七號通信現業員勤勉手當給與規則左ノ通改正ス

通信現業員勤勉手當給與規則

第一條　通信現業員ニシテ其ノ職務ニ勤勉ナルモノニハ本規則ニ依リ勤勉手當ヲ給與ス

第二條　手當ノ給與ヲ受クヘキ現業員トハ左ノ吏員ヲ謂フ

一　關東都督府通信管理局工務課員中電信電話ノ試驗事務ニ從事スル者

二　郵便、電信局所員但シ局長、課長、所長及庶務掛員ヲ除ク

第三條　前條第二號ノ局長、課長、所長及通信管理局業務課員中郵便爲替貯金及電報ノ調査ニ從事スル者ニハ業務特殊ノ狀況ニ依リ臨時勤勉手當ヲ給與スルコトアルヘシ

第四條　勤勉手當ハ關東都督府通信管理局長ヲシテ之ヲ給與セシム

第五條　手當金ハ左ノ三期ニ分チ之ヲ給與ス但シ特殊ノ事由アル場合ハ一箇月毎ニ又ハ臨時ニ之ヲ給與スルコトアルヘシ

第一期　四月ヨリ七月ニ至ル

第二期　八月ヨリ十一月ニ至ル

第三期　十二月ヨリ三月ニ至ル

附　則

本令ハ郵便所ニ之ヲ適用セス

●都督府郵便所長手當、退官賜金及死亡賜金給與令　明治四十一年七月廿九日勅令第二百七十九號

朕關東都督府郵便所長手當、退官賜金及死亡賜金給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

關東都督府郵便所長手當、退官賜金及死亡賜金給與令

第一條　關東都督府郵便所長ニハ俸給ヲ給セス年額六百圓以内ノ手當ヲ給與ス

第二條　關東都督府郵便所長在官中死亡シタルトキ、廢官ト爲リタルトキ又ハ三年以上勤續シタル者退官シタルトキハ其ノ勤勞ニ因リ三百圓以内ノ金額ヲ給與ス但シ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ因リ其ノ官ヲ失ヒタル者ハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ明治四十一年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●郵便所長手當金年額

明治三十年四月二十日府令第十五號

關東都督府郵便所長手當金年額左ノ通定ム

等級	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級
年額	六百圓	五百四十圓	四百八十圓	四百二十圓	三百六十圓	三百圓	二百四十圓	百八十圓

●關東州小學校及公學堂教員給與規則

明治三十年四月二日民政部訓令第二十二號　民政署

關東州小學校准訓導及關東州公學堂助教給與規則左ノ通相定ム

關東州小學校准訓導及關東州公學堂助教給與規則

第一條　關東州小學校准訓導及關東州公學堂助教ノ月俸ハ二十圓以上六十圓以下トス

第二條　關東州小學校准訓導及關東州公學堂助教ノ俸給支給ノ方法ニ付テハ明治三十九年九月訓令第三十號關東州小學校准訓導及關東州公學堂助教ノ旅費ハ明治三十九年九月訓令第九號關東都督府囑託員以下旅費規則中囑託員ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五章　任免及試驗

●都督府職員特別任用令

明治三十九年七月二十日勅令第二百號　改正（四三、勅一八七）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ關東都督府職員特別任用令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

關東都督府職員特別任用令

第一條　關東都督府外事總長及關東都督府事務官ニシテ涉外事務ニ從事スル者ハ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ左ニ揭クル者ノ中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

一　外交官、領事官又ハ貿易事務官ノ職ニ在ル者

二　外交官又ハ領事官タルノ資格ヲ有スル者

前項ニ依リ任用シタル外事總長又ハ事務官ニシテ外交官、領事官、貿易事務官又ハ外務省高等官ニ轉任シ又ハ轉任セムトスル場合ニ於テハ關東都督府ノ在職ヲ以テ在外公館ノ在職ト看做ス

第二條　關東都督府警視ハ滿三年以上警察事務ニ從事シ現ニ判任官四級俸以上ノ官職ニ在ルモノニ限リ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

第三條　關東都督府典獄及監吏ノ任用ニ關シテハ典獄及看守長特別任用令ノ規定ヲ準用ス但シ監吏ニ關スル考査ノ方法及試驗科目ハ關東都督之ヲ定ム

第四條　削除

第五條　關東都督府通信事務官及通信事務官補ノ任用ニ關シテハ通信事務官、通信事務官補特別任用令通信書記ニ關シテハ通信屬、通信書記補ニ關シテハ通信手、郵便所長ニ關シテハ三等郵便局長ノ任用ニ關スル規定ヲ準用ス通信書記補ノ試驗規則及郵便所長ノ採用規則ハ關東都督之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

關東都督府警視ハ本令施行ノ際ニ關東州ニ於ケル警察事務ニ從事シ現ニ判任官三級俸以上ノ官職ニ在ル者ヨリ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

●祕書官ノ任用及官等ニ關スル件　明治三十九年九月二十日勅令第二百八十八號

樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ祕書官ノ任用及官等ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

祕書官ノ任用ニ關シテハ文官任用令ヲ適用セス

祕書官ノ官等ニ關シテハ高等官官等俸給令第四條及第五條ノ規定ヲ適用セス但シ他官ヨリ兼任スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年勅令第百二十四號、明治三十年勅令第百九十六號及明治三十九年勅令第二百二號ハ之ヲ廢止ス

●文官普通試驗細則　明治四十年七月七日決裁

關東都督府文官普通試驗細則

文官普通試驗ヲ分テ筆記試驗及口述試驗トス

第一條　筆記試驗ハ左ノ科目ヲ用キテ之ヲ行フ但シ口述試驗ハ第四號ノ科目ヲ用キテ之ヲ行フ

一　讀　書

二　作　文　假名交リ文（書牘記事若ハ論說）

三　數　學　珠算又ハ筆算

四　法律大意

以上ノ科目ハ試驗ノ際撰擇取捨スルコトヲ得ス

五　經濟學大意

六　地　理　本邦及外國地理大意

七　歷　史

八　簿　記

九　清　語　會話及和文清譯清文和譯

十　外國語　會話及和文歐譯歐文和譯

以上ノ科目ハ受驗者ヲシテ豫メ一科ヲ撰擇セシメ之ヲ試驗ス

第二條　試驗ノ科目、期日、場所等ハ一箇月前ニ官報及關東州ニ於テ發行スル新聞紙一種以上ニ公告スヘシ

但シ口述試驗ノ期日場所ハ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知スヘシ

第三條　受驗志願者ハ別紙書式ニ依リ調製シタル願書ニ履歷書ヲ添ヘ公告シタル期日迄ニ文官普通試驗委員長ニ差出スヘシ

第四條　試驗手數料ハ試驗願書提出ノ際之ヲ納付スヘシ但シ試驗ヲ受ケサルコトアルモ之ヲ還付セス

第五條　筆記試驗ハ受驗總員ヲ一室又ハ數室ニ入レ文官普通試驗員監視シテ之ヲ行フ

第六條　口述試驗ハ筆記試驗ニ級第シタル者ニ就キ之ヲ行フ

答案ハ楷書ニテ明瞭ニ記スヘシ

第七條　口述試験ハ文官試験委員三人以上列席シテ受験者一人毎ニ試問シテ之ヲ即答セシム

第八條　受験者ハ總テ文官普通試験委員長ノ掲示其ノ他試験委員ノ命令ヲ遵守スヘシ

第九條　試験點數ハ百點ヲ以テ滿點トシ其ノ得點各科目平均六十點未滿又ハ一科目四十點未滿ノ者ハ不合格トス

第十條　各科目ノ得點ヲ定ムルハ文官普通試験委員ノ多數決ニ依ル可否同數ナルトキハ文官普通試験委員長之ヲ決ス

第十一條　試験合格者ノ氏名ハ官報及關東州ニ於テ發行スル新聞紙一種以上ニ公告スヘシ

第十二條　試験ニ關スル必要ナル手續ハ文官普通試験委員長之ヲ定ム

文官普通試験出願書式　（用紙美濃紙）

族籍

氏名

生年月日

私儀文官普通試験相受度別紙履歴書相添此段奉願候也

年　月　日

現住所

氏名　㊞

關東都督府文官普通試験委員長氏名宛

（試験委員ヨリ發スル通知書ヲ送付ヘキ宿所ヲ便宜ノ爲メ其ノ現住所外ニ定メ置カントスル者ハ左ノ書式ニ依リ追加スヘシ）

追テ貴委員ヨリ發スル通知書ハ左ノ所ニ御發送被下度候

履歴書　（用紙美濃紙）

族籍

氏名

生年月日

本籍

一何府縣何國何郡市何町村何番地戸主又ハ何某男兄弟伯叔父等

現住所

一何府縣何國何郡市何町村何番地（何某方）（試験出願中現在地ヲ轉シタルトキハ其ノ時々届出ツヘシ）

學事

一何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ官公私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ所修ノ科目大略何々

一何年何月ヨリ何地官公私立何學校ニ入リ何學科ヲ修業シ何年何月卒業ス

職業

一何年何月何官廳ニ於テ何々拜命何々歴任等

●在南滿洲帝國領事館附警察官ニ關スル件　明治三十二年一月十日勅令第五號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ在南滿洲帝國領事館附警察官ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

在南滿洲帝國領事館附警察官ハ關東都督府警察官ヲシテ之ヲ兼ネシムルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎都督府警部警部補特別任用令　明治四十三年三月二十六日勅令第百八十一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ關東都督府警部警部補特別任用令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

關東都督府警部警部補特別任用令

第一條　關東都督府警部警部補ハ考試合格證書ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

第二條　考試合格證書ハ警部補ノ職ニ在ル者又ハ關東都督府巡査在職三年以上ニシテ精勤證書ヲ有シ現ニ其ノ職ニ在ル者ニ就キ考試委員其ノ實務ノ成績ヲ考査シ及學術ヲ試驗シ合格シタル者ニ之ヲ付與ス

第三條　關東都督府職員特別任用令第四條、警部消防士特別任用令及臺灣總督府警部警部補特別任用令ニ依リ考試合格證書ヲ受ケタル者ハ本令ニ依ル考試合格證書ヲ有スル者ト看做ス

第四條　考試委員考査ノ方法及試驗ニ關スル事項ハ關東都督之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

關東都督府職員特別任用令第四條ハ之ヲ削除ス

關東都督府巡査ニシテ現ニ巡査部長ノ職ニ在ル者ハ本令施行ノ際ニ限リ關東都督府警部補ニ任用スルコトヲ得

●警部警部補特別任用考試規程　明治四十三年四月一日府令第七號

關東都督府警部警部補特別任用考試規程左ノ通定ム

關東都督府警部警部補特別任用考試規程

第一條　關東都督府警部警部補特別任用令ニ依ル實務成績ノ考査及學術ノ試驗ハ本規程ニ依ルヘシ

第二條　考試委員ハ委員長一名委員數名ヲ以テ組織ス

委員長ハ關東都督府警視總長ヲ以テ之ニ充テ委員ハ關東都督府事務官、警視、翻譯官中ニ就キ關東都督之ヲ命ス

第三條　實務成績ハ左記事項ニ就キ之ヲ考査ス

一　勤務ノ勉否

二　姿勢禮式服裝其ノ他紀律ノ整否

三　職務執行ノ當否

四　文書報告ノ整否

五　法規講習及應問ノ成績

六　操練ノ熟否

七　武術ノ熟否

八　清語其ノ他外國語ノ熟否

以上各號ノ外尚其ノ性行及特殊技能ヲ調査ス

第四條　民政署長又ハ事務官ハ其ノ所屬ノ巡査全員ニ對シ其ノ實務ニ就キ監督ノ任ニ在ル者ノ意見ヲ徵シ毎月ノ成績ヲ翌月初ニ於テ別記樣式ノ考査ニ記入シ六箇月（一月ヨリ六月ニ至ル　七月ヨリ十二月ニ至ル）ヲ一期トシ前半期分ヲ七月十五日後半期分ヲ翌年一月十五日迄ニ考試委員長ニ送付スヘシ

考査表ハ機密ノ取扱トシ他署ニ轉シタル者アルトキハ其ノ所屬ノ民政署長又ハ事務官ニ送付スヘシ

第五條　學術試驗ハ實務成績ノ優等ナル者ニ對シ左記科目ニ就キ之ヲ行フ

一　憲法　行政法及國際法

二　刑法
三　刑事訴訟法
四　警察法規
五　算術

以上ノ外清語又ハ其ノ他ノ外國語ニ就キ試驗スルコトアルヘシ

第六條　學術試驗ハ筆記及口術トシ口述試驗ハ筆記試驗ニ合格シタル者ニ對シ之ヲ行フ

第七條　考試委員長ハ民政署長又ハ事務官ニ筆記試驗問題ヲ送リ其ノ答案ノ徵收ヲ委託スルコトヲ得

第八條　學術試驗ノ評點ハ一科目百點ヲ以テ滿點トシ各科目平均六十點以上ヲ合格トス但シ一科目三十點未滿ノモノアルトキハ合格ト爲スコトヲ得ス

第九條　考試合格者ニハ別記樣式ノ證書ヲ付與ス

第十條　關東都督府巡査在職滿三年以上ニシテ精勤證書ヲ有シ關東都督府警察官練習所甲科ノ課程ヲ修了シタル者ハ本規程ニ依ル學術試驗ニ合格シタル者ト看做シ實務成績ノミヲ考査シ考試合格證書ヲ付與スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年九月府令第十三號關東都督府警部特別任用ニ關スル考試規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（樣式）（用紙美濃半截）

考査表

明治　年　自　月　至　月

拜命年月日							
精勤證書授與年月日							
賞罰度數							
	考査ノ評點數						
	一月（七月）	二月（八月）	三月（九月）	四月（十月）	五月（十一月）	六月（十二月）	平均評點數
勤務ノ勉否							
姿勢禮式服裝其ノ他紀律ノ整否							
職務執行ノ當否							
文書報告ノ整否							
法規講習及應問ノ成績							
操練ノ熟否							
武術ノ熟否							
清語其ノ他外國語ノ熟否							
平均評點數							
摘要							

何署（支署）（出張所）
月俸　巡査　何某
生年月日
何語通譯兼掌手當何等

性行及特殊技能					
備考					

記載例

一　成績評點ハ成績普通ナルモノヲ六十點トス

一　摘要欄ニハ各考査事項ニ付評點ノミニテ説明シ得サルモノヲ記述スヘシ

一　性行及特殊技能欄ニハ性質品行嗜好偏癖等ノ性行及撃剣、柔術、馬術、射撃、蹄鉄等ハ勿論衛生、會計、統計、刑事等ノ特殊技能ヲ記入スヘシ

用紙長ノ子　九寸　一尺一寸五分

第　號

證書

關東都督府警部補（巡査）　氏　名

右者關東都督府警部補特別任用令ニ依ル考試ニ合格シタルコトヲ證ス

明治　年　月　日

考試委員長官位勳等　氏　名㊞

考試委員官位勳等　氏　名㊞

考試委員官位勳等　氏　名㊞

考試委員官位勳等　氏　名㊞

●都督府巡査看守ノ任用及給與ニ關スル件

明治三九年八月二九日勅令第二百三十一號　改正（四〇、勅三四五）

第一條　關東都督府巡査看守ノ任用及給與ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第二條　關東都督府巡査看守ノ任用ニ關スル規程ハ關東都督之ヲ定ム

第三條　關東都督府巡査看守ノ給與ニ關シテハ巡査給與令ニ關東都督府看守ノ給與ニ關シテハ奏任及判任待遇監獄職員給與令中看守ニ關スル規程ニ依ル但シ巡査給與令中廳府縣長官ニ屬スル職權ハ關東都督之ヲ行フ

第四條　關東都督府巡査看守ニハ前條給與ノ外月額二十圓以内ノ在勤手當ヲ支給ス

第五條　關東都督府巡査看守ニハ巡査看守療治料給助料及弔祭料給與令ヲ適用ス

第六條　本令ニ關スル細則ハ關東都督之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●巡査採用規則

明治三九年九月二日府令第二十號

關東都督府巡査採用規則左ノ通相定ム

關東都督府巡査採用規則

第一條　巡査ハ身體檢査及學術試驗ヲ經テ採用スルモノトス但シ左ノ各號ノ一ニ該ル者ハ學術試驗ヲ省略スルコトアルヘシ

一　滿一箇年以上巡査タリシ經歷ヲ有シ退職後滿五箇年以内ノ者

二　巡査精勤證書ヲ有スル者
三　陸軍現役滿期又ハ戰時召集ヲ解除セラレタル下士（憲兵科ハ上等兵）以上ノ者若ハ下士適任證書ヲ有スル者
四　判任文官タリシ者又ハ文官任用令第三條ニ依リ判任文官タル資格ヲ有スル者

第二條　巡査ノ身體檢査ハ左ノ各號ニ適合スル者ヲ以テ合格トス
一　體質善良ニシテ較著ナル疾患ナキ者
二　身體諸機關完具シ且其ノ機能健全ニシテ劇務ニ堪エ得ル者
三　身幹五尺一寸以上胸圍約身長ノ半ニシテ呼吸縮張ノ差一寸以上ノ者
四　視力及聽力共ニ完全ナル者
五　言語明瞭ニシテ充分ノ發聲ニ堪ユル者
六　容貌姿勢醜惡ナラサル者

第三條　巡査ノ學術試驗ハ左ノ各號ニ適合スル者ヲ以テ合格トス
一　刑法、刑事訴訟法及警察法規ノ大要ニ通スル者
二　本邦ノ歷史及地理ノ大要ニ通スル者
三　假名交リノ論文及普通往復文ヲ作リ得ル者
四　加減乘除ヲ爲シ得ル者
五　普通ニ楷書及行書ヲ書キ得ル者

第四條　刑事專務ノ巡査ハ前條ノ試驗ヲ經スシテ採用スルコトヲ得但シ學術試驗ヲ經ルニ非サレハ普通警察事務ニ從事セシムルコトヲ得ス

第五條　巡査志願者ハ品行方正年齡二十一歲以上四十歲未滿ニシテ左ノ各號ニ抵觸セサル者タルコトヲ要ス
一　重罪ノ刑又ハ重禁錮ノ刑ニ處セラレ若ハ同上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シ單ニ監視ニ附セラレタル者若ハ輕禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期後五箇年ヲ經過セサル者
二　賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者
三　巡査看守懲罰例又ハ文官懲戒令ニ依リ官職ヲ免セラレ爾後滿二箇年ヲ經過セサル者
四　身分不相應ノ負債アル者又ハ家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者
五　豫戒命令ヲ受ケタル者
六　酒癖又ハ暴行ノ癖アル者

第六條　巡査志願者ヨリ徵スヘキ文書左ノ如シ
一　巡査志願書（別記第一號書式ニ依ル）
二　履歷書（別記第二號書式ニ依ル）
三　戶籍吏ノ作リタル戶籍謄本
四　市、區、町、村長ニ於テ第五條ニ抵觸セサルコトヲ證明シタル證書

第七條　巡査ニ採用スヘキ者ト定リタルトキハ別記第三號書式ノ誓書ヲ徵スルモノトス

（第一號書式）

巡査志願書

私儀巡査志願ニ付御試驗相受度御採用ヲ得候上ハ身上ニ關スル一切ノ件ハ身元保證人ニ於テ引受ケ可申候依テ別紙履歷書相添ヘ保證人連署此段奉願候也

明治何年何月何日

本籍　何府縣郡市區町村番地士族（平民）
寄留　何府縣郡市區町村番地何某方

志願者　何　某　印
明治何年何月何日生

本籍　何府縣郡市區町村番地
寄留　何府縣郡市區町村番地何某方
保證人　何　某　印
明治何年何月何日生

關東都督宛

（第二號書式）

履歷書

本籍　何府縣郡市區町村番地士族（平民）
寄留　何府縣郡市區町村番地
戸主（何某長男）
（豫備歩兵曹長）位勳功　何　某　印
明治何年何月何日生

年月日	學業、職務、賞罰、事故	學校官署會社名
明治何年何月何日	何學、卒業	何學校
同	何會社事務員月給何圓	何會社
同	依願解職（何々）	同上
同	何々ヲ命ス何級俸給與	何縣
同	依願免職（何々ノ爲）	同上

（第三號書式）

誓文

今般關東都督府巡査志願候ニ付御採用ヲ蒙ルニ於テハ官吏服務紀律ヲ恪守仕ルヘキハ勿論人民ニ對シテハ丁寧親切ニ職務ヲ執行シ且總テノ法律命令ヲ遵守シ職務上百般ノ責務ハ嚴正忠實ニ踐行仕ルヘク又奉職滿三箇年ニ滿タスシテ一身ノ故ヲ以テ自ラ職務御免相願候樣ノ儀決シテ無之而シテ自身ハ勿論家族ニ至ルマテ品行方正ニ相保チ警察官吏タリ又其ノ家族タル體面ヲ汚損致候樣ノ所業ハ決シテ仕ル間敷候依テ誓文如件

本籍　何府縣郡市區町村番地士族（平民）
寄留　何府縣郡市區町村番地何某方
明治何年何月何日　何　某　印

●巡査通譯兼掌試驗規程

明治四十二年四月七日　民政部、民政訓令第四十五號　署、警察署

關東都督府巡査通譯兼掌試驗規程左ノ通相定ム

關東都督府巡査通譯兼掌試驗規程

第一條　巡査ニ通譯兼掌ヲ命免スルハ此ノ規程ニ依ル

第二條　民政部ニ巡査通譯兼掌試驗委員長一人試驗委員若干人書記一人ヲ置ク試驗委員長ハ警視總長ヲ以テ之ニ充テ試驗委員ハ關東都督之ヲ命シ書記ハ試驗委員長之ヲ命ス

第三條　試驗ヲ分チテ第一種試驗第二種試驗ノ二トス

第一種試驗ハ新ニ通譯ヲ兼掌セシメムトスル巡査ニ對シ毎年二回之ヲ行ヒ第二種試驗ハ現ニ通譯ヲ兼掌セ

ル巡査ニ對シ毎年一回之ヲ行フ但シ必要アルトキハ臨時之ヲ行フコトアルヘシ

第四條　試驗ハ筆記及口述トス

筆記試驗ハ國文ヲ外國文ニ外國文ヲ國文ニ翻譯セシム

口述試驗ハ會話及讀方トス

第五條　試驗點數ハ筆記及口述トモ各百點ヲ以テ滿點トシ平均六十點以上ヲ得タル者ヲ合格トス但シ口述試驗ノ成績六十點未滿ノ者ハ合格者トナスコトヲ得ス

第六條　第一種試驗ニ合格シタル者ニ非サレハ通譯兼掌ヲ命スルコトヲ得ス

第七條　第一種試驗ニ合格セサル者及正當ノ事由ナクシテ第二種試驗ヲ受ケサル者ハ通譯兼掌ヲ免スルコトアルヘシ

第八條　巡査通譯兼掌手當ハ巡査特別手當支給規則第一條ニ依ル

第九條　手當ノ增給又ハ減給ハ第二種試驗ノ成績ニ依リ之ヲ行フ

●都督府法院判官及檢察官任用令　明治三十年七月三日勅令第二百一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ關東都督府法院判官及檢察官任用令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

關東都督府法院判官及檢察官任用令

關東都督府法院判官及檢察官ハ裁判所構成法ニ依リ判事又ハ檢事タル資格ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

附　則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●監吏特別任用ニ關スル考試規程　明治三十九年九月一日府令第十四號

關東都督府監吏特別任用ニ依ル考試規程左ノ通相定ム

關東都督府監吏特別任用ニ關スル考試規程

第一條　監吏ノ考試ハ先ツ實務ノ成績ヲ考查シ優等者ヲ選拔シテ更ニ學術試驗ヲ行フモノトス

第二條　看守ノ實務成績ハ考查表ヲ備置キ左ノ項目ニ從ヒ隨時記入スヘシ

一　姿勢、禮式、服裝其ノ他紀律ニ關スル事項

二　職務執行ノ當否

三　勤務ノ勉否

四　書類報告ノ整否

五　特技ノ有無

六　其ノ他典獄ノ必要ト認メタル事項

第三條　實務成績ノ考查ハ監吏ノ意見ヲ徵シ考查表ニ照合シテ優劣ヲ判定スヘシ

第四條　學術試驗ハ左ノ科目ニ從ヒ之ヲ行フ但シ簿記ハ便宜之ヲ省略スルコトヲ得

一　監獄ニ關スル法規

二　刑法、刑事訴訟法ノ大要

三　會計法規ノ大要

四　算術（比例百分算迄）

五　簿記

六　清國語

第五條　看守考試規程ニ依リ看守長若ハ監吏ニ任用セラレタル者及元警察監獄學校監獄科ヲ卒業シタル者ハ本規程ノ考查及試驗ニ合格シタルモノト看做ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

實務成績考査表　　　　看守

	自明治　年　月至　年　月	自明治　年　月至　年　月
性行		
姿勢禮式服裝及紀律ニ關スル事項		
職務執行ノ當否		
勤務ノ勉否		
書類報告整否		
特技		
健康ニ關スル事項		
家政ノ狀況		
備考		

●看守採用規則　明治三十九年九月一日府令第十六號

關東都督府看守採用規則左ノ通相定ム

　關東都督府看守採用規則

第一條　關東都督府看守ハ試験ヲ經テ之ヲ採用ス但シ左ニ記載シタル者ハ體格ノミヲ檢査シテ採用スルコトヲ得

一　曾テ判任官以上ノ職ヲ奉シタル者
二　看守精勤證書ヲ有スル者
三　二年以上看守ノ職ニ在リ退職後二年ヲ經過セサル者

第二條　看守志願者ハ品行方正年齢二十一歳以上四十五歳未滿ニシテ徵兵ニ相當セス且左ノ各項ニ抵觸セサル者タルコトヲ要ス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
二　賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者
三　巡査看守懲罰令又ハ官吏懲戒令ニ依リ免職セラレ二年ヲ經過セサル者
四　身分不相應ノ負債アル者又ハ家資分散者タルノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者
五　酒癖アル者暴行ノ癖アル者

第三條　看守志願者ハ其ノ願書ニ履歷書戸籍謄本及第二條第一號乃至第四號ニ對スル官公署ノ證明書ヲ添附スヘシ

第四條　看守採用試験ヲ別テ體格檢査及學術試験ノ二種トス

體格檢查ニ合格シタル者ニ非サレハ學術試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第五條　體格檢查ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

一　體質善良ニシテ嫌惡スヘキ疾患ナキ者

二　身幹五尺以上ニシテ胸圍大約身長ノ半ニ等シク呼吸縮張ノ差一寸以上ノ者

三　兩眼共視力三分ノ二以上ニシテ辨色力完全ナル者

四　聽力六尺ノ距離ニ於テ低語ヲ聽識シ得ル者

五　言語應答明瞭ニシテ充分發聲ニ堪ユル者

六　精神完全ナル者即チ精神病及神經病ナキ者

第六條　學術試驗ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

一　刑法、刑事訴訟法、裁判所構成法、監獄則、監獄則施行細則等ノ大要ニ通スル者

二　普通往復文及申告書ヲ作リ得ル者

三　算術加減乘除ヲ解シ得ル者

第七條　學術試驗ハ監吏二名以上立會ヒ之ヲ行フ

第八條　學術試驗ニ合格シタル者ハ其ノ點數多キ者ヨリ順次看守ニ採用ス

第九條　看守ニ採用セラルヘキ者ニ對シテハ典獄親シク左ノ諸件ヲ宣告シ誓文ヲ徵シタル上之ヲ採用ス

一　官吏服務紀律ヲ恪守スヘキハ勿論常ニ上官ノ命令ヲ遵守シ勤務中ハ勿論勤務ニ服セサルトキト雖政治ノ是非得失ヲ論評スルカ如キコトアルマシキ事

一　在監人ト相狎狃スルカ如キコトナク職務上負擔スル百般ノ責務ハ最モ嚴正忠實ニ之ヲ踐行スヘキ事

一　一旦奉職ノ上ハ他念ナク職務ニ從事シ三箇年未滿ニシテ一身ノ故ヲ以テ辭職スルカ如キコトアルマシキ事

一　自己ハ勿論家族ニ至ルマテ專ラ品行ヲ正クシ監獄官吏タリ又ハ其ノ家族タルノ體面ヲ汚損スルカ如キ所業アルマシキ事

第十條　誓文ハ典獄ノ面前ニ於テ本人ヲシテ左ノ如ク自書捺印セシム

誓　文

今般關東都督府看守志願仕候ニ付御採用ヲ被ルニ於テハ官吏服務紀律ヲ恪守仕ヘキハ勿論在監人ニ對シ決シテ相狎狃スルカ如キコトナク總テノ法律命令ヲ遵守シ職務上百般ノ責務ハ嚴正忠實ニ踐行仕ヘク又三箇年未滿ニシテ一身ノ故ヲ以テ自ラ職務御免相願候樣ノ儀ハ決シテ無之且ツ自己ハ勿論家族ニ至ル迄品行方正ニ相保チ監獄官吏タリ又ハ其ノ家族タル體面ヲ汚損致候樣ノ所業決シテ仕間敷候依ヲ誓文如件

年　月　日

原籍　府縣郡市町村番地身分

何　某　印

附　則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●女監取締採用規則

明治三九年九月一日府令第十七號

關東都督府女監取締採用規則左ノ通相定ム

關東都督府女監取締採用規則

第一條　關東都督府女監取締ハ試驗ヲ經テ之ヲ採用ス但シ左ニ記載シタル者ハ體格ノミヲ檢查シテ採用スルコトヲ得

一　二年以上女監取締ノ職ニ在リタル者

二　官公立高等小學校又ハ之ト同等以上ト認ムル女學校ノ卒業證書ヲ有スル者

第二條　女監取締志願者ハ品行方正年齢二十歳以上四十歳未満ニシテ左ノ各項ニ抵觸セサル者タルコトヲ要ス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
二　賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者
三　官吏ノ懲戒例規ニ依リ免職セラレ二年ヲ經過セサル者
四　身分不相應ノ負債アル者又ハ家資分散者タルノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者
五　藝娼妓酌婦又ハ之ニ準スヘキ稼業ニ從事シタル者

第三條　女監取締志願者ハ其ノ願書ニ履歴書戸籍謄本及第二條各號ニ對スル官公署ノ證明書ヲ添附スヘシ有夫ノ者ニ在テハ夫ノ同意書ヲ添附スヘシ

第四條　女監取締採用試驗ヲ別テ體格檢查及學術試驗ノ二種トス

體格檢查ニ合格シタル者ニ非サレハ學術試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第五條　體格檢查ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

一　體質善良ニシテ嫌惡スヘキ疾患ナキ者
二　身幹四尺七寸以上ニシテ胸圍大約身長ノ半ニ等シク呼吸縮張ノ差一寸以上ノ者
三　兩眼共視力三分ノ二以上ニシテ辨色力完全ノ者
四　聽力六尺ノ距離ニ於テ低語ヲ聽識シ得ル者
五　言語應答明瞭ニシテ充分ノ發聲ニ堪ユル者
六　精神完全ナル者即チ精神病又ハ神經病ナキ者

第六條　學術試驗ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

一　監獄法規ノ條文ヲ解讀シ得ル者
二　普通往復文及申告書ヲ作リ得ル者
三　算術加減乘除ヲ解シ得ル者
四　裁縫ノ大要ニ通スル者

第七條　看守採用規則第七條乃至第十條ハ之ヲ女監取締ニ準用ス

附　則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●判任官ノ郵便電信支局長命免方委任

明治三九年九月一日訓令第五號　郵便電信局長

左ノ事項ハ其ノ官ニ於テ專決施行スヘキ事ヲ委任ス

一　判任官ノ支局長ヲ命免スル事

●通信書記補特別任用ニ關スル試驗規則

明治三九年九月二日府令第十五號

關東都督府通信書記補特別任用ニ關スル試驗規則左ノ通相定ム

第一條　年齢滿十六歳以上三十五歳以下ノ男子ニシテ身體健全且左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得

一　重罪ヲ犯シタル者
但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
二　定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

三　破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第二條　試驗志願者ハ別記書式ニ依リ願書及履歷書ニ左ノ證明書ヲ添ヘ試驗期日十日前迄ニ之ヲ試驗委員長ニ差出スヘシ

一　身分、職業、年齡及兵役ニ關スル市區町村長ノ證明書

二　本規則第一條第一號但書及同第三號ニ該當スル者ハ其ノ復權又ハ債務ノ辨償ヲ終ヘタル證明書

第三條　試驗期日及場所等ハ豫メ府報又ハ大連ニ於テ發行スル新聞紙其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第四條　試驗出願者ハ試驗手數料トシテ金一個ヲ納ムヘシ手數料ハ願書ヲ取下ケ又ハ試驗ヲ受ケサルトキト雖還付セス

第五條　不正ノ方法ニ依リ試驗ヲ受ケムト企テタル者及試驗ニ關スル規定ニ違背シタル者ハ其ノ期ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス若シ事後其ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無效トス

第六條　試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

一　讀書

二　作文　書牘、記事若ハ論說

二　筆蹟　楷書、行書

四　數學　筆算（比例）珠算（四則）

五　地理　本邦及外國地理ノ大要

六　歷史　本邦歷史ノ大要

以上ノ科目ハ悉ク之ヲ課ス

一　郵便ニ關スル法規ノ大要

二　郵便爲替及貯金ニ關スル法規ノ大要

三　電信ニ關スル法規ノ大要

四　電話ニ關スル法規ノ大要

五　會計法及會計規則ノ大要

以上ノ科目ハ受驗者ヲシテ其ノ一ヲ撰擇セシム

一　簿記　官用簿記

二　清語

三　外國語

以上ノ科目ハ受驗者ノ望ニ依リ之ヲ課ス

第七條　試驗ハ各科目百點ヲ以テ滿點トシ一科目四十點未滿又ハ各科目平均六十點未滿ヲ不合格トス

第八條　試驗合格者ニハ合格證書ヲ付與ス

合格證書ノ有效期限ハ其ノ日付ヨリ滿二箇年トス

第九條　試驗合格者ノ氏名ハ府報ヲ以テ之ヲ公示ス

第十條　試驗委員長ハ郵便電信局長ヲ以テ之ニ充テ試驗委員ハ若干名トシ關東都督之ヲ命ス

第十一條　受驗者ノ體格檢查ハ試驗執行地ノ醫師ニ囑託シ之ヲ行フヘシ

第十二條　試驗ニ關スル手續ハ試驗委員長之ヲ定ム

第十三條　左ノ資格ノ一ヲ有スル者ハ特ニ試驗ヲ須キス關東都督府文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ直ニ通信書記補ニ任用スルコトヲ得

一　官立公立尋常中學校三學年以上ノ修業證書ヲ有スル者及之ト同等以上ト認ムル官立公立私立學校又ハ司法省指定法律學校ノ卒業證書ヲ有スル者

二　官立公立學校ノ教員タルヘキ免許狀ヲ有スル者
三　陸海軍現役滿期ノ下士以上及陸軍上等兵又ハ之ト相當ノモノニシテ下士適任證書ヲ有スル者
四　判任文官ノ職ニ在リタル者
五　滿二年以上遞信省通信局、經理局、通信官署、臺灣總督府通信官署、統監府通信官署及關東都督府郵便電信局ノ雇ヲ現ニ勤續スル者竝相互ヲ通シテ滿二年以上屆ヲ勤續シ現ニ其ノ職ニ在ル者
六　滿五年以上巡査ノ職ニ在リタル者

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別　記）　（用紙美濃字體楷書又ハ行書）

通信書記補受驗願

私儀通信書記補志願ニ付御試驗被成下度別紙履歷書及證明書相添此段相願候也

但撰擇科目何々

年　月　日

廳府縣華士族平民
氏　名　印

試驗委員長宛

履　歷　書

廳府縣華士族平民
氏　名

本　籍

一廳府縣何市何郡何町村何番地戶主又ハ何某何男兄弟伯叔父等

現住所

一何市何町何番地（何某方）

住所ノ移轉

一何年何月何地ニ生レ何年何月迄居住
一何年何月何地ニ移轉シ何年何月迄居住
右ハ居住ヲ移轉スル毎ニ記スヘシ

學　事

一何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ官公私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ何年何月ニ至ル所修ノ科目大略何々
一何年何月ヨリ何地官公私立何學校ニ入リ何學科ヲ修業シ何年何月卒業ス其ノ證書ノ寫別紙ノ如シ
修業何年何月間ニシテ其ノ科目ハ何々
一何年何ノ何地何學校又ハ內地ニ於テ何々ノ試驗ヲ受ケ及第ス其ノ證書若ハ免許狀ノ寫別紙ノ如シ
受驗ノ科目ハ何々

職　業

一何年何月何日官公私立何學校何科教員トナリ教授ニ從事シ何年何月辭職其ノ間何々ヲ兼勤シ何々ノ事務ニ從事ス其ノ辭令左ノ如シ
此所ニ辭令ノ全文ヲ各通トモ掲クヘシ又私立學校等ニテ辭令ナキモノハ其ノ俸給等ヲ本文ニ記スヘシ

シ

一何年何月何官廳ニ於テ何々拜命何年何月迄何々ノ事務ニ從事シ何年何月辭職其ノ辭令左ノ如シ

官記辭令各其ノ全文ヲ揭クヘシ

一何年何月ヨリ何地何會社ニ傭ハレ給料何圓何々ノ業務ニ從事シ何年何月解傭其ノ間給料ノ增減

一何年何月ヨリ何年何月迄何業ニ從事ス

賞罰

一何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ノ爲賞ヲ受ク其ノ辭令左ノ如シ

辭令全文ヲ揭クヘシ辭令ナキモノハ本文中ニ受賞ノ事由ヲ記スヘシ

一何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ノ爲罰ヲ受ク

辭令アルモノハ各其ノ全文ヲ揭ケ辭令ナキモノハ本文中ニ其ノ事由ヲ記シ又裁判所ノ宣告書ハ其ノ要ヲ記スヘシ總テ罰ハ其ノ受罰ノ日數科料罰金ノ額等ヲ記スヘシ

破產家資分散又ハ身代限處分ノ有無

一何年何月何地ニ於テ身代限ノ處分ヲ受ケ何年何月負債ノ辨償ヲ爲シタルコト又ハ破產若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ何年何月復權シタルコト

裁判所ノ申渡ヲ記スヘシ

一破產若ハ家資分散ノ宣告又ハ身分又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタルコトナシ

右ノ通相違無之候也

右

氏　名印

㊟郵便所長採用規則

明治四十五年四月三十日府令第十四號

關東都督府郵便所長採用規則左ノ通定ム

關東都督府郵便所長採用規則

第一條　關東都督府郵便所長ハ左記各號ノ資格ヲ具備スル者ヨリ之ヲ採用ス

一　滿二十年以上ノ男子

二　其ノ郵便所所在地ニ在住スル者

三　實價三百圓以上ノ不動產若ハ記名國債證券ヲ所有スル者又ハ關東都督府通信管理局長ニ於テ之ト同額以上ノ確實ナル資產ヲ有スト認メタル者但シ滿三箇年以上通信事務ニ從事シタル官吏ハ本號ノ資格ヲ要セス

四　中學校第三學年以上修業ノ者若ハ關東都督府通信管理局長ニ於テ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者

第二條　左記各號ノ一ニ該當スル者ハ關東都督府郵便所長トナルコトヲ得ス

一　罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　懲戒處分ニ依リ免職セラレ滿二箇年ヲ經過セサル者

第三條　關東都督府郵便所長誠實ニ其ノ職務ヲ奉シタル後老衰又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ其ノ職ヲ辭スルカ或ハ在職中死亡セシトキ其ノ嗣子又ハ相續人タル男子年齡滿十六年以上ニシテ第一條第二號乃至第四號ノ資格ヲ具備シ且第二條各號ニ抵觸セサル者ハ特ニ採用スルコトヲ得

第四條　非戶主ニシテ其ノ戶主實價三百圓以上ノ不動產若ハ記名國債證券ヲ所有スル者又ハ關東都督府通信管理局長ニ於テ之ト同額以上ノ確實ナル資產ヲ有スト認メタル者ノ保證アル場合ニ於テハ其ノ本人ノ資產

第一條第三號ニ適合セサルモ特ニ採用スルコトヲ得

●關東州學校職員任用ニ關スル件　明治四十年七月十九日勅令第五十一號

樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ關東州學校職員任用ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　關東州小學校ノ訓導ハ左ノ資格ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一　師範學校、中學校又ハ高等女學校ノ教員免許狀ヲ有スル者

二　小學校教員免許狀ヲ有スル者

第二條　關東州公學堂ノ教諭ハ左ノ資格ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一　前條ノ教員免許狀ヲ有シ支那語ヲ以テ教授ヲ爲シ得ヘキ者

二　前號ノ外支那語ニ通シ二年以上關東州ニ於テ教育ニ從事シタル者

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

關東州公學堂ニ於テ教育ニ從事スル者ハ本令施行ノ際ニ限リ第二條ノ規定ニ拘ラス教諭ニ任用スルコトヲ得

●關東州小學校准訓導及公學堂助教採用規則　明治四十年四月二日府令第二十號

關東州小學校准訓導及關東州公學堂助教採用規則左ノ通相定ム

第一條　關東州小學校准訓導及關東州公學堂助教採用規則

第二條　關東州公學堂助教ハ小學校正教員又ハ准教員ノ免許狀ヲ有スル者ヨリ之ヲ採用ス

シ支那語ヲ以テ教授ヲ爲シ得ヘキ者ヨリ之ヲ採用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

現ニ關東州公學堂ニ於テ教育ニ從事スル者ハ當分ノ內第二條ノ規定ニ拘ラス助教ニ採用スルコトヲ得

●都督府中學校長及高等女學校長特別任用ノ件　明治四十五年三月二十六日勅令第百八十號

樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ關東都督府中學校長及關東都督府高等女學校長特別任用ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

關東都督府中學校長及關東都督府高等女學校長ハ一年以上文部省直轄學校長、師範學校長、官公立中學校長、官公立高等女學校長、奏任教官又ハ奏任待遇教員ノ職ニ在リタル者ヨリ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

附　則

本則ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

關東都督府中學校長特別任用令ハ之ヲ廢止ス

●旅順工科學堂學長特別任用令　明治四十三年五月十日勅令第百三十五號

樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ旅順工科學堂長特別任用令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

旅順工科學堂學長ハ一年以上奏任教官ノ職ニ在リタル者ニ限リ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六章　分限、服務

●南滿洲鐵道株式會社等ノ職員ト爲リタル官吏ニ關スル件

明治三七年八月二九日勅令第二百九號　改正（四一、勅二三三號）

朕南滿洲鐵道株式會社ノ職員ト爲リタル官吏ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

在職官吏ニシテ南滿洲鐵道株式會社又ハ鴨綠江採木公司ノ職員ト爲リタル者ニ關シテハ明治三十七年勅令第百九十五號ヲ準用ス

（參照）

●外國政府ニ聘用セラレタル官吏ニ關スル件

明治三七年八月二九日勅令第二百九十五號　改正（二八、勅一九一號）

在職官吏ニシテ許可ヲ受ケ外國政府ニ聘用セラレタル者アルトキハ其ノ聘用中ニ限リ臨時其ノ官ヲ增置セラレタルモノトス其ノ現役軍人ナルトキハ定員外トス

前項ノ官吏ニ對シ必要アルトキハ特ニ在職者ニ關スル規定ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ俸給ハ之ヲ停止シ其ノ他ノ給與ハ之ヲ支給セス

●官廳執務時間

明治三五年一二月二日内閣閣令第六號　改正（二八、勅一九一號）

各官廳執務時間自今左ノ通改定ス

九月十一日ヨリ十月三十一日迄　午前八時ヨリ午後四時ニ至ル

十一月一日ヨリ翌年二月末日迄　午前九時ヨリ午後四時ニ至ル

三月一日ヨリ七月十日迄　午前八時ヨリ午後四時ニ至ル

七月十一日ヨリ九月十日迄　午前八時ヨリ午前十二時ニ至ル

但シ土曜日日曜日ハ從前ノ通

地方ノ狀況又ハ廳務ノ性質上止ヲ得サルモノニ限リ主務大臣ハ閣議ヲ經テ右時間ノ繰替ヲ爲スコトヲ得」

事務繁劇ノ場合ニ於テハ上官ノ指揮ニ依リ晝夜ニ拘ラス執務スヘシ

●都督府職員服務規程

明治三十年九月六日訓令第八十六號　（改正四〇、訓八九號警務署ヲ除ク）

關東都督府職員服務規程左ノ通相定ム

第一條　職員昇廳シタルトキハ出勤簿ニ自ラ捺印スヘシ

第二條　昇廳時限三十分以上ヲ過キ出勤シタル者ニ對シテハ出勤簿ニ遲參ノ印ヲ押捺スヘシ但シ公務ノ爲遲參シ直屬上官ノ承認ヲ受ケヌル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　疾病其ノ他正當ノ事故ニ依リ昇廳シ難キトキハ昇廳時限後一時間以內ニ屆出ツヘシ

病氣引籠七日ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ屆出ツヘシ

爾後七日每ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　執務時間中發病又ハ止ヲ得サル事故ニ依リ退廳セムトスルトキハ其ノ事由ヲ直屬上官ニ申告シ承認ヲ受クヘシ

退廳時限後ノ退出ト雖モ直屬上官在廳ノ間ハ其ノ旨申告スヘシ

第五條　執務時間中廳外ニ出ルトキハ直屬上官ノ認許ヲ受クヘシ

第六條　忌引若ハ遠慮ノ屆書ニハ死亡者ノ氏名死亡ノ日時續柄及忌服遠慮ノ日數等ヲ記載スヘシ

第七條　轉地療養若ハ父母看護等ノ願書ハ其ノ事由、日數（往復トモ）行先地等ヲ詳記シ醫師ノ診斷書、電報、書狀等之ヲ證明トナルヘキ書類ヲ添附スヘシ

第八條　出張又ハ疾病等ノ爲昇廳セサルトキハ自己擔任ノ事件ハ處分ノ見込ヲ附シ同僚又ハ上官ノ指示スル者ニ引繼クヘシ

第九條　轉任轉勤休職免官等ノ者ハ其ノ辭令ヲ受ケタル日ヨリ七日以內ニ出發赴任スヘシ採用ノ召喚ヲ受ケタル日ヨリ七日以內ニ擔當事務ノ引繼ヲ爲スヘシ若シ期限內ニ引繼ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ申立テ認許ヲ受クヘシ

事務ノ引繼ハ目錄書ヲ作リ且事ノ複雜又ハ說明ヲ要スルモノハ演舌書ヲ添ヘ受授者連署屆出ツヘシ引繼書類ヲ作ルノ要ナキトキハ其ノ旨屆出ツヘシ

第十條　新任、轉任、轉勤ノ者ハ其ノ辭令ヲ受ケタル翌日ヨリ七日以內ニ出發赴任スヘシ採用ノ召喚ヲ受ケタル者亦同シ但シ期限內ニ出發スル能ハサル者ハ事由ヲ具シ認許ヲ受クヘシ

第十一條　新任又ハ轉任者ハ三日以內ニ正式ノ履歷書ヲ官房秘書課ニ差出スヘシ

第十二條　賜暇ノ許可ヲ受ケ又ハ出張ノ命ヲ受ケタル者ハ出發屆ヲ發程前ニ歸著屆ヲ歸著ノ翌日迄ニ差出スヘシ但シ非常又ハ至急ノ場合ハ追テ本文ノ手續ヲ爲スモ妨ケナシ

第十三條　出張ヲ命セラレタル者若シ豫定日限內ニ歸廳スルヲ得サルトキハ事由ヲ具シ認可ヲ受クヘシ

第十四條　退廳ノトキハ各自主管ノ諸帳簿及文書等ハ必ス相當收藏シ散逸ノ虞ナカラシムヘシ

第十五條　各職員ハ常ニ服裝ヲ正クシ苟モ惰容アルヘカラス

第十六條　凡テ願屆書類ハ直屬上官ニ之ヲ差出スヘシ

第十七條　凡テ文書ハ公務ノ外私ニ之ヲ他人ニ示シ又ハ謄寫セシムルコトヲ得ス

第十八條　廳舍又ハ其ノ近傍ノ出火若ハ非常ノ事變ニ際シテハ直ニ參廳シ上官ノ指揮ヲ承ケ臨機ノ處置ヲ爲スヘシ

●職員服務規程ハ民政署勤務ノ警察職員及監獄職員ニ適用セス

明治二十年七月二日　訓令第八十九號　官報　警視廳、北海道廳、府縣、島廳

明治四十年九月訓令第八十六號關東都督府職員服務規程ノ前提中「警務署」ヲ削除ス

關東都督府職員服務規程ハ民政署勤務ノ警察職員及監獄職員ニ之ヲ適用セス

明治三十二年三月三十日　訓令第五十二號　官報　民政部

●官房竝民政部宿直規程

關東都督府官房竝民政部宿直規程左ノ通相定ム

關東都督府官房竝民政部宿直規程

第一條　官房竝民政部ニ宿直員二名ヲ置キ執務時間外ニ到達スル文書、物品ノ授受ヲ處理シ及廳內ノ取締ヲ爲サシム

第二條　宿直ハ文書課長ノ監督ニ屬シ官房員ヲ以テ之ニ充ツ但シ各課ノ必要ニ依リ設置スル宿直ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　宿直ニ於テ文書ヲ收受シタルトキハ左ノ例ニ依リ處理スヘシ

一　本府、都督竝官房、民政部、民政長官宛ノ電報及要急ノ標記アル文書ハ即時之ヲ當該課長ニ送付スヘシ

二　各課、課長宛ノ電報及要急ノ標記アル文書ハ即時之ヲ文書課長ニ送付スヘシ

三　前項ニ揭クルモノノ外總テノ文書、物品ハ翌朝（休日ニ當ルトキハ其ノ翌日）遲滯ナク文書課ニ交付スヘシ

第四條　宿直ニ於テ收發シタル文書ハ一定ノ簿冊ニ其ノ要件ヲ記入スヘシ

第五條　日誌ニハ左ノ事項ヲ記載シ翌日文書課長ニ差出シ檢印ヲ受クヘシ
一　宿直員ノ官氏名竝守衛ノ氏名
二　取扱タル事務ノ要領
三　其ノ他重要ナル事項
第六條　宿直員ハ退廳後廳內ヲ巡視シ各室內ノ整否ヲ點檢シ若シ不整頓ナルヲ認ムルトキハ守衛ヲ指揮シ之ヲ整理セシムヘシ
第七條　事務室ハ職員退廳後之ヲ閉鎖ス其ノ鍵ハ宿直員保管シ守衛ヲシテ開閉セシムヘシ
第八條　非常事變發生シタルトキハ直ニ文書課長、警務課長ニ電話又ハ急使ヲ以テ通報シ事急ナル場合ハ臨機ノ處置ヲ爲スヘシ

●警察官練習所長職務章程

明治四十三年二月三日　民政部、民政訓令第八號　署、警務署

關東都督府警察官練習所長職務章程左ノ通定ム

關東都督府警察官練習所長職務章程

第一條　所長ハ別ニ定ムルモノノ外左記ノ事項ヲ專行ス
一　生徒ヲ命免スルコト
二　教課擔任ヲ規定スルコト
三　專任職員及生徒ノ賜暇又ハ旅行ノ請願ヲ許否スルコト
四　專任職員及生徒ノ除服出仕ヲ命スルコト
五　所務ニ關スル內規ヲ定ムルコト
六　經費豫算內ニ於テ助手又ハ日給一圓以下ノ傭員ヲ命免スルコト
七　生徒ノ實務練習修學旅行ヲ命スルコト
八　主管事務ニ就キ管內各官衙ト照復ヲ爲スコト
九　其ノ他處務上必要ナル輕易ノ事項

前項第一號乃至第七號ノ事項ハ施行ノ都度關東都督ニ報告スヘシ
第二條　所長ハ關東都督府警察官練習所規則第十五條ニ該當スル者ニ對シ證書又ハ賞狀ヲ授與スヘシ
第三條　所長ハ生徒ノ品格ヲ汚損スル行爲ニ關シテ懲戒スルコトヲ得
第四條　所長ハ前條ノ懲戒ニ關スル規則ヲ定メ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ
第五條　所長ハ生徒ノ素行勤惰ヲ關東都督ニ具狀シ尙甲科及別科ニアリテハ其ノ所屬ノ民政署長又ハ事務官ニ通知スヘシ
第六條　所長ハ職員ノ進退及功過賞罰ニ關シテ關東都督ニ具狀スルコトヲ得
第七條　所長ハ專決施行ニ屬スヘキ事項ト雖重要ナリト思料スルトキハ豫メ意見ヲ具シ關東都督ノ承認ヲ承クヘシ
第八條　所長ハ每學期終了ノ都度其ノ狀況ヲ報告スヘシ

●通信夫服務規則

明治三十九年九月二日　郵便電信局訓令第四十二號

郵便電信局ニ通信夫ヲ置キ其ノ服務規則左ノ通相定ム

郵便電信局通信夫服務規則

第一條　通信夫ハ郵便物遞送、集配、電報配達、郵便物ノ荷造及局內運搬、鐵道郵便車ニ乘込又ハ指定シタル鐵道停車場ニ於テ郵便物ノ看守、積卸其ノ他之カ運搬ニ關スル業務ニ從事スルモノトス
第二條　通信夫ニハ各其ノ職務ノ區別ニ從ヒ郵便物ノ遞送ニ付テハ明治三十三年九月遞信省公達第四百七十

六號逓送人服務規則ヲ郵便物集配電報配達ニ付テハ、明治二十年五月逓信省公達第百號集配人服務規則ヲ郵便物ノ荷造其ノ他ニ付テハ明治三十年三月逓信省公達第二百二十六號郵便夫服務規則ヲ準用ス

常傭職工服業規程

明治三十年三月五日訓令第二十四號　民政黨內閣時代ノ訓令

常傭職工服業規程左ノ通相定ム

常傭職工服業規程

第一條　職工ノ服業ハ特ニ規定アルモノノ外此ノ規程ニ依ル

第二條　職工ノ服業時間左ノ如シ

一　自三月至十月　　毎日十時間

一　自十一月至翌年二月　　毎日九時間

但シ地方ノ狀況ニ依リ時間ノ變更ヲ要スル場合ハ都督ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　職工ノ休暇日左ノ如シ

一　大祭　祝日

一　毎月第一及第三日曜日

但シ一箇所ニ二人以上ノ職工アルトキハ毎休暇日ニ各其ノ半數ノ者トス

第四條　定時間外特ニ服業セシメムトスルトキハ部局長又ハ監督ノ責アル職員ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ハ一時間ニ日給額ノ九分ノ一ヲ加給スルコトヲ得但シ服業三時間以上ニ渉ルト雖日給額ノ九分ノ三ヲ超過スルコトヲ得ス

第五條　休暇日ニ服業セシメタルトキハ別ニ一日分ノ日給額ヲ支給ス但シ當日定時間外服業スルモ之ニ對シテ加給ヲ爲サス

第六條　職工ノ使用スヘキ器具及器械ハ之ヲ貸與スルコトヲ得

第七條　特種ノ職務ニ從事スル職工ニシテ此ノ規程ヲ適用シ得サルモノ若ハ職工ニ準スヘキ傭人ニシテ此ノ規程ヲ準用スヘキモノハ都督ノ認可ヲ受クヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

水道電燈職工工夫服業規程

明治四十三年七月二日訓令第五十九號　水道事務所　旅順電氣作業所

水道電燈職工工夫服業規程左ノ通定ム

水道電燈職工工夫ノ服業規程

第一條　常傭職工工夫ノ服業時間左ノ如シ但シ機關運轉ニ從事スル者ハ一年ヲ通シ十二時間トス

一　自三月至十月　　毎日　十時間

一　自十一月至翌年二月　　毎日　九時間

第二條　常傭職工工夫ノ休暇日ハ祭日祝日及毎月一回特定ノ日トス但シ業務ノ都合ニ依リ他ノ日ヲ以テ祭日祝日ニ代ヘ指定スルコトヲ得

前項ノ指定休暇日ハ所長之ヲ指定ス

第三條　休暇日ニ於テ常傭職工工夫ニ服業セシメタルトキハ其ノ服業四時間迄ハ日給額ノ半額以內四時間以上ハ日給額迄加給スルコトヲ得但シ定時間外ノ服業ニ對シテハ加給セス

第四條　定時間外ニ服業セシムルトキハ晝間ハ一時間ニ付日給額十分ノ一ヲ加給シ夜間ハ一時間ニ付日給額ノ十分ノ一半ヲ加給ス

前項ノ加給ハ日給額十分ノ六ヲ超過スルコトヲ得ス

第五條　服業時間中病氣其ノ他ノ私事故障ニ依リ中途退業シタルトキハ其ノ服業時間ニ應シ一時間ニ付日給額十分ノ一ノ割合ヲ以テ支給ス

第六條　前條ノ日給及定時間外ノ服業加給ハ服業一時間ニ充タサルモノハ支給セス

第七條　定時間外ノ服業加給ハ一日分ヲ合算シ厘位ヲ生スルトキハ切捨トス

附　則

本令ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州小學校竝公學堂職員服務心得　明治三九年四月一日　庶務部、支署、小學校、公學堂

關東州小學校竝關東州公學堂職員服務心得左ノ通相定ム

第一條　職員ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ヲ奉戴シ誠實ニ其ノ職務ニ服スヘシ

第二條　職員ハ始業時間前ニ出校シ終業時間後ニ退校スヘシ

第三條　職員出校シタルトキハ出勤簿ニ捺印スヘシ

第四條　職員疾病其ノ他ノ事故ニ依リ闕勤スルトキハ其ノ事由ヲ具シ始業時間前ニ學校ニ届出ツヘシ

前項ノ闕勤五日ヲ超ユルトキハ其ノ事故ニ關スルモノハ日數ヲ具シ疾病ニ關スルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出ツヘシ

第五條　職員轉地療養又ハ私事ノ故障ニ依リ闕勤若ハ旅行セムトスルトキハ其ノ日數及事由ヲ具シ民政長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ疾病ニ關スルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添ユルヲ要ス

第六條　職員喪ニ丁リタルトキハ死亡者トノ續柄ヲ具シ民政長官又ハ支署長ニ届出ツヘシ

第七條　學校長若ハ學堂長轉任又ハ退職ヲ命セラレタルトキハ五日以内ニ事務ヲ引繼キ連署ヲ以テ民政長官ニ届出ツヘシ

學校長若ハ學堂長以外ノ職員前項ノ場合ニ於テハ三日以内ニ事務ヲ引繼キ學校長ニ届出ツヘシ

第八條　學校長若ハ學堂長不在ノトキハ上席教員其ノ職務ヲ代理スヘシ

附　則

本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七章　賞　罰

●都督府警察賞與ニ關スル件　明治三年一月九日　勅令第百十三號

朕關東都督府警察賞與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

關東都督ハ警察上特ニ功勞アリト認ムル者ニ對シ賞與ヲ行フコトヲ得

本令ノ施行ニ必要ナル事項ハ關東都督之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●警察賞與施行規則　明治四十年二月二十五日　府令第三十號　改正（四一、府四一號）

關東都督府警察賞與施行規則左ノ通相定ム

關東都督府警察賞與施行規則

第一條　警察賞與ハ左ノ事項ニ關シ特ニ功勞アリト認ムル者ニ對シ之ヲ行フ但シ警察官吏ニ對シテハ其ノ功勞顯著ナルトキニ限ル

一　刑事被告事件ノ捜索又ハ犯罪人ノ逮捕

二　水火風震災惡疫流行其ノ他事變ノ際ニ於ケル防禦救濟

三　他人ノ生命又ハ財產危難ノ救護

四　匪賊ノ討伐捜索又ハ警戒

第二條　警察賞與ハ別テ左ノ二種トス

一　賞與金百圓以內又ハ之ニ相當スル物品ノ賞與

二　賞狀

第三條　犯罪人ヲ逮捕シ又ハ逮捕ヲ容易ナラシメタル者ニ對スル賞與ハ其ノ事件ノ判決確定シタル後之ヲ行フ但シ犯罪ノ事實明確ナル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　賞與ヲ受クヘキ者行賞前禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ又ハ警察職員ニシテ懲戒處分ニ依リ其ノ職ヲ免セラレタルトキハ賞與ヲ行ハス

第五條　賞與ヲ受クヘキ者行賞前死亡シタルトキハ左ノ順位ニ從ヒ死亡ノトキ死者ト同一ノ家ニ在ル最近親族ニ之ヲ給ス

配偶者　直系卑屬　直系尊屬　兄弟姉妹

前項同順位內ニ在リテハ男ハ女ニ長ハ幼ニ先ツ但シ家督相續人ハ最先トス

死者ニシテ第一項ノ親族ナキトキハ弔祭ヲ行フ者ニ之ヲ給スルコトアルヘシ

●文官懲戒令

明治二十六年三月二十日勅令第六十三號　改正（三三年勅二一一・三四年勅二七二・三四年勅三九九・三四年勅四〇一・四〇年勅一〇七・四〇年勅一〇八）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官懲戒令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文官懲戒令

第一章　總則

第一條　親任式ヲ以テ敍任スル官及法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外官吏ハ本令ニ依ル ニ非サレハ懲戒ヲ受クルコトナシ

第二條　官吏ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

一　職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

二　職務ノ內外ヲ問ハス官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第三條　懲戒ハ左ノ如シ

一　免官

二　減俸

三　譴責

第四條　免官ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ官職ヲ失ヒタル日ヨリ二年間官職ニ就クコトヲ得ス

免官ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キ者ハ位記ヲ返上セシム

第五條　減俸ハ一月以上一年以下年俸月割額若ハ月俸ノ三分一以下ヲ減ス

第六條　勅任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ內閣總理大臣之ヲ奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ

奏任官ノ減俸及判任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ニ依リ本屬長官之ヲ行フ

譴責ハ本屬長官之ヲ行フ

第七條　懲戒ニ附セラルヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ對シ懲戒委員會ヲ開クコトヲ得ス

懲戒委員會ノ議決前懲戒ニ附スヘキ者ニ對シ刑事訴追ノ始マリタルトキハ事件ノ判決ヲ終ハルマテ懲戒委員會ノ開會ヲ停止ス

第二章　懲戒委員會

第一款　總則

第八條　懲戒委員會ヲ分テ文官高等懲戒委員會及文官普通懲戒委員會トス

第九條　文官高等懲戒委員會ハ高等官ノ懲戒ヲ議決シ文官普通懲戒委員會ハ判任官ノ懲戒ヲ議決ス

第二款　文官高等懲戒委員會

第十條　文官高等懲戒委員會ハ委員長一人委員六人ヲ以テ組織ス

第十一條　委員長ハ樞密顧問官ノ中ヨリ委員ハ行政裁判所長官、勅任行政裁判所評定官、勅任判事及其ノ他ノ勅任文官ノ中ヨリ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

委員會ニ豫備委員六人ヲ置キ前項ノ例ニ依リ之ヲ命ス

第十二條　委員會ハ委員長及委員ヲ併セ五人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

委員會ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

第十三條　委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

委員中事故アルトキ又ハ闕員アルトキハ豫備委員ノ中ヨリ代理ヲ命ス

第十四條　委員及豫備委員ノ任期ハ三年トス

委員及豫備委員中闕員アリテ補闕ノ爲任命セラレタル者ハ前任者ノ殘任期間在任ス

第十五條　委員長及委員ハ左ノ事項ニ該當スルトキハ之ヲ免ス

一　其ノ官職ヲ失ヒタルトキ

二　委員會所在地以外ニ任所ヲ轉シタルトキ

第十六條　委員會ニ幹事一人ヲ置ク

第十七條　幹事ハ高等官ノ中ヨリ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第十八條　幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ委員會ノ議事ヲ準備シ庶務ヲ統理ス

第十九條　委員會ニ書記三人ヲ置ク

第二十條　書記ハ判任官ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第二十一條　書記ハ幹事ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三款　文官普通懲戒委員會

第二十二條　文官普通懲戒委員會ハ左ノ各官廳ニ之ヲ置ク

一　內閣
一　樞密院
一　各省
一　朝鮮總督府
一　臺灣總督府
一　關東都督府
一　鐵道院
一　會計檢查院
一　行政裁判所
一　警視廳
一　北海道廳
一　樺太廳
一　府縣

一　貴族院事務局
一　衆議院事務局

前項ノ外各省大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ所轄官廳ニ文官普通懲戒委員會ヲ置クコトヲ得

第二十三條　委員長ハ各官廳ノ長官ヲ以テ之ニ充ツ但シ內閣ニ在リテハ法制局長官、樞密院ニ在リテハ書記官長、各省ニ在リテハ次官、朝鮮總督府ニ在リテハ政務總監、臺灣總督府、關東都督府ニ在リテハ民政長官、鐵道院ニ在リテハ副總裁ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ二人乃至六人トシ當該官廳高等官ノ中ヨリ本屬長官之ヲ命ス但シ內閣ニ在リテハ賞勳局、法制局及內閣所屬高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス

特別ノ事情アルトキハ上級官廳ノ高等官ヲ以テ下級官廳ノ委員ニ充ツルコトヲ得

第二十四條　委員會ハ委員長及委員二人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第二十五條　委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

第二十六條　委員會ニ書記二人ヲ置ク

第二十七條　書記ハ委員長所屬官廳ノ判任官ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第二十八條　書記ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三章　懲戒手續

第二十九條　本屬長官ハ所部ノ官吏ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ證憑ヲ具ヘ書面ヲ以テ懲戒委員會ノ審査ヲ要求スヘシ

第三十條　前條ノ要求アリタルトキハ委員長ハ期日ヲ定メ委員會ヲ招集スヘシ

委員會ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人所屬官廳ヨリ本官相當ノ旅費ヲ給スヘシ

第三十一條　委員會ニ於テ議決ヲ爲シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ本屬長官ニ復申スヘシ

第三十二條　委員長及委員ハ自己又ハ其ノ親族ニ關スル事件ノ會議ニ參與スルコトヲ得ス

第三十三條　委員會ノ審査手續ハ委員會之ヲ定ム

附　則

第三十四條　高等官試補ハ高等官ニ準シ判任官見習ハ判任官ニ準シ本令ヲ適用ス

第三十五條　本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

官吏懲戒例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●囑託員雇員懲戒例

明治三十年八月二十六日　訓令第七十一號　各官廳

囑託員雇員懲戒例左ノ通定ム

囑託員雇員懲戒例

第一條　懲戒スヘキ場合左ノ如シ

一　職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

二　職務ノ內外ヲ問ハス職務上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第二條　懲戒ハ左ノ如シ

一　免職
二　減俸
三　譴責

第三條　免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ日ヨリ二年間關東都督府職員ニ採用スルコトヲ得ス

第四條　減俸ハ一箇月以上六箇月以下俸給月額三分一以下ヲ減ス

第五條　本例ハ事務俻員ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●都督府ノ巡査及判任待遇監獄職員等ノ懲戒ニ關スル件

明治四十年九月四日　勅令第三百七號　改正（四二、勅二六〇號）

朕臺灣總督府、統監府及理事廳竝關東都督府ノ巡査及判任待遇監獄職員等ノ懲戒ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府巡査巡査補及判任待遇監獄職員ノ懲戒ニ關スル　規程ハ臺灣總督、統監府巡査及統監府監獄判任待遇職員ノ懲戒ニ關スル　規程ハ統監、關東都督府巡査及判任待遇監獄職員ノ懲戒ニ關スル　規程ハ關東都督之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●巡査懲戒規程

明治四十年九月二十七日　民政部、民政署訓令第八十七號　警務署

關東都督府巡査懲戒規程左ノ通相定ム

關東都督府巡査懲戒規程

第一條　巡査ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

一　職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

二　職務ノ內外ヲ問ハス官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第二條　懲戒ハ左ノ如シ

一　免職

二　減俸

三　譴責

第三條　免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ爾後滿二箇年間官職ニ就クコトヲ得ス

第四條　減俸一箇月以上六箇月以下月俸ノ三分ノ一ヲ減ス

第五條　懲戒ハ懲戒委員會ノ決議ニ依リ之ヲ行フ但シ譴責ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　懲戒委員會ハ委員長一人委員若干人書記一人ヲ以テ組織ス

第七條　委員長ハ民政部警務課長ヲ以テ之ニ充テ委員及書記ハ都督之ヲ命ス

委員長事故アルトキハ上席委員其ノ職務ヲ代理ス

第八條　書記ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條　委員會ハ委員二人以上出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス

委員會ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

委員長及委員ハ自己ノ親族ニ關スル事件ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ第一項ノ定員ニ滿タサルトキハ臨時委員ヲ命スルコトアルヘシ

第十條　都督ハ巡査ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ書類ヲ以テ其ノ事件ヲ委員長ニ交付スル事ヲ得

委員長前項ノ交付ヲ受ケタルトキハ臨時委員會ヲ開キ其ノ決議ヲ復申スヘシ

委員長ハ必要ト認ムルトキハ本人ヲ召喚シ取調ヲ爲スコトヲ得

●巡査懲戒規程中巡捕ニ準用ノ件

明治四十年九月訓令第八十七號關東都督府巡査懲戒規程第一條乃至第四條ノ規定ハ之ヲ巡捕ニ準用ス

明治四十年十月廿日　訓令第九十號　民政部、民政署

●判任待遇監獄職員懲戒規程

明治四十年十月十日訓令第九十二號　民政部

關東都督府判任待遇監獄職員懲戒規程左ノ通相定ム

關東都督府判任待遇監獄職員懲戒規程

第一條　判任待遇監獄職員ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

一　職務上ノ義務ニ違背シタルトキ

二　職務ニ怠慢ノ所爲アリタルトキ

三　職務ノ內外ヲ問ハス監獄官吏タルノ威信ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第二條　懲戒ハ左ノ如シ

一　免職

二　減俸　一箇月以上六箇月以下月俸百分ノ三十以下ヲ減ス

三　譴責

第三條　懲戒ハ懲戒委員會ノ決議ニ依リ之ヲ行フ但シ譴責ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　懲戒委員會ハ委員長一人委員若干人書記一人ヲ以テ組織ス

第五條　委員長ハ典獄ヲ以テ之ニ充ツ委員及書記ハ監吏中ヨリ都督之ヲ命ス

第六條　懲戒委員會ハ委員長及委員二名以上出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

委員事故アリテ前項ノ定數ニ滿タサルトキハ臨時委員ヲ命スルコトアルヘシ

委員長事故アルトキハ上席委員之ヲ代理ス

第七條　懲戒委員會ノ議事ハ多數決トシ可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

第八條　委員長及委員ハ自己ノ親族ニ關スル事件ノ會議ニ參與スルコトヲ得ス

第九條　書記ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條　都督ハ判任待遇監獄職員ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ書類ヲ以テ其ノ事件ヲ懲戒委員長ニ交付ス

委員長前項ノ交付ヲ受ケタルトキハ隨時委員會ヲ開キ其ノ決議ヲ復申スヘシ

委員長ハ必要ト認ムルトキハ本人ヲ召喚シテ取調ヲ爲スコトヲ得

第十一條　懲戒ハ辭令書ヲ作リ之ヲ本人ニ交付ス

●看守及女監取締懲戒規程

明治三十九年九月一日訓令第十四號　監獄署

關東都督府看守及女監取締懲戒規程左ノ通相定ム

關東都督府看守及女監取締懲戒規程

第一條　關東都督府看守及女監取締ハ左ノ場合ニ於テ本規程ニ定ムル所ノ懲戒ヲ受ク

一　職務上ノ義務ニ違背シタルトキ

二　職務上怠慢ノ所爲アリタルトキ

三　職務ノ內外ヲ問ハス監獄官吏タル威信ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第二條　懲戒ヲ分テ左ノ三種トス

一　免職

二　減俸　一箇月以上五箇月以內月俸百分ノ二十以下ヲ減ス

三　譴責

第三條　懲戒ハ懲戒委員會ノ決議ニ依リ典獄之ヲ行フ

譴責ハ典獄之ヲ行フ

第四條　懲戒委員會ハ委員長一名委員三名書記一名ヲ以テ組織ス

第五條　委員長ハ典獄トス

委員ハ獄務係長、警守係長、經理係長ヲ以テ之ニ充ツ書記ハ委員長之ヲ命ス

委員長事故アルトキハ上席委員之ヲ代理ス

第六條　委員會ハ委員長及委員二名以上出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

委員會ノ議事ハ多數決トシ可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

委員長又ハ委員ハ自己ノ親族ニ關スル事件ノ議事ニ參加スルコトヲ得ス

第七條　書記ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　典獄ハ看守及女監取締ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト認メタルトキハ證憑ヲ具ヘ書面ヲ以テ懲戒委員會ノ審査ヲ要求スヘシ

前項ノ要求アリタルトキハ委員長ハ隨時委員會ヲ開キ其ノ議決ノ理由ヲ典獄ニ報告スヘシ

第九條　懲戒ハ辭令書ヲ作リ之ヲ本人ニ交付ス

附　則

本規程ハ之ヲ授業手及押丁ニ準用ス

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八章　恩給、扶助及賜金

●都督府等在勤官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル件　明治四十年五月六日　法律第四十八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル統監府及關東都督府等在勤官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治三十三年法律第七十五號第一條ノ規定ハ別ニ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外統監府及關東都督府竝其ノ所屬官署ニ在勤スル判任以上ノ官吏ニ之ヲ準用ス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ノ規定ハ統監府及其ノ所屬官署ニ在勤スル者ニ關シテハ明治三十九年二月以降、關東都督府及其ノ所屬官署ニ在勤スル者ニ關シテハ明治三十九年九月以降ノ在職月數ニモ之ヲ適用ス

（參照）

●臺灣又ハ樺太ニ在勤スル官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル件　明治三十年三月二十一日　法律第七十五號（抄錄）

第一條　臺灣又ハ樺太ニ在勤スル文官判任以上ノ者ニシテ三箇年以上引續キ在職シタル者ニハ官吏恩給法竝官吏遺族扶助法ノ在官年數計算ニ於テ其ノ在職一箇月ニ對シ半箇月ヲ加算ス但シ從軍年ノ加算アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ加算シタル年月數ハ軍人恩給法ニ於テ文官服務中ニ算入スル第一項ノ加算ハ臺灣又ハ樺太ニ到著シタル日ニ始マル

●明治四十年法律第四十八號ヲ適用セサル官吏ノ件　明治四十年三月六日　勅令第百八十八號

朕明治四十年法律第四十八號ヲ適用セサル官吏ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治四十年法律第四十八號ハ政府ヨリ俸給ノ支給ヲ受ケサル官吏ニ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●都督府等在勤巡査看守及女監取締ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル件

明治四十年六月十四日
法律第四十九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル統監府、關東都督府及樺太廳等ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治三十五年法律第二十九號第一條ノ規定ハ別ニ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外統監府及關東都督府竝其ノ所屬官署ニ在勤スル巡査看守及女監取締ニ之ヲ準用ス樺太ニ在勤スル者ニ付亦同シ

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ノ規定ハ統監府及其ノ所屬官署ニ在勤スル者ニ關シテハ明治三十九年二月以降、關東都督府及其ノ所屬官署ニ在勤スル者ニ關シテハ明治三十九年九月以降ノ在職月數ニモ之ヲ適用ス

（參照）

●臺灣ニ在勤スル巡査看守陸軍監獄看守陸軍警守及女監取締退隱料及遺族扶助料ニ關スル件

明治三十五年五月二十六日
法律第二十九號
（抄錄）

第一條　臺灣ニ在勤スル巡査看守陸軍監獄看守陸軍警守及女監取締ニシテ二箇年以上引續キ在職シタル者ニハ巡査看守退隱料及遺族扶助料法ノ勤續年數計算ニ於テ其ノ在職一箇月ニ對シ半箇月ヲ加算ス但シ從軍年ノ加算アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ加算ハ臺灣ニ到著シタル日ニ始マル

●明治四十年法律第四十九號ヲ適用セサル巡査看守及女監取締ノ件

明治四十年六月十四日
勅令第百八十九號

朕明治四十年法律第四十九號ニ適用セサル巡査、看守及女監取締ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治四十年法律第四十九號ハ政府ヨリ俸給ノ支給ヲ受ケサル巡査、看守及女監取締ニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●巡査看守退隱料遺族扶助料法施行令

明治三十四年七月二十六日
勅令第百四十八號
改正（四〇、勅一九〇號）

朕巡査看守退隱料及遺族扶助料法施行令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

巡査看守退隱料及遺族扶助料法施行令

第一條　巡査看守退隱料及遺族扶助料法第四條第二項ノ退隱料年額及同條第三項ノ增加金額ノ等差ハ左ノ如シ

	退隱料年額	增加年額
第一	兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ヲ亡シタルトキ	六箇月分
第二	前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ	五箇月半分
第三	一肢ヲ亡シ若ハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ	五箇月分
第四	前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ	四箇月半分
第五	一眼ヲ盲シ若ハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ	四箇月分
第六	前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ	三箇月分

傷痍疾病ノ等差ハ文官傷痍疾病等差例ニ依ル

第二條　巡査看守退隱料及遺族扶助料法第二十三條ノ行政官廳ハ國庫ヨリ給與金ヲ支給スヘキ者ニ在リテハ內閣恩給局長其ノ他ニ在リテハ地方長官（東京府ニアリテハ警視總監）トス

臺灣ニ於テハ前項ノ行政官廳ハ國庫ヨリ給與金ヲ支給スヘキ者ニ在リテハ臺灣總督其ノ他ニ在リテハ廳長

トス第一項ノ行政官廳ハ統監府所屬ノ者ニ在リテハ統監、關東都督府所屬ノ者ニ在リテハ關東都督、樺太廳所屬ノ者ニ在リテハ樺太廳長官トス

附　則

本令ハ明治三十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

●巡査看守退隱料及遺族扶助料法　明治三十四年七月法律第三十八號（抄錄）

第一條　巡査又ハ看守勤續十年以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ退隱料ヲ給ス

一　年齡五十歲ヲ超ヘ退職シタルトキ

二　傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪エス退職シタルトキ

三　廢官廢廳ニ依リ退職シタルトキ

四　身體若ハ精神ノ衰弱又ハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命セラレタルトキ

前項ノ退隱料年額ハ退職當時ニ於ケル月俸三箇月分トシ勤續十年以上三十年ニ至ル迄二年ヲ加フル毎ニ退職當時ノ月俸額十分ノ一ヲ增加ス

第三條　退隱料ヲ受ケル者又ハ受クヘキ者再ヒ前職ニ就キ勤續一年以上ニシテ第一條第一項各號ノ一ニ當ルトキハ前後通算シテ勤續三十年ニ至ル迄後ノ勤續一年ヲ加フル毎ニ後ノ退職當時ニ於ケル月俸額十分ノ一ヲ退隱料年額ニ增加ス

一時金ヲ受ケタル者又ハ受クヘキ者再ヒ前職ニ就キ第一條第一項各號ノ一ニ當ルトキハ前後通算シテ勤續十年以上ニ至ル者ニハ第一條ニ依リ退隱料ヲ給シ十年未滿ノ者ニハ第二條ニ依リ後ノ勤續年數ニ對スル一時金ヲ給ス

第四條　巡査又ハ看守職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ又ハ之ニ準スヘキ者ト爲リ其ノ職ニ堪エス退職シタルトキハ退隱料ヲ給ス

前項ノ退隱料年額ハ退職當時ノ月俸三箇月分乃至六箇月分トス

第一條及第三條ニ依リ退隱料ヲ受ケル者又ハ受クヘキ者本條第一項ニ當ルトキハ前二項ニ依ル退隱料年額及增加金額ハ傷痍疾病ノ輕重ニ依リ之ヲ定ム

第二十三條　本法ニ依ル給與金ノ支給ニ關スル事項ヲ裁定スヘキ行政官廳ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●年金恩給等ノ支給事務ヲ郵便官署ニ取扱シムル件　明治三十五年三月十七日勅令第二十五號

朕郵便官署ヲシテ年金、恩給等ノ支給事務ヲ取扱ハシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國庫ノ支辨ニ屬スル年金、恩給、遺族扶助料及退隱料ノ支給ニ關スル事務ハ遞信省、統監府、臺灣總督府、關東都督府及樺太廳ノ所管ニ屬スル郵便官署ヲシテ之ヲ取扱ハシム

前項給與金ノ支給手續ニ關シテハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依ル

第一項給與金ノ支拂ニ關シテハ歲入金歲出金竝歲入歲出外現金ノ交互振替及繰替受拂ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●年金恩給支給規則　明治三十五年三月七日遞信省令第六號　追加（四三、遞令六〇號）

年金恩給支給規則左ノ通定ム

年金恩給支給規則

第一條　國庫ノ支辨ニ屬スル左記給與金ノ支給手續ニ關シテハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本規則ノ定ムル所ニ依ル

一、明治二十三年法律第四十三號官吏恩給法ニ依ル給與金

二　明治二十三年法律第四十四號官吏遺族扶助法ニ依ル給與金

三　明治二十三年法律第四十五號軍人恩給法ニ依ル給與金

四　明治二十三年法律第九十一號府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ依ル給與金

五　明治二十四年法律第四號明治七年以後ノ戰役ニ死歿シタル軍人軍屬ノ遺父母及祖父母扶助ニ關スル法律ニ依ル給與金

六　明治二十九年法律第十三號公立學校職員退隱料等ニ關スル法律ニ依ル給與金

七　明治二十九年法律第三十六號官吏遺族扶助法及官吏遺族扶助法補則ニ依ル給與金

八　明治二十九年法律第七十八號臺灣總督府所屬雇員ニ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ヲ適用スルノ法律ニ依ル給與金

九　明治三十三年法律第七十五號臺灣又ハ樺太ニ在勤スル官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金

十　明治三十三年法律第七十六號臺灣又ハ樺太ニ服役スル軍人ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金

十一　明治三十三年法律第七十七號臺灣ニ於テ地方稅支辨ノ俸給ヲ受クル文官判任以上ノ學校職員ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金

十二　明治三十四年法律第三十八號巡查看守退隱料及遺族扶助料法ニ依ル給與金

十三　明治三十五年法律第二十九號臺灣ニ在勤スル巡查看守陸軍監獄看守陸軍警守女監取締退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金

十四　明治三十八年法律第六十四號在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ依ル給與金

十五　明治四十年法律第四十八號統監府及關東都督府等在勤官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金

十六　明治四十年法律第四十九號統監府、關東都督府及樺太等在勤巡查、看守及女監取締ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金

十七　明治四十一年法律第三十五號樺太廳立小學校教員退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金

十八　明治四十三年法律第三十號警部補退隱料及遺族扶助料等ニ關スル法律ニ依ル給與金

十九　明治二十七年勅令第百七十三號金瑋勳章年金令ニ依ル給與金

二十　前各號ノ外文官恩給令、陸軍恩給令、海軍恩給令、海軍退隱令其ノ他勅令ニ依ル給與金ノ給與ニ關スル年金恩給ノ給與金

第二條　前條ノ給與金ハ特別ノ場合ヲ除クノ外受給者ノ指定シタル郵便局ニ於テ之ヲ支給ス

第三條　給與金ノ支給期日ハ之ヲ告示ス

第四條　受給者ハ郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ印鑑届ヲ作製シ給與金ノ支給ヲ受クル郵便局ニ差出スヘシ但シ一時限ノ給與ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

受給者印章ヲ改メタルトキハ適宜ノ用紙ニ依リ改印届ヲ作製シ差出スヘシ

第五條　受給者給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ年金證書、恩給證書其ノ他給與ニ關スル證書ヲ支給郵便局ニ呈示シ權利者タルコトヲ證明シタル上郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ作製シタル給與金受領證書ト引換ニ現金ヲ受取ルヘシ

受領者ノ代理人ニ於テ給與金ヲ受取ラムトスルトキハ委任狀ヲ差出シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條　受領者支給期日ヲ經過シタル後ニ於テ給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類及記號番號、給與金高竝指定支給郵便局名等ヲ記載シタル支給請求書ヲ郵便貯金局ニ差出スヘシ

第七條　一時限ノ給與金ヲ受クル者ハ給與金額及支給ヲ受ケムトスル郵便局名等ヲ記載シタル支給請求書ニ給與ニ關スル辭令書ノ寫ヲ添ヘ郵便貯金局ニ差出スヘシ

第八條　受給者第六條又ハ第七條ノ請求ニ對シ郵便貯金局ヨリ支給ノ通知ヲ受ケタルトキハ第五條ノ例ニ依リ現金受領ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條　受給者ハ支給郵便局ニ於テ給與金ヲ受領スル際其ノ給與金ヲ自己ノ郵便貯金ニ振替預入ノ請求ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第五條ノ例ニ依リ權利者タルコトヲ證明シ且給與金受領證書ニハ振替預入ノ旨ヲ附記シ郵便貯金通帳ニ振替預入金ノ記入ヲ受クヘシ

第十條　受給者ハ給與ニ關スル證書ヲ豫メ郵便貯金局ニ寄託シ其ノ給與金ヲ支給期毎ニ自己ノ郵便貯金ニ振替預入ノ請求ヲ爲スコトヲ得

受給者前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ振替預入ヲ受ケムトスル郵便貯金通帳ノ記號番號、給與ニ關スル證書ノ種類及記號番號竝請求ノ要旨ヲ記載シタル請求書ニ給與ニ關スル證書ヲ添ヘ之ヲ支給郵便局ニ差出スヘシ

第十一條　郵便貯金局ニ於テ前條ノ請求ニ依リ給與ニ關スル證書ノ寄託ヲ受ケタルトキハ其ノ保管證書ヲ當該受給者ニ交付ス

第十二條　第十條ニ依リ郵便貯金ニ振替預入ノ請求アリタル給與金ハ其ノ支給期毎ニ郵便貯金局ニ於テ之ヲ受給者ノ郵便貯金ニ組入レ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

受給者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ通知書ニ郵便貯金通帳ヲ添ヘ支給郵便局ニ差出シ通帳ニ振替預入金ノ記入ヲ受クヘシ

第十三條　受給者第十條ニ依ル振替預入ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル届書ニ保管證書ヲ添ヘ之ヲ郵便貯金局ニ差出スヘシ

郵便貯金局ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ保管スル給與ニ關スル證書ハ之ヲ受給者ニ還付ス

第十四條　受給者居所ヲ變更シタルトキハ其ノ届書ニ給與ニ關スル證書ノ種類、記號番號ヲ附記シ支給郵便局ニ差出スヘシ

第十五條　受給者轉居又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ支給郵便局ヲ變更セムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類記號番號及新舊支給郵便局名ヲ記載シタル變更請求書ヲ作製シ新支給郵便局ニ差出スヘシ

郵便局ニ於テ支給郵便局變更ノ手續ヲ了シタルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

附　則

第十六條　本規則ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十三年三月十七日逓信省告示第三百四十二號シタル給與金ニシテ同年五月三十一日迄ニ支給ヲ爲スモノハ仍從前ノ手續ニ依ル

明治四十三年四月ニ於テ支給期ノ到來スル受給者ニ對シテハ郵便貯金局ニ於テ其ノ支給郵便局ヲ指定ス

●年金恩給給與金ノ支給期日　明治四十三年三月十七日逓信省告示第三百四十二號

本年四月以降郵便局所ニ於テ取扱フ年金、恩給、遺族扶助料及退隠料等ノ支給期日ハ當該支給期月ノ十一日ヨリ二十日迄トス但シ東京市内ニ在ル郵便局ニ於テ支給スヘキモノハ左ノ期日ニ依ル

年金

文官恩給、學校職員竝巡査看守退隠料同上遺族扶助料

陸軍竝海軍恩給同上遺族扶助料

一時限ノ給與金ニ付テハ前項ノ期日ニ拘ラス之ヲ支給ス

郵便局所ニ於ケル給與金ノ支給事務取扱時間ハ郵便爲替貯金受拂ノ例ニ依ル

●在外指定學校職員退隠料及遺族扶助料法中主務大臣及領事館ノ管掌ニ屬スル事項ニ關スル件　明治四十二年四月二十六日勅令第百三十七號

在外指定學校職員退隠料及遺族扶助料法中主務大臣及領事官ノ管掌ニ屬スル事項ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ

之ヲ公布セシム

在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法中主務大臣及領事官ノ管掌ニ屬スル事項ハ南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ關東都督之ヲ行フ

第九章　服制、徽章及儀禮

都督府文官服制　明治三十九年八月二十九日　勅令第二百三十二號　改正（四〇、勅二四一號）

朕關東都督府文官服制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

關東都督府文官服制別表ノ通定ム但シ別ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

附則

本令施行ノ期日ハ關東都督之ヲ定ム

（別表）

服制表				
		勅任	奏任	判任
上	地質	黑又ハ茶褐色羅紗但シ夏ハ白又ハ茶褐色布	同上	同上
	製式	立襟一行鈕釦長ジヤケツト形狀如圖	同上	同上
	袖章	縱横六分金色櫻花章三箇ヲ附シ幅四分ノ金線三條ヲ半面ニ纏フ但シ夏ハ白色又ハ茶褐色一分線三條ヲ纏フ	櫻花章二箇ヲ附シ幅四分ノ金線二條ヲ半面ニ纏フ但シ夏ハ白色又ハ茶褐色ノ一分線二條ヲ纏フ餘ハ同上	櫻花章一箇ヲ附シ幅四分ノ金線一條ヲ半面ニ纏フ但シ夏ハ白色又ハ茶褐色ノ一分線一條ヲ纏フ餘ハ同上
衣	肩章	長四寸三分幅一寸七分地質紺又ハ黑羅紗、兩縁及上端縁ハ幅一分五厘ノ圓登金線、縄目縄ヲ施シ上端ノ三角ニテ環形トナシ其ノ中間ニハ幅四分ノ縞織金線三條ヲ縱ニ附シ金色徑四分ノ鈕釦一箇及縱横六分ノ金色櫻花章三箇ヲ附ス肩章差込座ハ幅四分無地織金線一條トス	縞織金線二條ヲ縱ニ附シ櫻花章二箇ヲ附ス餘ハ同上	縞織金線一條ヲ縱ニ附シ櫻花章一箇ヲ附ス餘ハ同上
	鈕釦	櫻花章ヲ彫刻セル徑六分五厘ノ金色鈕釦五箇ヲ前部ニ附ス	同上	同上
袴	地質	黑又ハ茶褐色羅紗但シ夏ハ白又ハ茶褐色布	同上	同上
	製式	普通長袴	同上	同上
帽	地質	黑又ハ茶褐色羅紗	同上	同上
	製式	圓形黑革製前庇及幅四分ノ黑革製顋紐ヲ附シ顋紐ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ徑四分ノ金釦各一箇ヲ以テ留ム、天井喰出ハ幅一分、形狀如圖	同上	同上
	徽章	前章ハ全徑一寸五分ノ金モール製櫻葉十葉ニ當三箇ヲ附シタル枝二本ヲ下部ニテ結ヒ之ヲ抱合セ中央ニ金色櫻花章ヲ附シ帽ノ周圍ニ幅四分ノ縞織金線三條ヲ纏フ	帽ノ周圍ニ幅四分ノ縞織金線二條ヲ纏フ餘ハ同上	帽ノ周圍ニ幅四分ノ縞織金線一條ヲ纏フ餘ハ同上
佩劍		柄白鮫長五寸鞘黑革包長二尺三寸柄鍔胴輪及鐺金具ニ葉附櫻花二箇宛ヲ附シ柄ニ同一箇ヲ附ス金具ハ總テ金色トス	柄鍔胴輪及鐺金具ニ葉附櫻花一箇宛ヲ附ス餘ハ同上	柄黑鮫、柄鍔胴輪及鐺金具ニ花葉ヲ附セス餘ハ同上
劍帶		黑革製幅一寸二分、釣革ハ幅七分其ノ前革長八寸後革長二尺二分前章徑一寸三分周圍ニ葉附櫻花唐草模樣ヲ附シ中央ニ縱横七分ノ金色櫻花章ヲ附ス其ノ他ノ金具ハ總テ金色	同上	同上
劍緒		總頭莖附鞠形、緒金絲丸紐紐徑二分、莖ノ長一寸、鞠ノ長一寸四分、横徑一寸一分	莖ヲ附セス鞠ノ長一寸五分横徑九分餘ハ同上	總頭茶壺形長一寸一分横徑八分總テ銀絲製餘ハ同上
	地質	黑又ハ茶褐色羅紗	同上	同上

外套	製式	折襟胸二重後面ノ裾ヲ割キ後面腰部ニ帶紐ヲ附シ之ニ櫻花章ヲ彫刻セル金色ノ釦七箇ヲ附シ前左右ノ腰部ニ各一箇ノ物入ヲ附ス形狀如圖	同上
	袖章	縱横六分ノ金色櫻花章三箇ヲ附ス	櫻花章二箇ヲ附ス餘ハ同上
	雨覆	黑又ハ茶褐色羅紗	同上

備考

一　此ノ制服ハ大禮服又ハ通常服ニ代用スルコトヲ得

二　此ノ制服ニ肩章ヲ附セサルモノヲ略服トス

三　略服ヲ用ヰル場合ニ於テハ必要アルトキノ外劍及劍帶ヲ佩用セス又ヘルメット形帽ヲ代用スルコトヲ得

四　關東都督府職員中識別ヲ爲スヲ要スルトキハ特別ノ徽章ヲ附スルコトヲ得徽章及其ノ附著方法ハ關東都督之ヲ定ム

●文官服制施行規則　明治二九年九月二日府令第十一號

關東都督府文官服制施行規則左ノ通相定ム

第一條　明治三十九年勅令第二百三十二號關東都督府文官服制ハ明治三十九年九月十日ヨリ之ヲ施行ス

直屬長官ニ於テ止ヲ得スト認ムル者ニハ相當ノ期間ヲ定メ制服ノ著用ヲ猶豫スルコトヲ得

第二條　左ニ揭クル者ハ劍及劍帶ヲ佩用スヘシ

一　廳外ニ於テ人民ニ直接スル職務ニ服スル者

二　其ノ他直屬長官ニ於テ必要トスル職務ニ服スル者

●文官制服襟章　明治十年四月六日府令第十號

關東都督府文官制服襟章左ノ通相定ム

附則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

關東都督府文官制服襟章

	高等官	判任官
民政長官	徑二分五厘ノ金色複瓣櫻花章三箇ヲ一組トシ各一組ヲ襟ノ兩端ニ附ス形狀圖ノ如シ	銀色餘ハ同上
民政部職員	徑四分ノ金色複瓣櫻花章各一箇ヲ襟ノ兩端ニ附ス形狀圖ノ如シ	銀色餘ハ同上
民政署職員	徑四分ノ金色單瓣櫻花章各一箇ヲ襟ノ兩端ニ附ス形狀圖ノ如シ	銀色餘ハ同上
法院職員	徑四分ノ金色桐章各一箇ヲ襟ノ兩端ニ附ス形狀圖ノ如シ	銀色餘ハ同上
郵便電信局職員	徑四分ノ金色星章各一箇ヲ襟ノ兩端ニ附ス形狀圖ノ如シ	銀色餘ハ同上

寸法實大

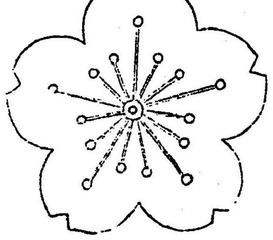
民政長官

民政部職員

民政署職員

法院職員

郵便電信局職員



●文官以下防寒外套腕章

明治九年十月二日告示第三十六號

關東都督府文官以下ノ防寒外套腕章左ノ通相定ム但シ警察官ノ腕章ハ別ニ之ヲ定ム

關東都督府文官以下防寒外套腕章

品質	名稱	形狀	附著スヘキ位置
高等官判任官及雇員囑託員傭人	腕章	縦横一寸五分ノ櫻花章	左腕
金モール、銀モール			
赤地羅紗			

●都督府官吏禮式

明治三年六月三日訓令第八十號　各官廳

關東都督府官吏禮式左ノ通相定ム

關東都督府官吏禮式

第一章　總則

第一條　官吏制服ヲ著用シタルトキハ本令ニ依リ敬禮ヲ行フヘシ

第二條　本令ニ於テ上官ト稱スルハ勅任官、奏任官、判任官及判任待遇者ニ區別シタル階級ノ上ナルモノヲ謂フ但シ職務上監督ヲ受クルモノニ對シテハ其ノ監督官ヲ上官ト看做ス

第三條　官吏ハ上官ニ對シ敬禮ヲ行ヒ上官ハ之ニ答禮シ同僚ハ互ニ敬禮ヲ交換スルモノトス但シ答禮ハ場合ニ依リ單ニ注目ヲ以テ禮意ヲ示スモ妨ナシ

第四條　本令中天皇ニ對スル敬禮ハ太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太子妃及其ノ他ノ皇族ニ對シテモ亦之ヲ準用ス御眞影ヲ奉拜スルトキ亦同シ

外國ノ君主、皇族、大統領ニ對シテハ公式ノ場合ニ限リ前項ニ準ス

第五條　勅使、內外國ノ大臣、大使、公使ニ對シテハ相當ノ敬禮ヲ行フヘシ

第六條　官吏ハ軍旗ニ對シ相當ノ敬禮ヲ行フヘシ

第七條　官吏「君ヶ代」ノ奏樂ヲ聞クトキハ直ニ姿勢ヲ正シ敬意ヲ表スヘシ

第八條　上官ニ對スル單獨ノ敬禮ハ上官タルコトヲ認知シタルトキハ服裝ノ如何ニ拘ヲス之ヲ行フヘシ

第九條　敬禮ヲ行フ際上官二人以上ナルトキハ先ツ其ノ高級者ニ敬禮シ次ニ他ノ上官ニ注目スヘシ

第十條　上官ト同行スルトキハ其ノ左側又ハ後方ニ就クヘシ但シ誘導者ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　狹隘ノ道路、橋梁、廊下、階段等ニ於テ上官ニ出會シタルトキハ途ヲ讓リテ其ノ通過ヲ待ツヘシ

第十二條　碇泊シタル艦船ヲ官吏二人以上訪問セムトシ端艇ニ乘込ムトキハ下級者ヨリ先トシ上陸ノトキハ高級者ヲ先トス

第十三條　艦船ヨリ上陸セムトシ端艇ニ乘込ムトキハ下級者ヲ先トシ上陸ノトキハ高級者ヲ先トス

第十四條　官吏二人以上艦船又ハ汽車ニ乘込ムトキハ下級者ヨリ順次乘込ミ之ニ反シ艦船又ハ汽車ヨリ降下スルトキハ上官ヲ先トス

第十五條　官吏ノ葬送ニ遇ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ柩ニ對シ死者階級相當ノ敬禮ヲ行フヘシ

第十六條　敬禮ヲ受ケタルトキハ其ノ何人タルヲ問ハス之ニ答禮スヘシ

第二章　室內ノ敬禮

第一節　通則

第十六條　室內トハ居室、事務室、應接所等ヲ謂ヒ廊下、階段及庖厨等ハ室外ト看做ス

第十七條　室內ニ入ルトキハ戶外ニ於テ帽及外套ヲ脫スヘシ但シ警察官吏犯人引致又ハ執銃ノトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　室內ノ敬禮ハ受禮者ニ面シテ姿勢ヲ正シ其ノ眼ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ帽ヲ持ツトキハ右手ノ拇指ト食指トニテ前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ帽ノ內部ヲ右股ニ對セシム刀ヲ佩フルトキハ柄ヲ前ニシ左手ヲ乘下シ又執銃ノトキハ受禮者ニ面シ立銃シテ姿勢ヲ正シ其ノ眼ニ注目スヘシ

祭典又ハ會葬等ノ場合ニ於ケル敬禮ハ總テ室內ノ例ニ依ルヘシ

第十九條　室內ニ於テ公事ヲ談スルトキハ下級ノ者ハ椅子ヲ離レテ起チ姿勢ヲ正スヘシ但シ上官ノ許アルトキハ著席スルモ妨ナシ

第二十條　上官ト同席スル場合ニ在リテハ上官ヨリ先ニ椅子ニ寄リ又ハ食卓ニ就キ或ハ之ヲ離レ若ハ喫煙スヘカラス但シ上官ノ許アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二節　天皇ニ對スル敬禮

第二十一條　拜謁スルトキハ御室入口ニ於テ一タヒ敬禮シ御室ニ入リ二タヒ敬禮シ玉座ヲ離ル約六歩ニ進ミ三タヒ敬禮ヲ爲スヘシ

退出ノ際ハ其ノ儘二三步退步シテ敬禮シ右轉回ヲ爲シ御室出口ニ於テ敬禮ヲ爲スヘシ但シ特ニ式アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三節　上官ニ對スル敬禮

第二十二條　上官ノ居室ニ入ルトキハ其ノ席ヲ距ル約六歩ノ所ニ於テ敬禮ヲ行フヘシ其ノ居室ヲ去ルトキ亦同シ

第二十三條　上官ヨリ命令諭告等ヲ承ケ又ハ上官ニ陳述ヲ爲ストキハ前條ニ依リ敬禮ヲ行ヒタル後適宜前進シテ之ヲ承ケ又ハ陳述シ終レハ舊位ニ復シ再ヒ敬禮ヲ行フヘシ

第二十四條　上官ヨリ辭令等ヲ受クルトキハ前條ニ準シ帽ヲ左脇ニ挾ミ右手ヲ以テ之ヲ受ケ左手ヲ副テ披見シ直ニ之ヲ收メ舊位ニ復シテ再ヒ敬禮ヲ行フヘシ

上官ニ書類其ノ他ノ物品ヲ呈スルトキハ前項ニ依リ右手ヲ以テ之ヲ呈スヘシ返納又ハ領諾ヲ受クヘキトキハ舊位ニ復シテ之ヲ待ツヘシ

前二項ノ場合ニ於テ警察官吏執銃スルトキハ左手ヲ以テスヘシ其ノ受ケタル物ヲ其ノ場ニ於テ披見ヲ要スルトキハ銃ハ體ニ托シ右臂ヲ以テ之ヲ支ヘ右手ヲ副ヘテ披見スヘシ

第二十五條　上官居室ニ來リ又ハ居室ヲ去ルトキハ起立敬禮ヲ行ヒ上官著席又ハ退席シタル後著席スヘシ

前項ノ場合ニ於テ警察官吏ハ都督、民政長官、警視總長、警視及所屬上官（直屬ノ監督事務官、民政署長、民政署副署長、民政署事務係長、同支署長、同支署出張所長、警務署長、同支署長）ニ對シテハ先ニ之ヲ認知シタル者「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ爲シ一齊ニ起立敬禮シ「直レ」ノ號令ニ依リ著席スヘ

シ

同級者又ハ下級者居室ニ來リ敬禮ヲ行フトキハ同級ナレハ一旦起立答禮シ下級ナレハ其ノ儘答禮スヘシ

第二十六條　上官ヨリ宴會等ニ招カレ參著及退散ノ際ハ必ス帶劍シテ挨拶ヲナスヘシ但シ上官ノ許アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章　室外ノ敬禮

第一節　通則

第二十七條　室外ノ敬禮ハ受禮者ニ面シテ姿勢ヲ正シ左手ヲ垂下シ右手ヲ擧ケ諸指ヲ接シテ食指ト中指トヲ帽ノ前庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍外面ニ向ケ肘ヲ肩ニ齊クシ其ノ眼ニ注目ス刀ヲ佩フルトキハ柄ヲ後ニシ兩環ノ間ヲ握ル但シ警察官吏ハ左手ヲ以テ拇指ヲ柄頭ニ當テテ刀柄ヲ握リ肘ヲ稍後方ニシ拳ヲ臆骨上部ニ位置セシムルモノトス

警察官吏執銃ノトキハ天皇ニハ捧銃ノ禮ヲ行フ上官ニ對シテハ立銃ノ儘姿勢ヲ正シ頭ヲ受禮者ニ向ケ其ノ眼ニ注目スヘシ

第二十八條　鹵簿其ノ他行列中ニ隨從スル上官ニ對シテハ敬禮ヲ行ハス

第二節　天皇ニ對スル敬禮

第二十九條　行幸、行啓ニ遇フトキハ前驅ノ稍前ヨリ道路ノ一側ニ停止正面シ車駕約六步前ニ近クトキ敬禮ヲ行ヒ約六步過クル迄其ノ姿勢ヲ保ツヘシ又乘馬中ナルトキハ約三十步前ニ下馬シ右手ニ轡ヲ執リ姿勢ヲ正シ注目シ傳令又ハ警衛取締勤務ノ者ハ乘馬ノ儘道路ノ一側ニ停止正面シ姿勢ヲ正シ轡ヲ縮メ馬首ヲ擧ケ擧手注目スヘシ

乘車中ナルトキハ直ニ下車シ前項ニ依リ敬禮ヲ行フヘシ

第三十條　駐蹕ノ許ニ至リ又ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ相當ノ敬禮ヲ行フヘシ

第三節　上官ニ對スル敬禮

第三十一條　行進中上官ニ行遇ヒ又ハ上官ノ傍ヲ通過スルトキハ其ノ儘姿勢ヲ正シ頭ヲ受禮者ノ方ニ向ケ敬禮ヲ行フヘシ但シ巡査以下ノ者ヨリ都督、民政長官、警視總長、警視及所屬上官ニ對シテハ約六步前ヨリ姿勢ヲ正シ三四步前ニ於テ停止シ之ニ面シテ敬禮ヲ行フヘシ

停止中上官其ノ傍ニ來リ又ハ通過スルトキハ之ニ面シテ敬禮ヲ行フヘシ

第三十二條　停止シアル上官ノ許ニ至ルトキハ之ヲ距ル約六步ノ所ニ於テ停止シ之ニ面シテ敬禮ヲ行フヘシ

第三十三條　上官ト同行中用務ノ爲上官ヨリ先行シ又ハ後方ヨリ來リテ先ニ行カムトスルトキハ其ノ旨ヲ告ケテ行進スヘシ同僚ニ對スル場合亦之ヲ禮トス

第三十四條　乘馬中上官ニ行遇ヒタルトキハ駈步又ハ速步行進中ナレハ常步ニ移シ頭ヲ受禮者ニ向ケ擧手注目スヘシ

乘車中ハ其ノ儘姿勢ヲ正シ擧手注目スヘシ但シ自轉車ナルトキハ擧手注目ヲ單ニ注目ニ換ユコトヲ得

第三十五條　乘馬又ハ乘車中上官ヨリ物ヲ受ケ又ハ之ヲ呈シ若ハ受命報告等ノ場合ニ上官乘馬又ハ乘車シアラサルトキハ敬禮ヲ行ヒタル後下乘スルヲ禮トス但シ傳令勤務ノトキ又ハ上官ノ許アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條　上官ヨリ辭令書其ノ他ノ物ヲ受ケ又ハ命令諭告ヲ承ケ若ハ上官ニ物ヲ呈シ又ハ陳述スル場合ノ禮式ハ本章ノ規定ニ背カサル限リ室內ノ敬禮ニ就テ定メタルモノヲ準用ス

第四章　警察部隊ノ敬禮

第一節　通則

第三十七條　部隊トハ人員ノ多寡ニ拘ラス隊伍ヲ組ミタルモノヲ總稱ス

第三十八條　部隊ノ敬禮ハ駈步又ハ途步行進中ナルトキハ速步ニ移リ步調ヲ取リ之ヲ行フヘシ

第三十九條　部隊ヨリ敬禮ヲ受ケタルトキハ其ノ指揮官ニ對シ答禮ヲ行ヒ且ツ其ノ部隊ニ注目スヘシ

第四十條　休憩ノ姿勢ニ在ルトキ上官ヨリ指名セラレ又ハ上官ト對話スルトキハ不動ノ姿勢ヲ執ルヘシ

第四十一條　演習作業又ハ解散シテ休憩中ナル部隊ハ特ニ指示ナキ限リ皇族以上ニハ直ニ隊形ヲ整頓シ第四十四條ニ依リ敬禮ヲ行ヒ上官ニ對シテハ第四十五條ニ依リ其ノ場ニ於テ上官ノ方ニ面シ不動ノ姿勢ヲ執リ注目シ指揮官ハ駈歩ヲ以テ其ノ許ニ至リ次第ヲ陳述スヘシ

第四十二條　演習點檢其ノ他如何ナル場合ヲ問ハス指揮官ヨリ「解レ」ノ號令アリタルトキハ姿勢ヲ正シ指揮官ニ注目シ敬意ヲ表シテ解散スヘシ

第四十三條　儀式祭典等ノ爲其ノ場所ニ整列シタルトキハ皇族以上又ハ其ノ儀式祭典ノ爲ニ行フノ外總テ敬禮ヲ行ハサルモノトス

第二節　天皇ニ對スル敬禮

第四十四條　天皇ニ對シテハ停止間ニ在リテハ車駕約三十歩ノ所ニ來ルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ニテ一同姿勢ヲ正シ「敬禮」又ハ「捧銃」ノ號令ニテ第二十七條ノ敬禮ヲ行ヒ約十五歩通過ノ後「直レ」又ハ「立銃」ノ號令アル迄其ノ姿勢ヲ保ツヘシ

行進間ニ在リテハ直ニ道路ノ一側ニ停止シ前項ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ

第三節　上官ニ對スル敬禮

第四十五條　上官ニ對シテハ停止間ニ在リテハ「氣ヲ付ケ」ノ號令ニテ一同姿勢ヲ正シテ注目シ指揮官ノミ相當ノ敬禮ヲ行フヘシ但シ時宜ニ依リ「頭右(左)」ノ號令ヲ下スヘシ此ノ場合ニ在リテハ頭ヲ一齊ニ受禮者ノ方ニ向ケ上官通過ノ後「直レ」ノ號令ニ依リ頭ヲ正面ニ復スヘシ

行進間ニ在リテハ停止スルコトナク「頭右(左)」ノ號令ニテ前項ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ

第四節　部隊相遇フ場合ノ敬禮

第四十六條　部隊相遇フトキハ互ニ敬禮ヲ行フヘシ

部隊間ノ敬禮ハ行進間ハ「頭右(左)」ノ號令ニテ他隊ニ注目シ停止間ハ「氣ヲ付ケ」ノ號令ニテ隊列ヲ正シテ注目シ總テ指揮官ノミ相當ノ敬禮ヲ行フヘシ

第四十七條　部隊相遇フトキハ其ノ指揮官ノ階級下ナル方ヨリ先ツ敬禮ヲ行ヒ同級ナレハ先後ノ別ナク之ヲ行フヘシ

第五章　船舟ノ敬禮

第四十八條　天皇ニ對シテハ直ニ航進ヲ停メ總員起立シテ敬禮ヲ行ヒ御船過去ルノ後再ヒ航進ヲ始ムヘシ

第四十九條　上官ニ對シテハ常航シ指揮者ノミ起立シテ敬禮ヲ行フヘシ但シ警察船舟ニ在リテハ都督、民政長官、警視總長、警視及所屬上官ニ對シテハ徐航シ總員起立シテ敬禮ヲ行ヒ受禮者ノ乘船過去ルノ後常航ニ復スヘシ

第五十條　帆走ノ船舟ニ在リテハ第四十八條ノ場合ハ總帆ヲ下シ前條但書ノ場合ハ「シート」ヲ伸シタル後敬禮ヲ行フヘシ

端舟ニ在リテハ橈手ハ橈ヲ上ケ注目スヘシ

第五十一條　至急ノ用務ヲ帶ヒ上官ノ乘リタル船舟ヲ乘越ヘ又ハ其ノ前方ヲ横過セムトスルトキハ相當ノ敬禮ヲ行ヒ其ノ事由ヲ告ケテ乘越ヘ又ハ横過スヘシ

第五十二條　同僚ノ乘リタル船舟行遇フトキハ指揮者ノミ互ニ敬禮ヲ行フヘシ

第五十三條　船長、機關手、水夫、火夫等ハ帽ヲ脱シ相當ノ禮ヲ行フヘシ但シ執務上ノ妨ケトナル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六章　敬稱及稱呼

第五十四條　警察官吏ハ直接ト間接トヲ問ハス氏官(職)名ヲ呼ヒ上官ニ對シテハ左ノ敬稱ヲ用ウヘシ

一　勅任官ニ對シテハ閣下
二　奏任官以下ニ對シテハ殿

第五十五條　外國ノ君主、皇族、大統領又ハ內外國ノ大臣、大使、公使ニ對シテハ相當ノ敬稱ヲ用ウヘシ
第五十六條　對話中他ノ上官ニ言及スル場合ハ聽者ニ比シ上級者タルトキニ限リ相當ノ敬稱ヲ用ウヘシ
第五十七條　上官ヨリ下級者ニ對シ又ハ同僚間ニ在リテハ其ノ氏官（職）名ヲ呼フヘシ

附　則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年九月訓令第十二號關東都督府警察禮式及明治四十年一月訓令第二號關東都督府文官禮式ハ之ヲ廢止ス

●官吏禮式ニ關シ都督ノ訓示

明治四十三年九月二十二日

官吏ハ常ニ禮儀ヲ重シ威信ヲ保ツヲ要ス職ヲ本府ニ奉シ特ニ四方人ノ瞻視ヲ享クル者ハ最モ此ニ留意セサルヘカラス本府ハ嚮ニ文官禮式ヲ公布シ之カ勵行ニ勗ムル所アリシモ今般更ニ其ノ細目ニ涉テ之ヲ釐訂シ更ニ官吏禮式ヲ制定シ以テ切實ニ遵由セシメムコトヲ庶幾ヘリ蓋シ禮儀ハ念々此ニ存スルニ非サレハ或ハ放慢ニ陷ルノ虞アリ即チ本禮式ハ主トシテ制服著用者ノ爲ニ規定スト雖本府職員ハ皆當サニ之ヲ以テ準繩トシ苟モ失節ノ擧作アルヲ容サス各官宜ク此ノ旨ヲ體シ倍々之カ實行ヲ勵ム可シ

●都督府警察官服制

明治四十三年五月二十日　勅令第二百五十一號

旅關東都督府警察官服制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

關東都督府警察官服制別表ノ通改正ス

附　則

本令施行ノ期日ハ關東都督之ヲ定ム

本令施行前巡査ニ給與シタル制服ハ其ノ使用期間內之ヲ著用セシムルコトヲ得

（別表）

服制表

名稱		警視	總長	警視	警部	警部補	巡査
帽	地質	黑絨	同	同	同	同	同
	製式	下部表色絨又ハ布 日覆ハ茶褐色ノ絨又ハ布 圓形下部高一寸七分其ノ上下及横章ノ分界ニ各一分地質ト同色ノ玉緣ヲ附ス前庇圓形黑革製蓑骨幅正面ニ於テ一寸六分下緣ニ俯角六十度ニ斜出シ頂部ハ黑革製幅三分五厘ノ兩端ヲ圓形內日章ノ金色釦各一箇ニテ留ム形狀圖ノ如シ	上同	上同	上同	上同	上同	上同
	徽章	前章ハ中心ヨリ尖頭ニ至ル五分五厘金色略日章横章二分金色蛇腹織線三條ヲ大線一條ト最下部玉緣ニ沿ヒテ附シ其上幅二分金色蛇腹織線小線三條ヲ各玉緣ヲ隔テテ附ス形狀圖ノ如シ	蛇腹織小線二條餘ハ同上	蛇腹織小線一條餘ハ同上	蛇腹織小線ヲ附セス餘ハ同上	横章幅一分五厘銀茶色蛇腹織組絲二條ヲ中央部ヘ間隔二分ニ縫著ス餘ハ同上	横章ノ分界ニ玉緣ヲ附セス餘ハ同上
上衣	地質	夏衣ハ茶褐色ノ絨又ハ布	同	同	同	同	同
	製式	立襟幅一寸四分一行釦七箇長腹骨上端ヨリ下ルコト八寸上下部縫際度骨ヨリ上ルコト五分後裂ハ上下部縫際ニ止ム左右胸部ニ各一箇ノ物入及左側腰部ニ一箇ノ刀帶留ヲ附シ物入ニハ蓋ヲ附ス袖長腕關節ニ釦六箇トス形狀圖ノ如シ	上同	上同	上同	上同	立襟幅一寸四分ジャケツト一行釦五箇長腹骨上端ヨリ下ルコト五寸脇部左右及腰部ニ各一箇ノ物

	衣				袴		刀	
	肩章	袖章			地質	製式	通常	水上及
					黒絨	通常長袴及短袴形状圖ノ如シ	柄黒革金線巻金具ヲ附ス	
夏衣ハ立襟幅右ニ同シヤツト一行鈕五筒長腰骨上端ヨリ下ルコト五寸胸部左右及腰部ニ各一筒ノ物入ヲ附シ形状圖ノ如シ	側章黒色絨夏袴ハ茶褐色ノ絨又ハ布	幅二分金色蛇腹織線三條ヲ大袖一條袖口ヨリ四寸前半面ニ附シ之ヲ折返シテ幅二分金色蛇腹織小線三條ニ各間隔二分ニ縫著ス形状圖ノ如シ	夏衣ハ袖口ヨリ四寸ノ前半面ニ幅一分地質ト同色ノ吹出ヲ附シ之ヲ折返シテ幅二分金色蛇腹織小線三條ニ各間隔二分ニ縫著ス形状圖ノ如シ	蛇腹織小線二條ヲ大袖一條袖口ヨリ四寸前半面ニ附シ之ヲ折返シテ幅二分金色蛇腹織小線三條ニ各間隔二分ニ縫著ス形状圖ノ如シ	同上	同上	同上	同上
夏衣ハ略日章二筒ヲ附ス餘ハ同上	長五寸地黒色絨周圍金線繍目撚肩章ニ近ク幅四寸総長三寸徑二分五厘ノ総座ニ略日章一筒ヲ附ス餘ハ同上	長五寸地黒色絨周圍金線繍目撚肩章ニ近ク幅四寸総長三寸徑二分五厘ノ総座ニ略日章一筒ヲ附ス餘ハ同上	長五寸地黒色絨周圍金線繍目撚肩章ニ近ク幅四寸総長三寸徑二分五厘ノ総座ニ略日章一筒ヲ附ス餘ハ同上	長五寸地黒色絨周圍金線繍目撚肩章ニ近ク幅四寸総長三寸徑二分五厘ノ総座ニ略日章一筒ヲ附ス餘ハ同上	同上	同上	同上	同上
夏衣ハ略日章一筒餘ハ同上	夏衣ハ略日章ヲ附セス餘ハ同上	夏衣ハ略日章ヲ附セス餘ハ同上	夏衣ハ略日章ヲ附セス餘ハ同上	蛇腹織小線一條餘ハ同上	同上	同上	同上	同上
夏衣ハ略日章ヲ附セス餘ハ同上	夏衣ハ略日章ヲ附セス餘ハ同上	夏衣ハ略日章ヲ附セス餘ハ同上	夏衣ハ略日章ヲ附セス餘ハ同上	蛇腹織小線ヲ附セス餘ハ同上	同上	同上	同上	同上
夏衣ハ略日章ヲ附セス餘ハ同上	夏衣ハ略日章ヲ附セス餘ハ同上	夏衣ハ略日章ヲ附セス餘ハ同上	夏衣ハ略日章ヲ附セス餘ハ同上	幅一分五厘銀茶色蛇腹織絹線ヲ附セス中面ニ縫著ス形状圖ノ如シ夏衣ハ袖口ヨリ四寸ノ前半面ニ幅一分地質ト同色ノ吹出ヲ附シ之ヲ折返シテ幅二分金色蛇腹織小線三條ヲ同隔二分ニ縫著ス形状圖ノ如シ	同上	同上	同上	同上
夏衣ハ略日章ヲ附セス餘ハ同上	夏衣ハ略日章ヲ附セス餘ハ同上	夏衣ハ略日章ヲ附セス餘ハ同上	夏衣ハ略日章ヲ附セス餘ハ同上	周圍銀茶色絹糸巻縁ヲ附セス肩當上端ニ近ク銀色徑四分ノ総座ニ中心ヨリ尖頭ニ至ル三分銀色略日章一筒ヲ附ス餘ハ同上	同上	同上	同上	同上
夏衣ハ略日章ヲ附セス餘ハ同上	夏衣ハ略日章ヲ附セス餘ハ同上	夏衣ハ略日章ヲ附セス餘ハ同上	夏衣ハ略日章ヲ附セス餘ハ同上	入ヲ附ス胸部ノ物入ニハ蓋ヲ附ス形状圖ノ如シ	同上	同上	同上	同上

	刀			外套				
	刀	刀緒		甲種			乙種	
	帶	正緒	常緒	地質	袖章	製式	地質	製式
消防用	黒革製裏紅色幅一寸二分締環幅五分金具総テ金色前金具徑一寸五分圓形内日章葉附櫻花各一筒ニテ左右ヨリ各一尺三寸兩端各六分長一寸折返シ上部ニ掛鈎ヲ附ス形状圖ノ如シ	総テ金糸製丸組徑二分長三尺二寸ヲ折返シ其ノ端ニ總一筒ヲ附ス總頭ハ徑一寸五分徑一寸堅及締堅ヲ附セス餘ハ同上	総テ黒絹糸製餘ハ正緒ニ同シ	折襟胸二重二行鈕各六筒左右腰部ニ物入各一筒後面腰部ニ帶絡ヲ附シ鈕八筒裾割一尺五寸袖長一尺袖ヨリ長キコト一寸五分形状圖ノ如シ冬ハ毛皮ノ襟ヲ附スルコトヲ得	地質ト同色ノ吹出ヲ附シ其ノ下ニ五分金色蛇腹織線二條ヲ附シ之ヲ折返シテ幅一分金色ニ縫著ス中心ヨリ尖頭ニ至ル三分金色略日章三筒ヲ附ス形状圖ノ如シ	通常長マント形折襟前隠鈕後面裾ヲ割クコトヲ得	黒絨	雨覆甲種外套ニ同シ
同上	裏藍色餘ハ同上	同上	同上	腰部鈕七筒餘ハ同上	略日章一筒餘ハ同上	同上	同上	同上
無地桐葉形銀鍍一筒ヲ附シ裏ハ金具ヲ附ス形状圖ノ如シ	茶褐色革製前金具ヲ附セス餘ハ同上	総テ茶褐革製時幅二分五厘長尺四寸ヲ折返シ其ノ端ニ同質ノ総ヲ附ス総頭長二寸徑六分搭ヲ附ス形状圖ノ如シ	正緒ニ同シ	腰部鈕五筒餘ハ同上	略日章二筒餘ハ同上	同上	同上	同上
					略日章ヲ附セス餘ハ同上	同上	同上	同上
					略日章一筒餘ハ同上	同上	同上	同上
					略日章ヲ附セス餘ハ同上	同上	同上	同上
					略日章一筒ヲ附ス形状圖ノ如シ	同上	同上	同上

衣釦	釦	金色徑六分圓形内日章藥研彫地不見形狀圖ノ如シ	同	上	同	上	同	上	同
	物入及刀帶前釦	金色無地徑五分形狀圖ノ如シ	同	上	同	上	同	上	同
外套釦	釦	金色徑六分五厘圓形内日章地斜線形狀圖ノ如シ	同	上	同	上	同	上	同
		雨覆ハ徑五分餘ハ同上	同	上	同	上	同	上	同

備考

一　靴ハ總テ黒色革製トス

二　職務上識別ヲ要スル場合ハ特別ノ徽章ヲ附スルコトヲ得其ノ徽章ハ關東都督之ヲ定ム

三　防寒又ハ防水ノ爲必要ト認ムルトキハ特別ノ外套ヲ兼用スルコトヲ得其ノ製式ハ關東都督之ヲ定ム

（服圖略ス）

警察官服制施行期日

明治四十三年七月一日勅令第二百五十一號關東都督府警察官服制ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ警部以上ニハ明治四十三年九月末日迄從前ノ制服ヲ著用セシムルコトアルヘシ

明治三十七年勅令第二十三號
明治四十四年府令第三十七號

警察官防寒外套制式

關東都督府警察官ノ防寒外套制式左ノ通相定ム

關東都督府警察官防寒外套製式圖

地質	制式	胸章	腹面	頭巾	胴裏	附囊
茶褐毛布織	折襟胸二重ホック止左右ノ腹部ニ物入各一筒ヲ設ケ後面縫ヒ目ヨリ裁チ切リ茶褐色帶ヲ附シ胴廻リニ掛鉤ヲ以テ前面ニ結ヒ襟ノ内ニ毛皮ヲ附ス形狀圖ノ如シ	左胸ニ縫附ス地質茶褐絨赤黒線入紗ヲ用フ形狀圖ノ如シ	茶褐色メリヤス製形狀圖ノ如シ	茶褐毛絨形狀圖ノ如シ	裏毛皮、表茶褐布前面中央ニ物入一筒ヲ設ク形狀圖ノ如シ	皮底、裏布、表著縁内部ニ縫ヒ入ル形狀圖ノ如シ

（圖例略ス）

警察官防水外套製式

明治三十七年二月二十日告示第二十一號

關東都督府警察官防水外套製式左ノ通相定ム

關東都督府警察官防水外套製式圖例

地質	製式
黒防水布裏護謨	通常外套形左胸ニ一筒右脇下ニ一筒ノ袋付物入ヲ附シ左脇下部切明ケ五寸、袖ハ長サ兩腕指頭ニ至ル形狀圖ノ如シ頭巾ハ前口護謨絞トス形狀圖ノ如シ

（圖例略ス）

警察官服裝規程

明治三十七年七月二日訓令第五十四號　民政部、兵務署

關東都督府警察官服裝規程左ノ通定ム

關東都督府警察官服裝規程

第一條　警察官ノ服裝ヲ別テ正裝、禮裝、常裝ノ三種トス

第二條　正裝ハ帽、衣（夏衣ヲ以テスル場合ヲ含ム）、長袴（夏袴ヲ以テスル場合ヲ含ム）、肩章、刀、正緒、手套及下襟ヲ著裝シ短靴（巡査ハ長靴）ヲ穿チ禮裝ハ帽、衣（夏衣ヲ以テスル場合ヲ含ム）、袴、肩章、刀、常緒、手套及下襟ヲ著裝シ短靴（巡査ハ長靴）ヲ穿チ常裝ハ帽、衣、袴、刀、常緒、手套及下襟ヲ著裝シ

巡査ハ靴ヲ穿ツモノトス
長靴

炎暑ノ際禮裝スヘキ場合ニ於テハ夏衣ヲ以テ代用スルコトヲ得

第三條　正裝ハ一般ニ大禮服ヲ著スヘキ場合禮裝ハ通常禮服ヲ著スヘキ場合常裝ハ通常勤務ノ場合ノ服裝トス

第四條　夏衣ヲ著スルトキハ夏袴及日覆ヲ用ウヘシ

第五條　夏衣ヲ著スル期間ハ六月一日ヨリ九月末日迄トス但シ土地ノ狀況ニ因リ伸縮スルコトヲ得

第六條　短袴ハ長靴又ハ草鞋及卷脚袢ノ場合ニ著用ス

等七條　刀帶ハ警部補以上ニ在テハ衣ノ上ニ締メ巡査ハ衣ノ下ニ締ムルモノトス但シ警部補以上ニシテ夏衣ヲ著スルトキハ衣ノ下ニ締ムヘシ

第八條　刀ハ鍔ヲ刀帶ノ鉤ニ掛ケ乘馬ノ場合ニ在リテハ之ヲ掛ケサルモノトス

第九條　手套及下襟ハ白色トス但シ手套ハ常裝ニ限リ黑、茶又ハ鼠色ノモノヲ用ウルコトヲ得

第十條　乘馬ノ場合長袴ヲ著スルトキハ留革「スーピエー」ヲ附ス

第十一條　長途ノ旅行其ノ他必要ノ場合ニ在テハ黑絨卷脚袢ヲ著ケ短靴又ハ草鞋ヲ用ウルコトヲ得

第十二條　外套ヲ携帶スルトキハ附屬品ヲ其ノ內ニ納メ適宜之ヲ捲收シ乘馬ノ場合ニ在テハ後鞍ニ附ケ徒歩ノ場合ニ在テハ其ノ兩端ヲ結束シ左肩ヨリ右腋下ニ掛クヘシ

第十三條　巡査ノ手帖ハ衣ノ左上物入、警笛ハ右下物入、捕繩ハ袴ノ右物入ニ納ムヘシ

外套ヲ著スルトキハ手帖及警笛ハ其ノ右物入ニ納ムヘシ

第十四條　銃器ヲ携帶スルトキハ彈藥盒ハ衣又ハ外套ノ上ニ帶フヘシ

第十五條　儀式、操練等ノ場合ニ在テハ一齊ノ服裝ヲ爲スヘシ巡査二人以上同一場所ニ在テ勤務スル場合亦同シ

◉巡捕服制

明治三十九年五月十一日　警務部
閣東州民政署訓令第十五號　支署

閣東州民政署巡捕服制左ノ通相定ム

閣東州民政署巡捕服制

名稱	地質	前章	前章	庇頤紐	製式	形狀
帽	黑又ハ濃紺絨	鍔	表黑裏萌黃	黑革幅四分卸其端略日章徑三分	頂端ニ緋絨喰ミ出シヲ附ス	圖ノ如シ

名稱	地質	袖章		製式	形狀
		質	製式		
冬衣	黑繻子	地質黃絨黑毛機線幅二分二條	袖口ヨリ前半面ニ緋絨四寸ヲ附シ之ニ副テ緋絨ヲ附ス其ノ間隔ハ二分トス	立襟一寸二分物入前面左右竝左胸部ノ表面ニ各一箇ヲ附シ兩腋ノ下端五寸ヲ裂ク其ノ他支那移ノ製法ニ倣フ	圖ノ如シ
		袖口ヨリ四寸二分ノ前半面ニ白モール線ヲ附ス巡捕長ハ線ノ間隔ヲ二分トス	緋絨線ヲ附スル線ノ間隔ハ二分トス		
冬袴	右ニ同シ			支那褲ノ製法ニ倣フ	右ニ同シ
夏衣	カーキー色綿布	白モール線幅四分巡捕長二條巡捕一條		右ニ同シ	右ニ同シ
夏袴	右ニ同シ			冬衣ニ同シ	右ニ同シ
				冬袴ニ同シ	右ニ同シ

外套	絨（色適宜）	緋絨線幅五分 巡捕長二條 巡捕一條	袖口ヨリ五寸ノ前半面ニ緋絨線ヲ附ス 巡捕長ハ線ノ間隔ヲ二分トス	長サ踵ノ上際ヲ距ル約八寸袖ハ長サ腕關節ヨリ延ルコト一寸物入ハ前面左右各一箇ヲ附ス角鈕前面一行五箇背面一箇	右ニ同シ
附記	必要ト認ムルトキハ刀又ハ劍ヲ佩用セシムルコトアルヘシ但シ其ノ製式ハ適宜トス 教習中ノ者及特種ノ勤務ニ服スル者ニハ徽章ヲ附スルコトヲ得				

（服圖略ス）

◉警察旗及警察官吏提燈徽章　明治三十九年十月七日 訓令第四十九號　民政部、民政署 警務署

關東都督府警察旗及警察官吏提燈徽章別記圖例ノ通相定ム但シ別記圖例ハ別ニ之ヲ頒ツ

◉海務局囑託員及雇員服制　明治四十二年十一月二日 告示第百號

關東都督府海務局囑託員及雇員服制左ノ通相定ム

囑託員雇員服制

名稱	種別	囑託員	雇員
帽	地質	黑羅紗	同上
	製式	圓形ニシテ黑革製ノ前庇及副四分ノ黑革顋紐ヲ附シ顋紐ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ徑四分ノ金鈕釦各一箇ヲ以ケ留ム天井喰出ハ副一分トス圖ノ如シ	同上
	徽章	全徑一寸五分ノ金モール製櫻葉十枚ニ當三箇ヲ附シタル枝二本ヲ下部ニテ結ヒ之ヲ抱キ合セ中央ニ海務局旗章一箇ヲ附ス但シ竪八分幅六分櫻花徑三分トス又帽ノ周圍ニ幅一寸ノ黑毛織線一條ヲ附ス圖ノ如シ	同上
衣	地質	紺又ハ黑羅紗但シ夏ハ白又ハ紺色布	同上
	製式	立襟ホック掛長ジヤケット幅六分ノ黑毛織線ヲ附ス物入ハ二箇又ハ三箇トス圖ノ如シ	同上
	袖章	袖口ヨリ三寸五分ノ前半面ニ幅五分ノ黑毛織線一條ヲ附ス圖ノ如シ	同上
袴	地質	紺又ハ黑羅紗但シ夏ハ白又ハ紺色布	同上
	製式	普通	同上
外套	地質	紺又ハ黑羅紗	同上
	製式	折襟胸二重背面ノ裾ヲ割キ背面腰部ニ帶緒ヲ附シ之ニ櫻花章ヲ彫刻セル金色ノ鈕釦七箇ヲ附シ同一ノ鈕釦ヲ前二行一行六箇ヲ附シ前左右ノ腰部ニ各一箇ノ物入ヲ附ス圖ノ如シ	同上
	雨覆	紺又ハ黑羅紗	同上

（服圖畧ス）

◉海務局船員服制　明治四十二年十一月二日 告示第百一號

關東都督府海務局船員服制左ノ通相定ム

船員服制

名稱	種別	船長又ハ機關士	舵取、油差、水夫、火夫
帽	地質	紺又ハ黑羅紗	同上
	製式	圓形ニシテ黑色ノ前庇及支革ヲ附シ支革ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ各一箇ノ鈕釦ヲ以テ止ム圖ノ如シ	圓形水兵帽形ニシテ顋紐ヲ附シ前庇ヲ附セス
	徽章	全形一寸五分ノ金モール製櫻葉十枚ニ當三箇ヲ附シタル枝二本ヲ下部ニテ結ヒ之ヲ抱キ合セ中央ニ銀モール製ノ海務局旗章一箇ヲ附ス但シ竪八分幅六分櫻花徑三分トス又帽ノ周圍ニ幅一寸ノ黑毛織線一條ヲ附ス圖ノ如シ	帽ノ周圍ヲ縫フ黑布ノ前半周ニ關東都督府海務局ノ八字及其ノ先端ニ海務局ノ旗章ヲ金色ニテ現ハス

衣	地質	紺又ハ黒羅紗但シ夏ハ白又ハ紺色布
	製式	立襟一行釦釦長ジャケット圖ノ如シ
	袖章	二分ノ間隙ヲ置キ前半面ニ幅四分ノ黒毛繻絨二條ノ間ニ船長ノ職務ヲ取扱フモノハ紫絨ヲ附ス圖ノ如シ
	釦釦	銀色圓形五分五厘一行五箇圖ノ如シ
袴	地質	紺又ハ黒羅紗但シ夏ハ白又ハ紺色布
	製式	普通
外套	地質	紺又ハ黒羅紗
	製式	折襟胸二重圖ノ如シ
	袖章	船長ノ職務ヲ取扱フモノハ幅二分ノ白絨一條機關士ノ職務ヲ取扱フモノハ幅二分ノ紫絨一條ヲ附ス圖ノ如シ
	釦釦	金色櫻花ノ釦釦ヲ二行ニ一行六箇背面腰部左右各三箇中央ニ一箇ヲ附ス圖ノ如シ

同上	水兵服ニ倣フ
同上	
同上	
同上	
立襟	
前面一行六箇背面腰部ニ一箇ヲ附ス圖ノ如シ	

（服圖略ス）

●海務局官吏ノ腕章

明治二十年十月二日
告示第九十九號

關東都督府海務局官吏ノ腕章左ノ通相定ム

關東都督府海務局官吏腕章制式圖例

地質　羅紗青地

徽章　全徑一寸金モール製櫻葉十枚ニ當三箇ヲ附シタル枝二本ヲ下部ニテ結ヒ之ヲ抱キ合セ中央ニ海務局旗章一箇ヲ附ス但シ竪六分幅五分櫻花徑三分トス

腕章雛形

●都督府典獄監吏及看守服制竝提燈徽章

明治三十七年十月二十日
勅令第二百七十七號

關東都督府典獄監吏及看守服制竝提燈徽章ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

附則

本令施行ノ期日ハ關東都督之ヲ定ム

（別表）

關東都督府典獄監吏及看守服制竝提燈徽章

名稱	地質	日章	眼庇	頸	紐	横	章	製式	形狀
帽	典獄	上部茶褐絨 下紐濃緋絨	黒革幅三分卸金色圓形内ニ櫻花章ヲ附ス	金色徑一寸	金線平打四分二條銀線平打三分一條銀線ヲ中間ニシ上下一分ヲ隔テ金線ヲ附ス				如圖
	監吏	同	同	革表黒裏黄徑三分	天井吹出シ霞色絨トス				
	看守	同	同	同	金線平打三分一條銀線平打三分一條金線ノ下二分ヲ隔テ銀線ヲ附ス	横章ヲ附セス	同	同	同
衣	典獄	茶褐絨 夏ハ茶褐色晒布 （品質適宜）	金色圓形内ニ櫻花章ヲ附ス徑五分五厘胸部ニ五箇ヲ附ス	茶褐平打大線幅五分小線幅二分	大線一條ヲ上端ニ沿フテ附シ一分ヲ隔テ小線一條ヲ附ス	金線四分一分蛇腹組二條（銀線四條ヲ竝合ス）	二條ヲ軸口ヨリ上ル二寸五分ノ所ニ附ス線間二分下部金線ノ下三分ヲ隔テ櫻花章二箇ヲ附ス夏衣ハ茶褐平打線ト	同	如圖
	監吏	同	同	同	大線一條ヲ上端ニ沿フテ附シ小線一條ヲ下端ニ附ス	金線幅三分銀線幅三分一分蛇腹組金線一條ヲ中間ニシ一分ヲ隔テ銀線一條ヲ竝行ス	金線一條ヲ軸口ヨリ上ル二寸五分ノ所ニ附シ上部二分ヲ隔テ銀線一條ヲ附ス下部金線ノ下三分ヲ隔テ櫻花章一箇ヲ附ス	同	同
	看守	同	眞鍮徑七分五厘餘ハ同	同	同	黄絨幅二分眞鍮堰花章徑五分	一條ヲ軸口ヨリ上ル二寸五分ノ所ニ附ス線間二分下三分ヲ隔テ櫻花章看守部長ハ二箇ヲ附ス	同	同

名稱	地質	裝章式	製式	形狀
袴	典獄	同上	同	如圖
	監吏	同	同	同
	看守	同	同	同
甲種外套	典獄	黒絨又ハ茶褐絨裏絣（品質適宜）	金色圓形内ニ櫻花章ヲ附ス徑七分五厘胸部六箇側部六箇黒絨徑五分五厘櫻部五箇ヲ附ス	如圖
	監吏	同上（裏黒又ハ茶褐（品質適宜）	同	同
	看守	黒絨（品質適宜）	眞鍮餘ハ同	同
日覆	典獄	茶褐布（品質適宜）	帽ノ形ニ從ヒ上部ノミヲ覆フ	如圖
	監吏	同	同	同
	看守	同	同	同

乙種外套、肩章、刀帶、正絣及常絣竝提燈徽章ハ明治二十九年勅令第三百六十六號ニ依ル

（服圖略ス）

●典獄監吏及看守服制竝提燈徽章施行期日

明治三十九年勅令第二百七十七號關東都督府典獄監吏及看守ノ服制竝提燈徽章ハ明治三十九年十二月一日ヨリ施行ス

明治三十九年十月七日
府令第二十八號

リ之ヲ施行ス

●典獄監吏及看守服裝規程

明治三十九年十一月三日　訓令第五十六號　民政部

關東都督府典獄監吏及看守服裝規程左ノ通相定ム

關東都督府典獄監吏及看守服裝規程

第一條　典獄、監吏ノ服裝ヲ分テ正裝、禮裝、常裝ノ三種トシ看守ノ服裝ハ分テ正裝、常裝ノ二種トス

第二條　典獄、監吏ノ正裝トハ帽、衣、袴、肩章、刀、正緒、手套、下襟ヲ著裝スルヲ謂ヒ看守ノ正裝トハ帽、衣、袴、肩章、刀、手套及下襟ヲ著裝スルヲ謂フ但シ夏衣、夏袴ハ正裝ニ用ウルコトヲ得ス

第三條　典獄、監吏ノ禮裝トハ帽、衣、袴、刀、正緒、手套及下襟ヲ著裝スルヲ謂フ

第四條　典獄、監吏ノ常裝トハ帽、衣、袴、刀、常緒、手套、下襟ヲ著裝スルヲ謂ヒ看守ノ常裝トハ帽、衣、袴、刀、手套及下襟ヲ著裝スルヲ謂フ

第五條　正裝ハ儀式、祭典等總テ大禮服著用ノ場合ニ著用スルモノトス但シ典獄ニ在リテハ大禮服ヲ著用スルモ妨ナシ

第六條　禮裝ハ通常禮服著用ノ場合ニ著用スルモノトス

第七條　常裝ハ通常勤務ノ場合ニ著用スルモノトス

第八條　夏衣夏袴ハ炎暑ノ際（凡六月一日ヨリ九月末日マテノ間以下同シ）著用スルコトヲ得ルモノトス但シ夏衣ヲ著用スルトキハ夏袴ヲ著用スヘシ

第九條　夏袴ハ炎暑ノ際正裝ヲ除キ何レノ服裝ニモ之ヲ著用スルコトヲ得

第十條　典獄、監吏及看守ノ甲種外套ハ雨雪ノ際又ハ防寒ノ爲ニ用ウルモノトス但シ儀式祭典ノ場所及上官ノ室內ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　典獄、監吏及看守ノ乙種外套ハ雨雪ノ際甲種外套ノ上ニ用ウルモノトス但シ時宜ニ依リ乙種外套ノミヲ用ウルモ妨ケナシ

第十二條　雨覆ハ雨雪ノ際外套ニ附著シテ用ウルモノトス

第十三條　日覆ハ炎暑ノ際用ウルモノトス

第十四條　典獄、監吏ノ刀ハ上部ノ鐶ヲ刀帶ノ釣金ニ掛クルモノトス

第十五條　手套ハ白又ハ茶褐色下襟ハ白色ノモノヲ用ウルモノトス

第十六條　靴ハ長、短ノ二種トシ革製トス

長靴ハ黑又ハ茶褐色トシ雨雪泥濘ノトキ、短靴ハ黑色トシ長靴ヲ用キサル場合ニ用ウルモノトス長途ノ旅行又ハ外役囚戒護等ノ際ニ於テハ鞋脚袢ヲ以テ靴ニ代用スルコトヲ得

第十七條　外套ヲ携帶スルニハ附屬品ヲ內ニ納メ適宜捲收シ兩端ヲ結束シ左肩ヨリ斜ニ右腋下ニ掛クルモノトス

●通信官署現業員及傭人制服規程

明治四十三年三月三十一日　訓令第十五號　通信官署（郵便所ヲ除ク）

關東都督府通信官署現業員及傭人制服規程左ノ通定ム

關東都督府通信官署現業員及傭人制服規程

第一條　本規程ニ於テ現業員ト稱スルハ鐵道郵便係員、監視員、通信工手ヲ謂ヒ傭人ト稱スルハ通信夫、通信職工、通信工夫、信使、給仕、職工、小使、定夫ヲ謂フ

第二條　現業員及傭人ニハ制服ヲ貸與シ服務中之ヲ著用セシムヘシ其ノ圖式及保存期間ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

臨時補充ノ現業員及傭人ニハ制服ヲ貸與セサルコトアルヘシ

監視員ニハ所屬局所長ニ於テ必要ト認ムルトキハ服務中制服ヲ著用セシメサルコトヲ得

第三條　通信管理局長ニ於テ特ニ必要ト認ムルトキハ監視員及通信夫ニ限リ適當ノ被服ヲ貸與スルコトヲ得

第四條　制服ニハ內部ニ白布ヲ縫著シ著用者ノ氏名及貸與ノ年月日ヲ貸與ノ際記載スヘシ

第五條　制服ヲ著用スルトキハ靴ヲ穿ツヘシ但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　監視員ノ市外巡回、通信工手、通信職工、通信工夫ノ市外工事就業及通信夫ノ市外集配ニハ草鞋ヲ代用スルコトヲ得

二　信使、給仕、職工、小使、定夫ニハ室內勤務ノトキニ限リ上履ヲ代用スルコトヲ得

第六條　制服ノ著用期間ハ左ノ區別ニ依ル但シ氣候ノ寒暖ニ依リ當該局所長ニ於テ必要ト認ムルトキハ通信管理局長ノ認可ヲ受ケ之ヲ伸縮スルコトヲ得

夏服　自六月一日　至九月三十日

冬服　自十月一日　至翌年五月三十一日

第七條　給仕、職工、小使、定夫ニハ靴料トシテ月額金四十錢ヲ給スヘシ但シ臨時補充者ニハ之ヲ給セス

靴料ハ日割計算ヲ爲サス月額ヲ給ス全月缺勤シタル者ニハ其ノ月分ヲ給セス

靴料ハ每三箇月分ヲ取纏メ翌月十日マテニ之ヲ給ス但シ轉免死亡ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　制服著用ノ場合ニハ其ノ上ニ私服ヲ纏ヒ若ハ職務上必要ナラサル物品ヲ携帶シ又ハ私事ヲ辨スルコトヲ得ス

第九條　制服ノ保存期間ヲ經過シタルトキハ更ニ代品ヲ貸與ス其ノ落品ハ新規貸與ノ分ト取交セ著用スヘシ」

保存期間ヲ經過シタル制服ハ其ノ次ノ著用期間ヲ過キタル後其ノ期間ナキモノハ一箇年ヲ過キタル後徽章ヲ除キ現品ヲ給與ス但シ臨時補充ノ現業員及傭人ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

保存期間內ニ制服ヲ亡失シ又ハ毀損汚穢シテ使用ニ堪ヘサルニ至ラシメタルトキハ更ニ代品ヲ貸與スヘシ

第十條　制服ノ貸與ヲ受ケタル者轉免死亡シタルトキハ速ニ其ノ貸與品ヲ返納セシムヘシ

前項ノ返納ヲ受ケタル制服ニ對シテハ更ニ相當保存期間ヲ定ムヘシ

第十一條　制服ハ大切ニ之ヲ取扱ヒ毀損汚穢シタルトキハ自費ヲ以テ洗濯修補セシムヘシ

制服ハ私ニ交換貸借スヘカラス

第十二條　當該局所ニ於テハ一箇月一回以上制服保存ノ適否及毀損汚穢ノ有無ヲ點檢スヘシ

第十三條　故意怠慢ニ因リ制服ヲ亡失シ又ハ毀損汚穢シテ使用ニ堪ヘサルニ至ラシメタルトキハ左ノ標準ニ據リ之ヲ辨償セシム

一　保存期間內ナルトキハ原價ヲ其ノ期間日數ニ對スル金額保存期間經過後ナルトキハ事實發生當時ノ評價但シ制服ノ內上衣若ハ袴等一部ノ毀損汚穢又ハ亡失ニ止マルトキハ其ノ毀損汚穢又ハ亡失シタル部分ニ對スル金額又ハ評價

一　徽章ハ原價又ハ評價

附則

第十四條　本規程ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條　舊規程ニ依ル制服ハ當分ノ內使用及貸與スルコトヲ得

第十六條　明治三十九年十二月訓令第六十八號同四十年六月訓令第三十九號ハ之ヲ廢止ス

現業員制服

品名	員數	保存期間	貸與制限
帽	一箇	一年	判任官及衆務者ヲ除ク

帽日覆	一箇	一年	同
夏服	一組	一年	同
冬服	一組	一年	同
外套	一組	二年	同
防寒外套	一組	三年	監視員、通信工手ニ限リ貸與ス
胸章	一箇		判任官ニシテ鐵道郵便係員、監視員タルモノニ貸與ス

傭人制服

品名	員數	保存期間	貸與制限
帽	一箇	夏帽ヲ貸與スルモノハ二年 貸與セサルモノハ一年	
夏帽	一箇	二年	通信夫、通信工夫ニ限リ貸與ス
帽日覆	一箇	一年	夏帽ヲ貸與セサルモノニ限ル
夏服	二組	二年	
冬服	一組	一年	
外套	一組	二年	通信夫ヲ除ク
防寒外套	一組	外套ヲ貸與スルモノハ三年 貸與セサルモノハ二年	通信夫、通信職工、通信工夫ニ限リ貸與ス
作業服	二枚	一年	通信職工ニ限リ貸與ス
雨具	一組	三年	通信夫、通信職工、通信工夫、外役小使ニ限リ貸與ス
卷ゲートル	二足	二年	通信夫、通信職工、通信工夫ニ限リ貸與ス
等級章	一箇		通信夫、通信職工、通信工夫ニ限リ貸與ス
胸章	二箇		通信夫ニ限リ貸與ス

制服製式

種別		現業員	傭人	備考
帽	地質	黑又ハ茶褐色絨裏毛繻子前庇及頤紐黑革製頤紐止鈕釦金屬製金鍍徑三分	黑又ハ茶褐色絨裏麻布前庇及頤紐黑革製頤紐止鈕釦金屬製金鍍徑三分	
	前章	金屬製金鍍徑一寸五分	金屬製銀鍍徑一寸五分	
夏帽	地質		通信夫ハ茶褐色片綾木綿裏麻布茶褐色防水布雨覆付頤紐黑革製 通信工夫ハ臺灣パナマ又ハ蘭鉢卷黑色瓦斯眞田頤紐黑色護謨製	
	前章		帽ニ同シ	

帽	日覆	地質茶褐色木綿又ハ白金巾	地質茶褐色木綿又ハ白金巾
上衣	地質	冬服黑又ハ茶褐色絨裏毛繻子 夏服茶褐色セル	冬服黑又ハ茶褐色絨裏木綿 夏服茶褐色小倉
	鈕釦	金屬製金鍍徑六分	金屬製銀鍍徑六分
	襟章	金屬製金鍍徑五分	金屬製銀鍍徑五分
	袖章	金屬製金鍍徑六分櫻花章一箇	傭人ノ內信使、給仕、職工、小使定夫ニハ襟章ヲ附セス
袴		地質上衣ニ同シ	地質上衣ニ同シ
外套	地質	黑又ハ茶褐色絨裏毛襦子	黑又ハ茶褐色絨(裏ナシ)
	鈕釦	金屬製金鍍徑七分五厘	金屬製銀鍍徑七分五厘
防寒外套	地質	黑又ハ茶褐色厚絨肩當木綿襟毛皮	黑又ハ茶褐色絨裏木綿刺子製マント襟ニハ取外シ得ル毛皮ヲ附ス
	鈕釦		金屬製銀鍍徑七分五厘
作業服	地質		藍色木綿
	鈕釦		黑護謨徑六分
雨	地質		黑又ハ鼠色防水布丈ハ脛ノ中央マテ覆フヲ長度トス

具	徽章		長一寸二分幅一寸線ノ太サ一分紅色
	鈕釦		黑護謨徑六分
卷ゲートル			茶褐色絨 長八尺幅四寸紐五尺
等級章			金屬製銀鍍徑長五分
胸章		金屬製一寸二分文字及花形輪廓金鍍他ハ空色七寶	金屬製金鍍徑一寸二分文字ハ凹彫紅色他ハ押出シ

(服圖略ス)

●通信官署徽章

明治三十九年十二月七日告示第三十五號

關東都督府通信官署ノ徽章ハ明治二十年遞信省告示第十一號二一字形ヲ用ユ

●製鹽監視員服制

明治四十三年五月十九日告示第百一號

關東都督府製鹽監視員服制左ノ通定ム

監視員服制

種別		雇員	傭員
帽	地質	黑又ハ茶褐色羅紗	同上
	製式	圓形ニシテ黑革製ノ前庇及幅四分ノ黑革頤紐ヲ附シ頤紐ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ徑四分ノ金鈕釦一箇ヲ以テ留ム	同上

徽章	全形一寸五分ノ金モール製櫻葉十枚ニ蕾二箇ヲ附シタル枝二本ヲ下部ニテ結ヒ之ヲ抱キ合セ中央ニ銀製鹽竈ノ二字ヲ附ス	銀製鹽竈ノ二字
日覆	夏期茶褐色布ヲ以テ帽ノ上部ヲ覆フ	同上
上衣 地質	黒又ハ茶褐色羅紗	同上
上衣 製式	立襟一行鈕釦ジャケット物入左方上下二箇右方下部一箇ヲ附ス形狀圖ノ如シ	同上
上衣 袖章	幅四分ノ赤羅紗線二條ヲ半面ニ纏フ	幅四分ノ赤羅紗線一條ヲ半面ニ纏フ
上衣 鈕釦	徑七分ノ金色鈕釦五箇ヲ前部ニ附ス	同上
袴 地質	黒又ハ茶褐色羅紗	同上
袴 製式	短袴、形狀圖ノ如シ	同上
備考 一	靴ハ總テ長靴トス	
備考 二	帽ハ夏期白又ハ茶褐色ヘルメット形帽ヲ代用スルコトヲ得	

（服圖略ス）

●守衛服制

明治四十年八月一日　民政部訓令第六十八號　民政署

守衛服制別表ノ通相定ム但シ本令施行前給與シタル制服ハ其ノ使用期間内ニ限リ之ヲ著用セシムルコトヲ得

（別表）

名稱	地質	製式	徽章	日覆	肩章	袖章	鈕釦
帽	黒羅紗	大黒帽形、黒革製前庇及幅四分ノ黒革製頤紐ヲ附シ其ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ徑四分ノ銀鈕各一箇ヲ以テ留ム形狀圖ノ如シ	前章縦横一寸民字ヲ包ミタル金色櫻花章ノ帽ノ周圍ニ幅四分ノ白色毛絲一條ヲ纏フ	夏期茶褐色布ヲ以テ帽ノ上部ヲ覆フ			
上衣	黒ヘル地但シ夏期ハ茶褐布	立襟一行鈕釦長ジャケット形狀圖ノ如シ			縦横五分ノ銀色守字一箇ヲ左襟ノ端ニ附ス	幅四分ノ白色毛絲一條ヲ半面ニ纏フ	徑七分ノ金色鈕釦五箇ヲ前面ニ附ス
袴	黒ヘル地但シ夏期ハ茶褐布	普通長袴					
外套	黒羅紗	折襟胸一重後部ノ裾ヲ割キ前左右ノ腰部ニ各一箇ノ物入ヲ附ス形狀圖ノ如シ				上衣ノ袖章ニ同シ	徑七分ノ金色鈕釦六箇ヲ前後ニ附ス

（服圖略ス）

●備人服制

明治四十年四月六日　訓令第三十一號　民政部民政署

備人服制別表ノ通相定ム但シ本令施行前備人ニ給與シタル制服ハ其ノ使用期間内ニ限リ之ヲ著用セシムルコトヲ得

（別表）

名稱	地質	製式	徽章	日覆	肩章	袖章	鈕釦
帽	黒羅紗	大黒帽形、黒革製前庇及幅四分ノ黒革製頤紐ヲ附シ其ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ徑四分ノ銀鈕各一箇ヲ以テ留ム形狀圖ノ如シ	縦横一寸民字ヲ包ミタル金色櫻花章形狀圖ノ如シ	夏期茶褐色布ヲ以テ帽ノ上部ヲ覆フ			

上衣	黒ヘル地又ハ茶褐布但シ夏期ハ茶褐布	立襟一行鈕釦長ジヤケツト形状圖ノ如シ			徑一寸五分ノ赤地羅紗製櫻花章ヲ圓形黒地羅紗ニ縫合セシモノ形状圖ノ如シ	徑七分ノ金色鈕釦五箇ヲ前部ニ附ス
袴	黒ヘル又ハ茶褐布但シ夏ハ茶褐布	普通長袴				
外套	黒又ハ茶褐羅紗	折襟胸一重後部ノ裾ヲ割キ前左右ノ腰部ニ各一箇ノ物入ヲ附ス形状圖ノ如シ			上衣ノ腕章ニ同シ	黒角鈕釦

（服圖略ス）

旅順及大連水道事務所傭人服制

明治四十年九月十二日訓令第八十五號　民政部

旅順及大連水道事務所傭人服制別表ノ通相定ム

（別表）

名稱	地質	製式	徽章	日覆	腕章	鈕釦
帽	黒羅紗	大黒帽形黒革製前庇及幅四分ノ黒革製頤紐ヲ附シ其ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ徑四分ノ丸形ニ櫻花ヲ表ハシタル眞鍮釦各一箇ヲ以テ止ム形状圖ノ如シ	縦横一寸水字ヲ包ミタル金色櫻花章形状圖ノ如シ	夏期茶褐色布ヲ以テ帽ノ上部及帽ノ後部ヨリ下ヘ上衣襟下二寸ヲ覆フ形状圖ノ如シ		
上衣	黒羅紗又ハ茶褐布但シ夏期ハ茶褐布	立襟一行釦ジヤケツト形状圖ノ如シ			徑一寸五分ノ赤地羅紗ニシテ櫻花章其ノ上ニ白地羅紗ニテ水ノ字ヲ表ハシ圓形黒地羅紗ニ縫合セシモノ形状圖ノ如シ	徑五分銀色鈕釦五箇ヲ前部ニ附ス
袴	黒羅紗又ハ茶褐布但シ夏期ハ茶褐布	普通長袴				
外套	黒又ハ茶褐羅紗	折襟胸一重後部ノ裾ヲ割キ前左右ノ腰部ニ各一箇ノ物入ヲ附ス形状圖ノ如シ			上衣ノ腕章ニ同シ	黒角鈕釦

一　削除（四一、訓一六號）

（服圖略ス）

●關東州ニ於テケル諸般ノ成規ニ關スル件　明治三十七年七月三十一日勅令第二百三號

朕關東州ニ於ケル諸般ノ成規ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

關東州ニ於ケル諸般ノ成規ハ別段ノ規定ヲ設クル迄當分ノ內從前ノ例ニ依ル但シ租稅其ノ他ノ收入及其ノ支出ニ關シテハ會計檢査院ヲ經ルコトヲ要ス

附　則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州ニ於テ適用スル法律命令施行期日　明治三十七年七月二十一日勅令第二百十一號

朕韓國及關東州ニ於テ適用スル法律命令ノ施行時期ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

韓國及關東州ニ於テ適用スル法律命令ハ其ノ各官廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算シ七日ヲ經テ施行ス但シ別段ノ施行時期アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年勅令第百六十一號ハ之ヲ廢止ス

●都督府公布式　明治三十七年九月二日府令第一號　改正（四〇、府二號）

關東都督ノ發スル命令ノ公布式左ノ通相定ム

第二項　公文書及統計報告

關東都督府公布式

第一條　關東都督ノ發スル命令ハ其ノ關東都督ノ命令ナルコトヲ明記シ關東都督之ニ署名シ公布ノ年月日ヲ記入シテ之ヲ公布スヘシ

第二條　關東都督ノ命令ハ滿洲日日新聞附錄府報ヲ以テ之ヲ布告ス

第三條　關東都督ノ命令ハ特ニ施行期日ヲ掲クルモノヲ除クノ外其ノ各官廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算シ滿七日ヲ經テ之ヲ施行ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●民政署公布式　明治三九年九月一日　府令第三號

民政署長ノ發スル命令ノ公布式左ノ通相定ム

第一條　民政署長ノ發スル命令ハ其ノ署令ナルコトヲ明記シ民政署長之ニ署名シ公布ノ年月日ヲ記入シテ之ヲ公布スヘシ

第二條　署令公布ノ方法ハ民政署長ノ定ムル所ニ依ル

第三條　民政署令ハ特ニ施行期日ヲ掲クルモノヲ除クノ外公布ノ日ヨリ起算シ滿七日ヲ經テ之ヲ施行ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●警務署ニ準用スヘキ訓令　明治三九年十二月二日　訓令第六十二號　民政部、警務署　參照（四三、訓三號六〇號八八號）

左記訓令ハ之ヲ警務署ニ準用ス但シ訓令中警務部長又ハ支署長トアルハ警務署長又ハ警務支署長ト、警務部出張所、支署出張所トアルハ警務署又ハ警務支署ト心得ヘシ

明治三十九年四月訓令第八號關東州民政署警察官吏服務規程

同年同月訓令第十號關東州民政署警察處務細則

同年五月訓令第十八號戸口調査規程

同年七月訓令第二十號關東州民政署巡査精勤證書授與規程

同年同月訓令第二十二號關東州民政署警察官吏非常召集規程

同年同月訓令第二十五號關東州民政署巡査訓授規程

●警務署ニ準用スヘキ府令及關東州民政署令　明治四十年四月十七日　府令第二十六號　參照（四一、府二二號）

左記ノ關東都督府令關東州民政署令ハ關東州外南滿洲鐵道附屬地ニ之ヲ準用ス但シ同府令及署令中民政署民政支署又ハ本署、支署トアルハ警務署又ハ警務支署ト、ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年關東都督府令第八號關東州在留者取締規則

同年同府令第二十七號營業取締規則

明治三十八年關東州民政署令第二號藝妓酌婦及雇婦女取締規則

同年同署令第三號死體檢案ニ關スル件

同年同署令第四號料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業取締規則

同年同署令第十一號娼妓取締規則

同年同署令第十二號貸座敷取締規則
明治三十九年同署令第二號娼妓健康診斷施行規則
同年同署令第三號歐類取扱規則
同年同署令第四號塵芥掃除規則
同年同署令第五號賣肉取締規則
同年同署令第六號屠獸取締規則
同年同署令第十九號生河豚販賣貯藏禁止ノ件
同年同署令第二十四號理髮營業者取締規則
同年同署令第二十五號人力車營業取締規則
同年同署令第二十六號畜犬取締規則

●警務署ニ準用スヘキ訓令　明治四十年四月二十七日訓令第三十四號　民政部警務署

左記ノ訓令ハ之ヲ警務署ニ準用ス但シ訓令中本署又ハ支署トアルハ警務署又ハ支署ト心得ヘシ
明治三十八年關東州民政署訓令第十號藝妓、酌婦及雇婦女取締規則施行心得
同年同訓令第十四號料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業取締規則施行心得
明治三十九年同訓令第一號娼妓取締規則施行手續
同年同訓令第二號貸座敷取締規則施行手續

●警務署ニ適用スヘキ訓令　明治三十九年十二月廿日決裁　參照（第一〇二號、第一〇三號、第一〇四號）

左記訓令ハ之ヲ警務署ニ適用スルコト

明治三十九年訓令第二十四號巡查看守及女監取締俸給支給細則
同第二十七號宿舍料支給規則
同第二十九號巡查休暇規程
同第三十號囑託員雇員傭員給與規則
同第三十一號歲入ヲ徵收スル官吏ニ關スル件
同第三十二號圓銀等出納計算整理手續
同第四十號宿直食料支給規則
同第四十三號統計事務規程
同第五十五號傭人給與品及貸與品規程

●令達中ノ郵便電信局長及支局長改稱ノ件　明治四十二年十二月二日訓令第百七號　通信官署

從前ノ令達中關東都督府郵便電信局長トアルハ關東都督府通信管理局長、支局長トアルハ郵便局長、電信局長ト改メラレタルモノト心得ヘシ

●官房竝民政部記錄規則　明治四十二年一月十四日訓令第一號　官房民政部

明治三十九年九月訓令第三十九號關東都督府官房竝民政部記錄規則左ノ通改正ス

第一條　官房竝民政部ニ於ケル完結文書ハ文書課ニ蒐集シ文書課長之ヲ管理ス
第二條　文書課ニ於テ引繼ヲ受ケタル文書ハ書庫ニ藏置ス

機密文書ハ普通文書ト書庫ヲ異ニシ其ノ保管ヲ嚴ニスヘシ

第三條　會計ニ關スル文書ハ完結後三會計年度間主務課ニ保管スルコトヲ得

第四條　文書ノ分類ハ別表類別表ニ依ル

第五條　文書課ニ於テ文書ノ引繼ヲ受ケタルトキハ左ノ事項ヲ檢別スヘシ

一　文書ノ整否

二　分類及保存期限

第六條　檢別ヲ了リタル文書ハ件名目錄ヲ附シ假綴トナシ既定ノ書庫ニ收藏スヘシ

第七條　交互關聯シタル文書ハ其ノ最モ關係多キ部類ニ原本ヲ收メ他ノ部類ニ原本ノ所在ヲ明記セル件名目錄ノミヲ朱記スヘシ

第八條　文書ノ保存期限ヲ分テ左ノ四種トス

第一種文書　永久保存

第二種文書　十五年保存

第三種文書　七年保存

第四種文書　一年保存

第九條　永久ノ例規トナリ又ハ歷史ノ徵考ニ資スヘキモノハ之ヲ第一種文書トス

命令、上申、通牒、回答、調査報告、復命書、會計書類等ニシテ第一種ニ次キ保存スヘキモノハ其ノ必要ニ應シ之ヲ第二種文書又ハ第三種文書、一時ノ處辨ヲ了リ將來參照ノ必要ナシト認ムルモノハ之ヲ第四種文書トス

第十條　文書ノ保存期限ハ其ノ完結シタル翌年一月ヨリ之ヲ起算ス但シ會社ニ關スル文書ニ付テハ製會計年度ノ始ヨリ之ヲ起算ス

第十一條　保存期限經過ノ文書ハ主務課長ニ合議シ都督ノ決裁ヲ經テ之ヲ廢棄處分濟文書ハ之ヲ物品會計官吏ニ交付スヘシ

前項ノ廢棄處分濟文書ハ之ヲ物品會計官吏ニ交付スヘシ

第十二條　文書編纂方法ハ左ノ各項ニ依ル

一　編纂ハ完結文書ニ就キ類別表ニ從ヒ編次成冊スルモノトス

二　編纂順序ハ決裁月日ノ順序ニ依ル

三　一事件中ノ順序ハ起端ヲ前トシ終端ヲ後トス但シ第三種及第四種文書ハ此ノ限ニ在ラス

四　附屬文書又ハ圖表ニシテ本書ニ合綴シ難キモノハ特ニ別冊トシテ之ヲ編纂ス

五　編纂上各門類ハ類目ヲ揭ケタル紙ヲ挿入シテ之ヲ區分ス

六　編纂簿冊ノ厚サハ曲尺一寸五分ヲ程度トス

七　裝釘スヘキ第一種及第二種文書ハ之ヲ本綴トシ第三種及第四種文書ハ之ヲ略綴トス

第十三條　裝釘シタル編纂簿冊ハ之ヲ文書類纂ト稱ス

第十四條　文書類纂ハ卷首毎ニ目錄ヲ付シ毎件ニ見出番號ヲ記入スヘシ

第十五條　文書類纂ハ別ニ總目錄ヲ調製スヘシ但シ職員ノ進退ニ關スルモノハ「イロハ」別トス

第十六條　文書ヲ借覽セムトスル者ハ文書借覽證ニ其ノ要旨ヲ記入シテ文書課ニ要求スヘシ但シ借受セル假綴文書ハ之ヲ分離スルコトヲ許サス

第十七條　機密文書ハ文書課長ノ認可ヲ經ルニ非サレハ之ヲ貸付セス

第十八條　文書貸付期限ハ七日以內トス

附　則

本令ハ明治四十二年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

（記錄類別表）

第一門（祕書）					
一 勅旨令語	二 儀典	三 例規	四 定員	五 進退	六 賞
七 罰	八 敍位勳記	九 諸給與	一〇 出張	一一 賜暇	一二 顧伺屆
一三 雜					

第二門（文書）					
一 例規	二 統計	三 報告	四 圖書印刷	五 官報及新聞、雜誌	六 雜

第三門（外事）					
一 例規	二 外交	三 旅行	四 外國人取扱	五 雜	

第四門（庶務）					
一 例規	二 戶籍	三 兵事	四 教育	五 社寺宗教	六 商工業
七 農業	八 鑛業	九 植林	一〇 水產	一一 鹽業	一二 度量衡
一三 司法	一四 司獄	一五 觀象	一六 通信	一七 鐵道	一八 賑恤
一九 寄附	二〇 傭人進退	二一 雜			

第五門（警務）					
一 例規	二 高等警察	三 警察區域	四 巡查巡捕進退	五 配置	六 賞
七 罰	八 經理	九 警備警戒	一〇 營業	一一 海務	一二 難破船
一三 匪賊	一四 竊盜其他	一五 兵器危險物	一六 災害	一七 暴行殺傷	一八 變死
一九 保護	二〇 風俗	二一 交通取締	二二 病院	二三 醫師	二四 傳染病風土病
二五 清潔	二六 種痘	二七 檢徹	二八 檢疫消毒	二九 墓地埋火葬	三〇 獸畜
三一 顧伺屆	三二 雜				

第六門（財務）					
一 例規	二 豫算	三 決算	四 出納官吏	五 給與	六 購買
七 廳舍官舍	八 財產營造物	九 租稅	一〇 徵收	一一 諸收入	一二 銀行會社
一三 金融貸幣	一四 輸出入	一五 彩票	一六 物價	一七 傭人進退	一八 雜

第七門（土木）					
一 例規	二 事業費豫算	三 事業費決算	四 購買	五 工事	六 測量製圖
七 道路橋梁	八 水道	九 河川港灣	一〇 蒸氣、電氣、瓦斯	一一 傭人進退	一二 雜

◉官房竝民政部圖書規則

明治四十三年一月十四日 訓令第二號 官房、民政部

關東都督府官房竝民政部圖書規則左ノ通定ム

關東都督府官房竝民政部圖書規則

第一條　官房竝民政部ノ圖書ハ文書課長之ヲ管理ス

第二條　新ニ受領シタル圖書ハ都督府圖書印ヲ押捺シ其ノ書名、受領年月日、部數、冊數、著譯者名、出版年月及價格ヲ原簿ニ登載スヘシ

第三條　前條ノ手續ヲ了シタル圖書ニハ其ノ要旨ヲ記入シタル圖書箋ヲ貼付シ同時ニ類別目錄簿ニ登載スヘシ

第四條　逐次刊行物ハ到達ノ都度主務課ニ回付スヘシ但シ閲了ノ上ハ直ニ文書課ニ返付スヘシ

第五條　主務課ヨリ返付ノ逐次刊行物ハ適當ノ厚サニ達シタルトキハ之ヲ合綴シテ第二條及第三條ノ規定ニ依リ整理スヘシ

第六條　各課ニ於テ圖書等ノ購入ヲ要スルトキハ其ノ書名、著譯者名、部數、冊數、發行所名及所要ノ理由ヲ詳記シ文書課長ニ要求スヘシ

第七條　圖書購入ノ要求アリタルトキハ重複ノ有無及要否ヲ調査シ其ノ購入ヲ要スルモノハ之ヲ財務課ニ移牒スヘシ

第八條　圖書ハ執務上ノ必要ニ依リ借覽スルコトヲ得

第九條　圖書貸付期限ハ三十日以內トス但シ日常執務ニ必要ナル圖書ハ此ノ限ニ在ラス

第十條　圖書ヲ借受ケムトスル者ハ圖書借覽證ニ其ノ書名ヲ記入シ課員ハ當該課長ノ承認ヲ經テ之ヲ文書課ニ要求スヘシ

第十一條　保存ノ必要ナシト認ムル圖書等ハ財務課長ニ合議シ都督ノ決裁ヲ經テ之ヲ廢棄ス

前項ノ廢棄處分濟圖書ハ之ヲ物品會計官吏ニ交付スヘシ

第十二條　每年一回以上總テノ貸付圖書ヲ回收シ原簿ニ對照スヘシ

第十三條　臨時調査ノ爲貸付圖書ノ返納通知ヲ受ケタルトキハ三日以內ニ返納スヘシ

第十四條　借受セル圖書ヲ亡失シタルトキハ同一ノ圖書又ハ相當ノ代價ヲ以テ之ヲ辨償セシムヘシ

附　則

本令ハ明治四十二年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●警察彙報規程　（明治三十九年四月六日　關東州民政署訓令第六號　警務部支署）

關東州民政署警察彙報規程左ノ通相定ム

關東州民政署警察彙報規程

第一條　警察彙報ハ警察ニ關スル法令、例規其ノ他必要ノ事項ヲ輯錄シ每月一回以上警務部ニ於テ發刊スルモノトス

第二條　警察彙報ハ警察官署及警察官吏（派出所駐在所）ニ配付ス

第三條　警察官吏及警察事務ニ從事スル職員ハ警察彙報ヲ購讀スルノ義務アルモノトス

第四條　警務部及支署ニ警察彙報資料擔任者ヲ置クヘシ

第五條　支署ニ於ケル警察彙報資料擔任者ハ每月蒐集シタル警察彙報資料ヲ翌月三日迄ニ警務部ヘ送付スヘシ

第六條　警察彙報ニ登載スル事項ハ左ノ如シ但シ左ノ各號ニ該當スルモノト雖不必要ト認ムルトキハ登載セサルコトアルヘシ

一　法律
二　勅令
三　軍令
四　府令
五　署令
六　訓令
七　告示
八　內訓
九　指令
十　通達
十一　警察職員ノ任免賞罰辭令
十二　恩給給助
十三　警察會議
十四　新聞、雜誌、出版物
十五　政談、集會
十六　馬賊ノ情況
十七　捜査及其ノ解除
十八　遺失物埋藏物及漂流物
十九　衞生及檢疫
二十　水火震災

二十一　統計諸表

二十二　前各號ノ外必要ノ事項

第七條　警察彙報資料ハ簡明ヲ旨トシ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載スヘシ

●願屆書進達ニ關スル件　明治四十年七月七日府令第四十號

關東都督府ニ提出スヘキ願屆書等ハ特別ノ規程アル場合ヲ除クノ外所轄民政署又ハ警務署ヲ經由スヘシ

●統計事務規程　明治三十九年十月四日官房、民政部、民政署訓令第四十三號　法院、郵便電信局

關東都督府統計事務規程左ノ通相定ム

關東都督府統計事務規程

第一條　官房文書課ニ統計主任及統計主査ヲ置キ上官ノ指揮ヲ承ケ統計材料ノ蒐集及統計書ノ編纂其ノ他統計ニ關スル諸般ノ事務整理ノ責ニ任セシム但シ統計主任ハ高等官ヲ以テ之ニ充テ統計主査ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第二條　官房祕書課、民政部各課、監獄署、民政署、法院、郵便電信局ニ統計主務各一人以上ヲ置キ其ノ主管ニ係ル統計材料調査ノ責ニ任セシム但シ統計主務ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　統計主任ハ關東都督之ヲ命免シ統計主査ハ統計主任之ヲ命免スヘシ

第四條　統計主務ハ所屬長官之ヲ命免シ其ノ都度之カ官氏名ヲ統計主任ニ報告スヘシ

第五條　統計主務ハ關東都督府報告例中統計ニ係ル報告其ノ他ノ統計材料ヲ調製スヘシ

第六條　統計主務ハ統計材料調製ノ爲蒐集セシ原材料ハ其ノ種類ニ依リ區別シ保存スヘシ

第七條　官房祕書課、民政部各課、監獄署ニ於テ統計ニ關スル調査事項竝其ノ樣式ヲ定メムトスルトキ又ハ統計ニ關スル調査ヲ公ニセムトスルトキハ統計主任ニ合議スヘシ但シ臨時ノ調査ニ於ケルモ亦同シ

第八條　統計主任ニ於テ前條ノ合議ヲ受ケタルトキハ其ノ調査事項及樣式若ハ製表上ノ適否竝違算等ノ有無ハ統計主査ヲシテ之ヲ審査セシムヘシ

第九條　官房祕書課、民政部各課、監獄署ニ於ケル統計ニ關スル書類ハ統計主任ニ回覽スヘシ

第十條　統計主任ハ其ノ主管事務ニ付テハ直接其ノ關係官衙長ト文書ノ照復ヲ爲スヲ得ルモノトス但シ新ニ規定スルモノ又ハ定例ニ非サルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　統計主任及統計主査ハ統計事務統一ノ爲臨時ニ統計事務ヲ視察シ統計材料蒐集ノ方法及統計ニ關スル書類ノ整否等ヲ監督査閲スヘシ

第十二條　統計主任ハ關東都督ノ認可ヲ經テ統計主務ヲ關東都督府ニ招集シ臨時ニ統計會議ヲ開設スルヲ得ルモノトス

第十三條　民政署、法院、郵便電信局各長官ニ在リテハ其ノ廳ニ於テ統計事務ニ關スル規定又ハ統計材料蒐集上ニ係ル手續竝其ノ樣式等ヲ定メタルトキ若ハ變更シタルトキハ其ノ一本ヲ統計主任ニ回付スヘシ

●統計材料蒐集上注意方　明治三十九年十月三十日告諭第三號

本州ニ於ケル諸般ノ統計ハ未タ何等見ルヘキモノナキヲ以テ之ヲ遂行スルハ目下ノ急務ナリトス抑統計ハ各般行政ノ基礎ト爲リ又社會公衆ノ規準ト爲リ以テ國政ノ消長ヲ審ニスヘキモノニシテ例之國土ノ廣狹地味ノ肥瘠人口ノ多少及其ノ構成ノ狀態其ノ他殖産興業ノ趨勢交通貿易ノ狀況ヨリ教育衛生宗教救恤等凡ソ社會萬般ノ現象ニ至ル迄都テ之ヲ網羅シ其ノ實況ヲ調査スルモノニシテ以テ文化ノ度ヲ察スヘク以テ實利ノ增殖ヲ圖ルヘキナリ然レトモ統計正確ナルト否トハ一ニ其ノ材料ノ精粗眞僞如何ニ依ル若シ粗笨虚僞ノ材料ヲ基礎トセムカ即チ統計ハ却テ事ヲ誤ルニ至ル是レ誠ニ戒ムヘキコトトス公衆克ク此ノ意ヲ體シ府吏ノ親シク統計

材料ヲ徴スルニ當リテハ須ラク誠實ノ報告ヲ爲シ苟モ隱匿欺罔ノ所爲アルヘカラス若シ之カ旨趣ニ戻ル者アラハ即チ嚴ニ處罰シ敢テ假借セサルヘシ

●報告例

明治三十九年九月一日　官房、民政部、民政署、警務署、法院、警院
訓令第三十三號　海務局、觀測所、監獄署、通信官署　改正（大正二年訓令第二十二號、同三年訓令第二十二號、同十二年訓令第三十六號）

關東都督府報告例別冊ノ通相定ム但シ別冊ハ明治三十九年六月關東州民政署訓令第十九號關東州民政署報告例別冊中改正ノ外之ヲ適用ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別冊略ス）

●報告例中半年報廢止

明治三十三年四月二十日
訓令第三十二號　關東都督府

明治三十九年九月訓令第三十三號關東都督府報告例別冊中半年報ハ之ヲ廢止ス

●都督府政務報告例

明治三十年七月二十日
內閣訓令第二號　關東都督府

都督府政務報告例左ノ通之ヲ定ム

本令ハ明治四十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

都督府政務報告例

第一條　報告ヲ分チ即報、半季報及年報ノ三種トス即報ハ即時、半季報ハ會計年度ノ半季分ヲ翌月末日限リ年報ハ會計年度經過後三月以內ニ之ヲ報告スルモノトス

第二條　即報項目中事ノ重大ニシテ至急ヲ要スルモノハ豫メ電報ヲ以テ其ノ概要ヲ報告スルモノトス

第三條　報告ニ用ウヘキ度量衡ノ單位ハ凡テ日本帝國ノ單位ニ依ルヘキモノトス但シ換算シ得ヘカラサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　前各條ノ外都督ヨリ外務大臣ニ報告スヘキ事項ハ同時ニ內閣總理大臣ニ報告スルモノトス

第五條　報告ハ一事件每ニ紙頁ヲ更ムヘシ

報告事項

一　即報

第一　府令、告示、訓令、諭告其ノ他ノ例規

第二　地方費ノ豫算、決算

第三　天災事變ニ依リ人畜ノ死傷、家屋、田園等ノ毀壞

第四　隊ヲ成セル持兇器强盜ニ關スル事項

第五　外國人ノ動靜ニ關スル重要事項

第六　百戶以上又ハ重要ナル建物ノ火災及火災ノ爲多數ノ死傷者アリタルトキ

第七　傳染病又ハ獸疫ノ發生ニシテ傳播ノ虞アルトキ

第八　百噸以上ノ船舶ノ遭難

第九　重要ナル土木事業ノ起工、變更及落成

第十　其ノ他重要ト認ムヘキ事項

一　半季報

第一　鐵道ニ關スル狀況ノ概要及其ノ營業成績

第二　農工商業、鑛業其ノ他生產業ニ關スル狀況

第三　內地及諸外國トノ貿易狀況ノ概要

第四　船舶出入ノ狀況

第五　移民ニ關スル一般ノ狀況

第六　諸般政務施行ノ成績
第七　其ノ他管內一般ノ狀況

一　年報

第一　所屬職員部局別
第二　警察ニ關スル一般ノ狀況
第三　衞生ニ關スル一般ノ狀況
第四　敎育ニ關スル一般ノ狀況
第五　司法ニ關スル一般ノ狀況
第六　宗敎ニ關スル一般ノ狀況

第三類　地方

第一章　地理

●青泥窪ヲ大連ト改稱　明治三十八年一月二十日遼東守備軍令達第三號

明治三十八年二月十一日以後「青泥窪（ダルニー）」ヲ「大連（タイレン）」ト改稱ス

●逢坂町遊廓地設定　明治三十八年十二月二十六日關東州民政署告示第三十八號

大連市外東南溝ニ於ケル別紙圖面ノ地域ヲ遊廓地ト定メ之ヲ逢坂町ト稱ス但シ圖面ハ本署庶務部ニ就キ閲覽スヘシ

（圖面略ス）

●小崗子遊廓地域　明治三十九年一月十七日關東州民政署告示第六號

大連市街小崗子村ニ於ケル別紙圖面ノ地域ヲ小崗子遊廓ト稱シ支那人ニ限リ貸座敷營業ヲ許可ス但シ地域ハ別ニ標木ヲ以テ指定シ圖面ハ本署警務部ニ就キ閲覽スヘシ

（圖面略ス）

●關東州ノ海軍區　明治三十九年一月二十日勅令第二百五十六號

脫關東州海軍區ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

關東州ノ海岸海面ヲ關東州海軍區トシ旅順鎭守府ヲシテ之ヲ管セシム

附則

本令ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二章　學事

●關東州小學校名稱位置　明治四十年三月三十一日告示第十九號　改正（四二、告二三、二四號）

關東州小學校ノ名稱位置左ノ通相定ム明治四十年四月一日ヨリ授業ヲ開始ス

大連第一尋常高等小學校　大連東公園通
大連第二尋常高等小學校　大連北大山通
大連第一尋常高等小學校柳樹屯分教場　柳樹屯
旅順第一尋常高等小學校　旅順白金町（舊市街）
旅順第二尋常高等小學校　旅順對馬町（新市街）
金州尋常高等小學校　金州
金州尋常高等小學校貔子窩分教場　貔子窩
金州尋常高等小學校普蘭店分教場　普蘭店

●關東州小學校規則　明治四十一年三月二十七日府令第五號

關東州小學校規則左ノ通相定ム

關東州小學校規則

第一章　總則

第一條　小學校ハ內地人ノ兒童ヲ教育スル所トス

小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎竝其ノ生活ニ必須ナル普通ノ智識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

第二條　小學校ハ之ヲ分チテ尋常小學校及高等小學校トス

尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ一校ニ併置スルモノヲ尋常高等小學校トス

第三條　尋常高等小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ尋常小學校ノ規定ヲ準用シ高等小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ高等小學校ノ規定ヲ準用ス

第二章　設置

第四條　小學校ハ關東都督ニ於テ必要ト認ムル地ニ之ヲ設置ス特別ノ事情アルトキハ小學校ノ分教場ヲ設クルコトアルヘシ

第三章　修業年限、教科目、教則、教科用圖書及編制

第五條　小學校ノ修業年限、教科目、教則、教科用圖書及編制ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外小學校令及文部省令ノ定ムル所ニ依ル但シ同令中市町村及管理者ノ職權ハ民政署長之ヲ行ヒ府縣知事ノ職權ハ都督之ヲ行フ

第六條　高等小學校修業年限ノ延長及小學校教科目ノ加除ハ關東都督之ヲ定ム

第七條　小學校ニ補習科ヲ置クコトヲ得

補習科ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第八條　學校長ハ夏期休業及冬期休業ノ前後各三十日以內ニ於テ毎週ノ教授時數ヲ減スルコトヲ得

前項ニ依リ教授時數ヲ減スルトキハ學校長ニ於テ便宜各教科目ノ毎週教授時數ヲ斟酌スヘシ

第九條　卒業證書、修業證書及學習證書ハ別記書式ニ依ル

第十條　尋常高等小學校ニ於テハ尋常科ノ兒童ト高等科ノ兒童トヲ合シテ學級ヲ編制スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ一學級ノ兒童數ハ高等小學校ノ一學級ノ兒童數ニ依ル

第十一條　學校長ノ擔任スル教授ヲ補助スル爲五學級以上ノ小學校ニ於テハ本科正教員一人四學級以下ノ小學校ニ於テハ准教員一人ヲ置クコトヲ得

第十二條　小學校ノ學級ヲ編制シ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ民政署長ニ於テ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ

第四章　學年、休業日及式日

第十三條　小學校ノ學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
學年ハ分チテ左ノ三學期トス
第一學期　學年ノ始ヨリ夏期休業ノ前日迄
第二學期　夏期休業後ノ始業日ヨリ冬期休業ノ前日迄
第三學期　冬期休業後ノ始業日ヨリ學年末休業日ノ前日迄

第十四條　毎日ノ教授終始ノ時刻ハ學校長之ヲ定ムヘシ

第十五條　小學校ノ休業日ハ左ノ如シ
一　祝日大祭日
二　日曜日
三　陸海軍紀念日
四　始政紀念日
五　開校紀念日
六　夏期休業　八月一日ヨリ同月三十一日迄
七　冬期休業　十二月二十六日ヨリ翌年一月七日迄
八　學年末休業　三月二十六日ヨリ同月三十一日迄
特別ノ事情ニ依リ前項ノ外臨時休業ヲ要スルトキ及前項第六號第七號ノ期日ヲ變更セムトスルトキハ學校長ニ於テ臨時休業ヲ行フコトヲ得
天災事變其ノ他ノ場合ニ際シ前項ノ認可ヲ受クルノ暇ナキトキハ學校長ニ於テハ職員及兒童ハ小學校ニ參集シテ左ノ順序ニ從ヒ儀式ヲ行ヘシ

第十六條　紀元節、天長節、一月一日及始政紀念日ニ於テハ職員及兒童ハ
一　職員及兒童「君ガ代」ヲ合唱ス
二　職員及兒童ハ
天皇陛下
皇后陛下ノ御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行フ
三　學校長ハ教育ニ關スル勅語ヲ奉讀ス
四　學校長ハ教育ニ關スル勅語ニ基キ聖旨ノ在ル所ヲ誨告ス
五　職員及兒童ハ其ノ祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス
御影ヲ拜戴セサル小學校ニ於テハ前項第二號ノ式ヲ闕ク

第五章　學齡、入學、在學及退學

第十七條　內地人ノ兒童滿六歳ニ達シタル翌日ヨリ滿十四歳ニ至ル迄八箇年ヲ以テ學齡トス

第十八條　學年開始迄ニ學齡ニ達セサル兒童ハ其ノ學年中ハ之ヲ小學校ニ入學セシムルコトヲ得ス

第十九條　小學校ニ兒童ヲ入學セシメムトスルトキハ其ノ兒童ヲ保護スル者ニ於テ左ノ各號ニ揭クル事項ヲ具シ學校長ニ申出ツヘシ

一　兒童竝保護者ノ氏名、出生年月日、本籍地、現住所及族稱
二　兒童入學前ノ經歷
三　保護者ノ職業及兒童トノ關係
在學ノ兒童ニ關シ前項第一號及第三號ニ揭クル事項ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ兒童死亡シタルトキハ保護者ニ於テ遲滯ナク之ヲ學校長ニ屆出ツヘシ

第二十條　學校長ハ入學シタル兒童ニ就キ別記第四號書式ニ依リ學籍簿ヲ編製スヘシ
前項學籍簿ニ記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滯ナク之ヲ加除訂正スヘシ

第二十一條　學校長ハ別記第五號書式ニ依リ在學兒童ノ出席簿ヲ作リ其ノ出闕席ヲ明ニスヘシ

第二十二條　在學ノ兒童ヲ退學セシメムトスルトキハ其ノ兒童ヲ保護スル者ニ於テ其ノ事由ヲ具シ學校長ニ申出ツヘシ

第二十三條　學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ虞アル兒童又ハ性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨ケアリト認メタル兒童ノ出席ヲ停止スルコトヲ得

第二十四條　學校長ハ在學兒童ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ退學ヲ命スルコトヲ得
一　引續キ六箇月以上闕席シタル者
二　正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上闕席シタル者

附　則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十九年三月關東州民政署令第十三號關東州小學校規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（別　記）
（第一號書式）

（第二號書式）

番號

卒業證書

道府縣族稱　氏名　生年月日

校印

尋常（高等）小學校ノ教科ヲ卒業セシコトヲ證ス

年　月　日

何尋常（高等又ハ尋常高等）小學校長氏名印

（第三號書式）

番號

學習證書

道府縣族稱　氏名　生年月日

校印

尋常（高等）小學校第何學年ノ課程ヲ修業セシコトヲ證ス

年　月　日

何尋常（高等又ハ尋常高等）小學校

（第四號書式）

住所		入學年月日	
本籍地族稱		入學前ノ經歷	
氏名		尋常小學校卒業年月日	
		高等小學校卒業年月日	
生年月日		退學年月日	
		退學ノ理由	

保護者	
氏名	
住所	
本籍地族稱	
職業	
兒童ト ノ關係	

道府縣族稱　氏名　生年月日

尋常（高等）小學校第何學年第何學年ノ課程ヲ何箇年間學習セシコトヲ證ス

年　月　日

何尋常（高等又ハ尋常高等）小學校

校印

學業成績

學年	修身	國語	算術	日本歷史	地理	理科	圖畫	唱歌	體操	裁縫	手工	英語	修了ノ年月日	出席日數	缺席日數	身體ノ狀況 身長	體重	胸圍	脊柱	結核	眼疾	耳疾	齒牙病疾
尋常小學校 第一學年																							
尋常小學校 第二學年																							
尋常小學校 第三學年																							
尋常小學校 第四學年																							
尋常小學校 第五學年																							
尋常小學校 第六學年																							
高等小學校 第一學年																							
高等小學校 第二學年																							

在學中出席及缺席

備考

備考　身體ノ狀況ノ欄ハ醫師ヲシテ檢査ヲ行ハシメタルトキ之ヲ記入スヘシ又修業年限三箇年ノ高等小學校ニ在リテハ第二學年ノ次ニ第三學年ノ欄ヲ設クヘシ

第五號書式

明治　年　月分

何學校第何學年兒童出席簿　擔任官職　氏名

番號	氏名	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	廿	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十	三十一	出席數	缺席數
		日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
		十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十	卅一											計	計

授業日數	入學兒童數	退學兒童數	月末在籍兒童數	出席兒童數	皆出席兒童數	皆缺席兒童數	出席延兒童數	缺席延兒童數	日日平均出席兒童數	日日平均缺席兒童數
出席數										
缺席數										

記載例　／　出席　×　早退　φ　遲參　○　病氣缺席　△　事故缺席

●關東州小學校補習科規程　明治四十一年三月二十六日府令第十號

關東州小學校補習科規程左ノ通相定ム

關東州小學校補習科規程

第一條　補習科ハ高等小學校ヲ卒業シタル者及之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲシテ高等小學ノ教科目ヲ補習セシムルヲ以テ目的トス

第二條　補習科ノ修業年限ハ二箇年トス

第三條　補習科ノ教科目、教科用圖書、毎週教授時數及教授ノ程度ハ民政署長之ニ定メ關東都督府ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　補習科ノ學期、教授終始ノ時刻及休業日ハ小學校ニ同シ

附　則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州小學校授業料規則　明治四十一年四月一日府令第二十號

關東州小學校授業料規則左ノ通相定ム

關東州小學校授業料規則

第一條　關東州小學校ニ入學シタル兒童ヲ保護スル者ハ其ノ兒童ノ在學中授業料ヲ納ムヘシ

第二條　授業料ハ尋常小學校ニ在リテハ一箇月三十錢高等小學校ニ在リテハ一箇月五十錢トシ毎月二十五日ニ於テ其ノ月分ヲ徵收ス但シ納期日休日ニ當ルトキハ繰下ケ退學又ハ死亡ノ場合ハ隨時之ヲ徵收ス

第三條　一家內ノ兒童二名以上同一ノ學校ヘ就學スル場合ニ於テハ上級ノ者一名ヲ全額トシ他ハ總テ半額トス

第四條　夏期又ハ冬期休業若ハ學校ノ都合ニ依リ休業全月ニ涉リタルトキ又ハ兒童ノ病氣其ノ他ノ事由ニ依リ闕席全月ニ涉リタルトキハ其ノ月分ノ授業料ヲ徵收セス

第五條　關東州內他ノ小學校ニ在學シタル者入學シタル場合ニ於テ既ニ其ノ月分ノ授業料ヲ納メタルトキハ再之ヲ徵收セス

第六條　貧困ニシテ授業料納付ノ資力ナキ者ニ對シテハ學校長ノ具申ニ依リ民政署長ニ於テ其ノ全部又ハ一部ノ免除ヲ爲スコトヲ得

第七條　民政署長又ハ支署長ハ毎年四月左記樣式ノ授業料納付證ヲ就學兒童ノ數每ニ兒童保護者ニ交付スヘシ但シ新ニ就學シタル場合ハ其ノ都度之ヲ交付スヘシ

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

表

摘要	
第一條…………	明治何年度 授業料納付證 何民政署
備考 本欄ニハ小學校授業料規則第一條乃至第五條ヲ摘載スルモノトス	

裏

四月	五月	六月	七月	八月	九月	
何月二十五日 (徴收日入)						
十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	
月別	額	數	月	日		
授業料 金何程						
何學校何科何學年 何某保護者 何所 何某						

本證ハ袋ニ調製スルモノトス

●小學校教科目 明治四十一年三月二十六日 府令第十二號

明治四十一年二月府令第五號關東州小學校規則第六條ニ依ル小學校ニ加フヘキ教科目左ノ通相定ム

尋常小學校及高等小學校ノ教科目ニ手工高等小學校ノ教科目ニ英語及商業ヲ加フ

英語及商業ハ之ヲ隨意科目トナスコトヲ得

●小學校教科用圖書 明治四十一年三月二十五日 告示第二十四號

明治四十一年二月府令第五號關東州小學校規則ニ依リ明治四十一年四月一日ヨリ小學校ニ於テ使用スヘキ教科用圖書左ノ如シ

尋常小學校

教科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年
修身	尋常小學修身書第一學年教師用 尋常小學修身掛圖 尋常小學修身書 尋常小學修身掛圖	尋常小學修身書第二學年教師用 尋常小學修身書第二學年兒童用 複式編制學校教師用 甲篇 乙篇 複式編制學校用 甲篇 乙篇	尋常小學修身書第三學年教師用 尋常小學修身書第三學年兒童用 尋常小學修身書 尋常小學修身書	尋常小學修身書第四學年教師用 尋常小學修身書第四學年兒童用 複式編制學校教師用 甲篇 乙篇 複式編制學校兒童用 甲篇 乙篇	高等小學修身書第一學年教師用 高等小學修身書第一學年兒童用	高等小學修身書第二學年教師用 高等小學修身書第二學年兒童用
國語	尋常小學讀本 一、二 尋常小學書キ方手本第一學年用	尋常小學讀本 三、四 尋常小學書キ方手本第二學年用	尋常小學讀本 五、六 尋常小學書キ方手本第三學年用	尋常小學讀本 七、八 尋常小學書キ方手本第四學年用	高等小學讀本 一、二 高等小學書キ方手本第一學年用	高等小學讀本 三、四 高等小學書キ方手本第二學年用
算術	尋常小學算術書第一學年教師用	尋常小學算術書第二學年教師用	尋常小學算術書第三學年教師用	尋常小學算術書第四學年教師用 高等小學算術書珠算用	高等小學算術書第一學年教師用 高等小學算術書第一學年兒童用 高等小學算術書珠算用	高等小學算術書第二學年教師用 高等小學算術書第二學年兒童用 高等小學算術書珠算用
日本歷史					小學日本歷史 一	小學日本歷史 二
地理					小學地理 一	小學地理 二
圖畫		尋常小學毛筆畫手本第二學年用	尋常小學毛筆畫手本第三學年用	尋常小學毛筆畫手本第四學年用	高等小學毛筆畫手本男生用第一學年乙種 高等小學毛筆畫手本女生用第一學年乙種	高等小學毛筆畫手本男生用第二學年乙種 高等小學毛筆畫手本女生用第二學年乙種

高等小學校

教科目	第一學年	第二學年
修身	高等小學修身書 第三學年教師用	高等小學修身書 第四學年教師用
	高等小學修身書 第三學年兒童用	高等小學修身書 第四學年兒童用
國語	高等小學讀本 五、六	高等小學讀本 七、八
	高等小學書キ方手本 第三學年用	高等小學書キ方手本 第四學年用
算術	高等小學算術書 第三學年教師用	高等小學算術書 第四學年教師用
	高等小學算術書 第三學年兒童用	高等小學算術書 第四學年兒童用
	高等小學算術書 珠算用	高等小學算術書 珠算用
日本歷史	小學日本歷史 三	小學日本歷史 四
地理	小學地理 三	小學地理 四
圖畫	高等小學毛筆畫手本 男生用第三學年	高等小學毛筆畫手本 男生用第四學年
	高等小學毛筆畫手本 女生用第三學年	高等小學毛筆畫手本 女生用第四學年
		小學校教師用幾何畫法 圖ノ部
		小學校教師用幾何畫法 說明ノ部
英語	井上小學英語讀本 一	井上小學英語讀本 二
商業	鹿野清次郎星野太郎共著 高等小學商業書 教師用 一	鹿野清次郎星野太郎共著 高等小學商業書 教師用 二
	鹿野清次郎星野太郎共著 高等小學商業書 兒童用 一	鹿野清次郎星野太郎共著 高等小學商業書 兒童用 二

尋常小學校

教科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年
修身	尋常小學修身書 教師用卷一	尋常小學修身書 教師用卷二				
	尋常修身掛圖					
	尋常小學修身書 兒童用卷一	尋常小學修身書 兒童用卷二				
國語	尋常小學讀本 卷一 卷二	尋常小學讀本 卷三 卷四	尋常小學讀本 卷五 卷六	尋常小學讀本 卷七 卷八	尋常小學讀本 卷九 卷十	尋常小學讀本 卷十一 卷十二
	尋常小學書キ方手本 第一學年用乙種	尋常小學書キ方手本 第二學年用上下乙種	尋常小學書キ方手本 第三學年用上下乙種	尋常小學書キ方手本 第四學年用上下乙種	尋常小學書キ方手本 第五學年用上下乙種	尋常小學書キ方手本 第六學年用上下乙種
算術	尋常小學算術書 教師用卷一	尋常小學算術書 教師用卷二	尋常小學算術書 教師用卷三	尋常小學算術書 教師用卷四	尋常小學算術書 教師用卷五	尋常小學算術書 教師用卷六
			尋常小學算術書 兒童用第三學年	尋常小學算術書 兒童用第四學年	尋常小學算術書 兒童用第五學年	尋常小學算術書 兒童用第六學年
日本歷史					尋常小學日本歷史 教師用卷一	
					尋常小學日本歷史 兒童用卷一	
地理					尋常小學地理 兒童用卷一	
	尋常小學毛筆畫帖 教師用					
		尋常小學毛筆畫帖 第三學年用	尋常小學毛筆畫帖 第四學年用	尋常小學毛筆畫帖 第五學年男生、女生用	尋常小學毛筆畫帖 第六學年男生、女生用	
	尋常小學鉛筆畫帖 教師用					

●小學校教科用圖書中修正改版等ノモノ使用ノ件

明治四十三年三月九日 告示第六十一號

明治四十一年三月告示第二十四號小學校ニ於テ使用スヘキ教科用圖書中左ニ掲クルモノハ明治四十三年四月一日ヨリ明治四十二年文部省ニ於テ修正改版又ハ新ニ編纂シタルモノヲ使用ス

圖畫		尋常小學鉛筆畫帖 第三學年用
	尋常小學新定畫帖教師用	尋常小學鉛筆畫帖 第四學年用
		尋常小學鉛筆畫帖 第五學年男生、女生用
		尋常小學鉛筆畫帖 第六學年男生、女生用
		尋常小學新定畫帖 第三學年用
		尋常小學新定畫帖 第四學年用
		尋常小學新定畫帖 第五學年男生、女生用
		尋常小學新定畫帖 第六學年男生、女生用

高等小學校

教科目	第一學年
日本歷史	高等小學日本歷史兒童用卷一
地理	高等小學地理兒童用卷一

●關東州小學校兒童等他學校ヘ入學轉學方　明治四十年五月十四日 文部省令第十五號

關東州小學校兒童及卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十三年勅令第三百四十四號小學校令ニ依リ設置シタル市町村立小學校ノ兒童及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

●關東州公學堂名稱、位置　明治四十年三月三十一日 告示第二十號　改正(四〇、告五五號、四二、告二五號)

關東州公學堂ノ名稱、位置左ノ通相定メ明治四十年四月一日ヨリ授業ヲ開始ス

名稱	位置
大連公學堂	大連
旅順公學堂	旅順
三澗堡公學堂	三澗堡
公學堂南金書院	金州
小平島公學堂	小平島
貔子窩公學堂	貔子窩
普蘭店公學堂	普蘭店

●關東州公學堂規則　明治四十一年三月三十日 府令第十五號

關東州公學堂規則左ノ通相定ム

關東州公學堂規則

第一章　總則

第一條　公學堂ハ支那人ノ子弟ヲ教育スル所トス

公學堂ニ於テハ兒童身體ノ發達ニ留意シ日本語ヲ教ヘ德育ヲ施シ竝其ノ生活ニ必須ナル普通ノ智識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

第二條　公學堂ハ關東都督ニ於テ必要ト認ムル地ニ之ヲ設置ス

第二章　修業年限、教科目、教科用圖書及編制

第三條　公學堂ノ修業年限ハ六箇年トス但シ土地ノ狀況ニ依リ四箇年ニ短縮スルコトヲ得

第四條　公學堂ノ教科目ハ修身、日本語、漢文、算術、圖畫、唱歌、體操トシ女生徒ニハ裁縫ヲ加フ

土地ノ狀況ニ依リ農業商業手工ノ一科目又ハ數科目ヲ加フルコトヲ得其ノ數科目ヲ加ヘタル場合ニハ農業商業ヲ併セ課スルコトヲ得ス

前項ニ依リ加フル教科目ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第五條　第三條第二項ノ修業年限ヲ短縮シ又ハ前條第二項ノ教科目ヲ加除セムトスルトキハ民政署長ニ於テ

其ノ理由及毎週教授時數表ヲ具シ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ

第六條　必要ニ應シ公學堂ニ補習科又ハ速成科ヲ置クコトヲ得

補習科及速成科ニ關スル規程ハ關東都督之ヲ定ム

第七條　公學堂ノ教科用圖書ハ關東都督之ヲ定ム

第八條　公學堂ノ教科目中生徒身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル教科目ハ之ヲ其ノ生徒ニ課セサルコトヲ得

第九條　各學年ノ教授ノ程度及毎週教授時數ハ別表ニ依ルヘシ

農業商業手工ノ一科目又ハ數科目ヲ加フルトキハ修身科ヲ除キ他ノ數科目ノ毎週教授時數ヨリ各二時以内ヲ割キ之ニ充ツヘシ

第十條　學堂長ニ於テ各學年ノ課程修了若ハ全教科ノ卒業ヲ認ムルトキハ別ニ試驗ヲ用ウルコトナク兒童平素ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ムヘシ

第十一條　學堂長ハ學年末ニ於テ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ第一號書式ノ修業證書ヲ修業年限ノ終ニ於テ全教科ヲ修了セリト認メタル者ニハ第二號書式ノ卒業證書ヲ授與スヘシ

第十二條　公學堂ニ於テ一學級ノ生徒數ハ六十人以下トス

第十三條　公學堂長ノ擔任スル教授ヲ補助スル爲四學級以上ノ公學堂ニ於テハ教諭又ハ助教一人ヲ置クコトヲ得

第十四條　公學堂ニ於テハ男女學級ヲ分ツヘシ

第十五條　公學堂ノ學級ヲ編制シ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ民政署長ニ於テ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ

第三章　學年及休業日

第十六條　公學堂ノ學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十七條　公學堂ノ學期ハ之ヲ分チテ左ノ二學期トス

第一學期　學年ノ始ヨリ夏期休業ノ前日ニ至ル

第二學期　夏期休業後ノ始業日ヨリ學年末休業日ニ至ル

第十八條　毎日ノ教授終始ノ時刻ハ學堂長之ヲ定ムヘシ

第十九條　公學堂ノ休業日ハ左ノ如シ

一　祝日、大祭日

二　日曜日

三　陸海軍紀念日

四　始政紀念日

五　開校紀念日

六　夏期休業日　八月一日ヨリ同月三十一日ニ至ル

七　冬期休業日　十二月二十六日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

八　學年末休業日　三月二十六日ヨリ同月三十一日ニ至ル

特別ノ事情ニ依リ前項ノ外臨時休業ヲ要スルトキ及前項第六號第七號ノ期日ヲ變更セムトスルトキハ學堂長ニ於テ其ノ事由ヲ具シ民政署長ノ認可ヲ受クヘシ

天災事變其ノ他ノ場合ニ際シ前項ノ認可ヲ受クル暇ナキトキハ學堂長ニ於テ臨時休業ヲ行フコトヲ得

第二十條　學堂長ハ夏期休業及冬期休業ノ前後各二十日以内ニ於テ毎日ノ教授時數ヲ減スルトキハ學堂長ニ於テ各教科目ノ毎週教授時數ヲ斟酌スヘシ

前項ニ依リ教授時數ヲ減スルトキハ學堂長ニ於テ各教科目ノ毎週教授時數ヲ斟酌スヘシ

第四章　年齡、入學、在學及退學

第二十一條　公學堂ニ入學スヘキ生徒ノ年齡ハ八歳以上十五歳以下トシ學年ノ始ニ於テ入學セシムヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　學力優等ニシテ年齢ノ長シタル生徒ハ學堂長ニ於テ各教科目ニ就キ試驗ノ上相當學年ニ編入スルコトヲ得

第二十三條　公學堂ニ兒童ヲ入學セシメムトスルトキハ其ノ兒童ヲ保護スル者ニ於テハ左ノ各號ニ揭ケタル事項ヲ具シ學堂長ニ願出ツヘシ

一　兒童竝保護者ノ氏名、出生年月日、本籍地、現住所

二　兒童入學前ノ經歷

三　保護者ノ職業及兒童トノ關係

在學ノ兒童ニ關シ前項第一號及第三號ニ揭クル事項ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ兒童死亡シタルトキハ保護者ニ於テ遲滯ナク之ヲ學堂長ニ屆出ツヘシ

第二十四條　學堂長ハ入學シタル兒童ニ就キ第三號書式ニ依リ學籍簿ヲ編制スヘシ

前項學籍簿ニ異動ヲ生シタル場合ハ其ノ都度遲滯ナク之ヲ加除訂正スヘシ

第二十五條　在學ノ兒童ヲ退學セシメムトスルトキハ其ノ兒童ヲ保護スル者ニ於テ其ノ事由ヲ具シ學堂長ニ願出ツヘシ

第二十六條　學堂長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ虞アル生徒ノ出席ヲ停止スルコトヲ得

第二十七條　學堂長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル生徒アルトキハ之ニ退學ヲ命スルコトヲ得

一　性行不良ニシテ他ノ生徒ノ教育ニ妨害アリト認メタル者

二　正當ノ理由ナクシテ引續キ二箇月以上闕席シ再ヒ出席スヘキ見込ナキ者

第二十八條　學堂長ハ第四號書式ニ依リ生徒出席簿ヲ調製シ其ノ出闕席ヲ明ニスヘシ

附　則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年三月關東州民政署令第十四號關東州公學堂規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（別　表）

教授ノ程度及毎週教授時數表

教科目	毎週教授時間	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年
修身	二	道德ノ要旨	同上	同上	同上	同上	同上
日本語	一〇	發音ハ近易ナル事項ノ方、片假字及近易ナル字話文ノ讀方書方綴方	同上、平假字及近易ナル話文ノ讀方綴方	同上、漢字交リ話文ノ讀方綴方	同上、漢字交リ話文ノ讀方綴方	同上	同上
漢文	七	單語及單句ノ平易ナル短文ノ讀方書方	平易ナル短句文ノ讀方書方綴方	平易ナル文章ノ讀方書方綴方	平易ナル文章ノ讀方書方綴方	同上	同上
算術	五	二十以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル數ヘ方書方及加減乘除	百以下ノ數ノ同上	通常加減乘除	整數、小數諸等數（珠算加減）	分數、少合算（珠算加減乘除）	同上
圖畫	（同上）	（單形簡易ナル形體）	（同上）	單形簡易ナル形體	簡易ナル形體	同上	同上
唱歌	二	平易ナル單音唱歌	同上	同上	同上	同上	同上
體操	三	遊戲	遊戲及普通體操	同上	同上	同上	同上
裁縫	（同上）	（運針法及通常衣類ノ縫方）		運針法及通常衣類ノ縫方	通常衣類縫方裁方	同上	同上

手工	農業	商業	計
（簡易ナル細工）			二八
（同上）			二八
（同上）			三〇
（同上）			三〇
（同上）	農業汎論、土壤、作物、耕作	商業算術、商業通信、商業要項	
（同上）	肥料、耕耘、農具、病害蟲	商品、商業地理、經濟	三〇
（同上）	園藝、家畜、造林、丈量	簿記、法規、實踐	三〇

手工ハ第一學年第二學年第三學年ニ於テハ毎週一時、第四學年第五學年第六學年ニ於テハ毎週二時之ヲ課スルコトヲ得

圖畫、裁縫ハ第一學年第二學年ニ於テ毎週一時之ヲ課スルコト得

（第一號書式）

第　號

修業證書

校印

原籍

氏名

年月日生

公學堂第何學年ノ課程ヲ修業セシコトヲ證ス

明治　年　月　日

何公學堂

（第二號書式）

第　號

卒業證書

校印

原籍

氏名

年月日生

公學堂ノ教科ヲ卒業セシコトヲ證ス

明治　年　月　日

何何公學堂長何某印

（第三號書式）

氏名	生年月日	學業成績	學年	第一學年	第二學年
			修身		
			日本語		
			漢文		
			算術		
			圖畫		
			唱歌		
			體操		
			操行		
			修了ノ年月日		
			出席日數		
			缺席日數		
			病氣		
			事故		
			身長		
			體重		
			胸圍 常時		
			胸圍 最大ノ差		
			脊柱		
			體格		
			眼疾		
			耳疾		
			齒牙		
			疾病		

住所	族籍	入學年月日	入學前ノ經歷	卒業年月日	退學年月日	退學ノ理由

保護者	氏名	住所	族籍	職業	兒童トノ關係

第三學年	
第四學年	
第五學年	
第六學年	
備考	

備考　身體ノ状況ノ欄ハ當分ノ間之ヲ闕クコトヲ得

（第四號書式）

明治　年　月分

學堂第　學年生徒出席簿　受持

番號	氏名	一日 曜	二日 曜	三日 曜	四日 曜	五日 曜	六日 曜	七日 曜	八日 曜	九日 曜	十日 曜	十一日 曜	十二日 曜	十三日 曜	十四日 曜	十五日 曜	十六日 曜	十七日 曜	十八日 曜	十九日 曜	二十日 曜	廿一日 曜	廿二日 曜	廿三日 曜	廿四日 曜	廿五日 曜	廿六日 曜	廿七日 曜	廿八日 曜	廿九日 曜	三十日 曜	卅一日 曜	出席數	闕席數

教授日數	入學生徒數	退學生徒數	月末在籍生徒數	皆出席生徒數	皆闕席生徒數	日日平均出席生徒數	日日平均闕席生徒數

	出席數	闕席數
計		

（記號例）／出席　×早退　∅遲參　○病氣闕席　△事故闕席

●營口小學校ヲ在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ指定

明治四十一年十二月七日
文部省告示第二百一號

在清國牛莊居留民ノ設置ニ係ル牛莊居留民團立營口尋常高等小學校ヲ在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法第一條ニ依リ指定セリ

●公立奉天小學校ヲ在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ指定

明治四十一年一月二十日
文部省告示第三十六號

在清國奉天居留民ノ設置ニ係ル公立奉天小學校ヲ在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法第一條ニ依リ指定セリ

●公立鐵嶺小學校在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ指定

明治四十一年六月二十六日
文部省告示第八十八號

在清國鐵嶺居留民會公立鐵嶺小學校ヲ在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法第一條ニ依リ指定セリ

●安東小學校ヲ在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ指定

明治四十年二月二十日
文部省告示第七十七號

在清國安東居留民ノ設立ニ係ル安東尋常高等小學校ヲ在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法第一條ニ依リ指定セリ

●都督府中學校名稱、位置

明治四十三年三月二十六日
告示第二十二號

關東都督府中學校ノ名稱、位置左ノ通定メ明治四十二年五月一日ヨリ授業ヲ開始ス

名稱	位置
關東都督府中學校	旅順竹園町新市街

●都督府中學校規則

明治四十三年三月二十六日
府令第五號

關東都督府中學校規則左ノ通定ム

關東都督府中學校規則

第一條　關東都督府中學校ハ男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲ス所トス

第二條　修業年限ハ五箇年トス但シ學校長ニ於テ卒業者ノ爲ニ關東都督ノ認可ヲ經テ二箇年以內ノ補習科ヲ置クコトヲ得

第三條　生徒ハ之ヲ寄宿舍ニ收容ス但シ特別ノ事情アリテ外宿セムトスル者ハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第四條　生徒服制ハ學校長之ヲ定ム

第五條　學科目ハ修身、國語及漢文、英語、歷史及地理、數學、博物、物理及化學、圖畫、體操トス

清語、法制及經濟ハ隨意科目トシテ之ヲ加フ

補習科ノ各學科目ハ之ヲ隨意科目トシテ爲スコトヲ得

第六條　教科書及各學年ニ於ケル各學科課程、每週教授時數ハ關東都督ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

第七條　學校長ハ各學年ニ於テ教授スヘキ各學科ノ教授要目ヲ定ムヘシ

第八條　學校長ハ生徒ノ修學旅行ヲナスコトヲ得但シ關東州以外ノ地ニ旅行セムトスルトキハ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十條　休業日ハ左ノ如シ

一　紀元節、天長節、大祭日

二　日曜日

三　陸海軍紀念日
四　始政紀念日

前項ノ外休業ヲ要スルトキハ學校長ニ於テ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條　紀元節、天長節、一月一日及始政紀念日ニハ職員及生徒ハ學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第十二條　第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者ハ尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ年齢十二年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ但シ尋常小學校ノ課程ヲ卒ラサル者ニ就キテハ試驗ニ依リテ其ノ學力ヲ檢定ス

第一學年入學志願者中尋常小學校ノ課程ヲ卒リタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チテ入學ヲ許ス但シ其ノ數入學ヲ許スヘキ人員ニ超過スルトキハ試驗ニ依リテ入學者ヲ選拔スヘシ

前二項ノ試驗ハ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フ

第十三條　中學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタルトキヨリ一箇年以內ニ於テ入學ヲ志願シタルトキハ試驗ニ依ラスシテ原學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十四條　他ノ中學校ヨリ轉學ヲ志願スル生徒アルトキハ學校長ハ關員アル場合ニ限リ之ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ規程ニ依リ轉學ヲ許可スル生徒ハ試驗ヲ行ハスシテ同一學年ニ編入スルコトヲ得

第十五條　學校長ハ入學ヲ許可スヘキ者ノ身體及品行ヲ調査スヘシ

第十六條　他ノ中學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認メタル場合ニ限リ承認ヲ與ヘ其ノ生徒ノ在學證書及成績表ヲ移轉先學校ニ送付スヘシ

第十七條　生徒退學セムトスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條　各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試驗ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム

第十九條　學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第二十條　學校長ハ修業年限ノ終リニ於テ中學校ノ學科ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第二十一條　學校長ハ生徒又ハ學級其ノ他生徒團ノ成績ヲ表彰スルコトヲ得

第二十二條　學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一　性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
二　成業ノ見込ナシト認メタル者
三　出席常ナラサル者

前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ之ヲ關東都督ニ報告スヘシ

第二十三條　學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第二十四條　授業料ハ一人一箇月一圓トス但シ一家內ノ生徒二人以上在學スルトキハ上級ノ者一人ヲ全額トシ他ハ總テ半額トス

寄宿舍費ハ學校長之ヲ定ム

第二十五條　授業料ハ每月十六日ニ於テ其ノ月分ヲ徵收ス但シ納期日休業日ニ當ルトキハ繰下ケ退學又ハ死亡ノ場合ハ隨時之ヲ徵收ス

休業又ハ闕席全月ニ渉リタルトキハ其ノ月分ノ授業料ヲ徵收セス

第二十六條　本令施行ニ關シ必要ナル規程ハ關東都督ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

旅順工科學堂規則

明治三十年六月六日　府令第十二號
改正　四三、府二五號）

旅順工科學堂規則左ノ通定ム

旅順工科學堂規則

第一章　總則

第一條　旅順工科學堂ハ工業ニ須要ナル高等ノ學術技藝ヲ教授スルヲ以テ目的トス

第二條　旅順工科學堂ニ左ノ學科ヲ置キ生徒ヲシテ各其ノ一學科ヲ專修セシム

機械工學科
電氣工學科
採鑛冶金學科

第三條　各學科ノ修業年限ヲ四箇年トス

第四條　卒業者ニシテ既修ノ學科ニ就キ更ニ研究セムトスル者アルトキハ二箇年以內在學セシムルコトヲ得

第五條　各學科中ノ一學科目若ハ數學科目ヲ選擇シテ學修セムトスル者ハ四箇年以內在學ヲ許スコトヲ得

第二章　學科課程

第六條　各學科ノ學科目竝其ノ程度ハ學長之ヲ定ム

第三章　學年學期及休業

第七條　各學科ノ修業年限ヲ四學年ニ分チ各學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條　學年ヲ分テ三學期トシ第一學期ハ四月一日ニ始リ七月三十一日ニ終リ第二學期ハ八月一日ニ始リ十一月十日ニ終リ第三學期ハ十一月十一日ニ始リ翌年三月二十一日ニ終ル

第九條　休業日ハ左ノ如シ

一　祝日大祭日
一　日曜日

一　陸海軍紀念日
一　始政紀念日
一　學堂紀念日
一　冬季休業
一　春季休業
一　夏季休業

前項ノ外休業ヲ要スルトキハ學長ニ於テ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ

第四章　入學、在學、休學、退學及懲戒

第十條　入學ノ時期ハ學年ノ始トス

第十一條　入學スルコトヲ得ル者ハ品行方正、志望堅固、年齡十七年以上ノ男子ニシテ左ノ諸號ノ一ニ該當シ且身體檢查ヲ受ケ之ニ合格シタル者タルヘシ

一　中學校ヲ卒業シタル者
一　工業學校ヲ卒業シタル者

第十二條　入學志願者ノ數募集豫定人員ニ超過スルトキハ其ノ優良ナル者ヲ選拔シ入學ヲ許可ス

第十三條　入學志願者ハ第二條ニ揭ケタル學科中ニ就キ一學科ヲ選ヒ願出ツヘシ但シ豫備トシテ更ニ一學科ヲ選定スルコトヲ得

第十四條　入學志願者ハ別記第一號書式ノ入學願書ニ第二號書式ノ證明書及第三號書式ノ身體檢查書ヲ添ヘ出願スヘシ

第十五條　入學ヲ許可セラレタル者ハ別記第四號書式ノ在學證書ヲ指定ノ期日內ニ差出スヘシ

第十六條　生徒ハ制服ヲ著用スヘシ

制服ハ學長之ヲ定ム

第十七條　病氣ニ罹リ三箇月以上修業シ能ハスト思料スル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ父兄（父兄ナキトキハ之ニ代ルヘキ最近ノ親族）連署ノ願書ヲ差出シ許可ヲ得テ該學年ノ終リマテ休學スルコトヲ得

第十八條　生徒退學セムトスルトキハ學長ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條　成業ノ見込ナシト認メタル生徒ハ學長ニ於テ之ヲ除籍スルコトヲ得

第二十條　學長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

懲戒ヲ譴責、停學、放校ノ三トス

第五章　試驗、進級及卒業

第二十一條　試驗ハ隨時之ヲ施行ス

實修化學分析及製圖ノ試驗ハ之ヲ行ハサルコトヲ得

第二十二條　試驗ニ缺席シタル者ハ詮議ノ上追試驗ヲ行フコトヲ得

第二十三條　進級ハ該學年間ノ成績ニ就キ之ヲ評定ス

第二十四條　第四學年ノ試驗ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第六章　補則

第二十五條　生徒ハ之ヲ寄宿舍ニ收容ス但シ特別ノ事情アリテ外宿セムトスル者ハ學長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十六條　授業料ハ當分ノ內之ヲ徵收セス

（第一號書式）（用紙美濃紙）

入學願

豫備志望學科

志望學科

私儀貴學堂入學前記ノ學科修業致度候條別紙證明書竝身體檢查書相添ヘ此段相願候也

原籍　道府縣郡市町村番地

族稱戶主（戶主ニ非サレハ誰子弟等）

現住所　道府縣郡市町村番地（寄留又ハ同居等）

家業　……

學歷　何中學校卒業（又ハ第五學年在學中ニテ中學校ノ場合）

年　月　日

何　某印

生年月日

當時何歲何月

旅順工科學堂學長宛

備考

一　本表ハ自筆タルコトヲ要ス

二　志願者氏名ニハ片假名ヲ附スヘシ

（第二號書式）（用紙美濃紙）

證明書

道府縣族稱

何　某

生年月日

右者何年何月本校第何學年ニ入學何年何月本校ヲ卒業シ（又ハ目下第五學年在學中ニテ中學校ノ場合）左ノ成績ヲ得タルコトヲ證明ス

年　月　日

學業成績

學年	修了ノ月日	何學科	……	……	……	……	同學年合格生徒數並席次	操行	備考
第一學年		評點							
第二學年		……							
……		……							

（第三號書式）（用紙美濃紙）

身體檢查書

族稱　何

生年月日　某

一　體格
一　身長
一　體重
一　胸圍
一　中心視力
　　色盲
　　眼病
一　聽力
　　耳疾
一　呼吸器
一　神經系
一　皮膚
一　言語
一　既往現在ノ疾病又ハ畸形

右檢查候處相違無之候也

年　月　日檢查

住所
何學校醫
學位若ハ資格　何　某　印

何中（工業）學校長　何　某　殿

身體檢查書記載方心得

一　檢查器械ハ「メートル」式ニ從ヒ衡器ハ水準器ヲ具ヘタルモノヲ可トス

二　檢查ノ表記ニハ衡ハ「キログラム」度ハ「センチメートル」ヲ以テ一位トシ以下四捨五入法ヲ用ヒテ小數一位ヲ作ルヘシ

三　體格ハ強健、中等、薄弱ノ三等ニ區別スヘシ

四　體格ノ強健ト稱スル者ハ發育榮養共ニ佳良ニシテ其ノ身長（桿）ヲ以テ體重（廷）ヲ除シタル商〇、三二以上且無病健全ノ者ヲ指ス
中等ト稱スルハ發育榮養共ニ通常ニシテ其ノ身長（桿）ヲ以テ體重（廷）ヲ除シタル商〇、二六以上且無病ノ者ヲ指ス
薄弱ト稱スルハ發育榮養共ニ不十分ナルカ或ハ身長（桿）ヲ以テ體重（廷）ヲ除シタル商〇、二六未滿ナルカ或ハ強度ノ脊柱彎曲扁平胸狹小胸若ハ全身ノ健康ニ直接ノ關係アル慢性ノ疾患アル者ヲ指ス

五　中心視力ハスネルレン氏ノ試視力表ニ依リテ其ノ記載方ハ20/xト記スヘシ但シ遠視若ハ近視ニアリテハ二十尺ノ距離ニ於テ二十號ヲ明

視シ得ル眼鏡ノ度ヲ記載スヘシ
色盲ハ其ノ有無若シ其ノ患アル者ハ何色盲ト記載スヘシ
六　呼吸器ハ理學的診斷ノ成績ヲ記載スヘシ
七　神經系ハ中樞若ハ末梢神經ニ障害ノ有無ヲ記載スヘシ
八　皮膚ハ主トシテ傳染症皮膚病ノ有無ヲ記載スヘシ若シ顏面等ニ現ハタル皮膚病アルトキハ之ヲモ記載スヘシ
九　言語ハ明朗、吃嗄聲等ヲ記載スヘシ
十　既往現在ノ疾病又ハ畸形ハ腸病、肺病、肋膜病、脚氣等ノ曾患、肺病、心臟病、胃腸病等ノ現在及顯著ナル畸形ヲ記載スヘシ

（第四號書式）（用紙美濃紙）

在學證書

收入印紙

右今般入學御許可相成候ニ就テハ御規則確守可致候也

年　月　日

原籍
族稱　氏名
生年月日
本人　氏名印
原籍
現住所
職業
父又ハ親族　氏名印

旅順工科學堂學長宛

●旅順工科學堂位置及學年開始　明治四十三年三月二十日告示第七十四號

旅順工科學堂ノ位置左ノ通定メ明治四十三年四月一日ヨリ學年ヲ開始ス

旅順工科學堂位置　旅順新市街札幌町

●都督府高等女學校規則　明治四十三年三月三十一日府令第四號

關東都督府高等女學校規則左ノ通定ム

關東都督府高等女學校規則

第一條　關東都督府高等女學校ハ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲ス所トス

第二條　修業年限ハ五箇年トス

第三條　生徒ハ之ヲ寄宿舍ニ收容ス但シ特別ノ事情アリテ外宿セムトスル者ハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第四條　學科目ハ修身、國語、歷史及地理、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、音樂、體操トス
英語、教育、手藝ハ隨意科目トシテ之ヲ加フルコトヲ得
生徒身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル學科目ハ之ヲ其ノ生徒ニ課セサルコトヲ得

第五條　教科書及各學年ニ於ケル各學科課程、毎週教授時數ハ關東都督ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

第六條　學校長ハ各學年ニ於テ教授スヘキ各學科ノ教授要目ヲ定ムヘシ

第七條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條　休業日ハ左ノ如シ

一　祝日、皇后陛下御誕辰ノ日

二　大祭日
三　日曜日
四　陸海軍紀念日
五　始政紀念日

前項ノ外休業日ヲ要スルトキハ學校長ニ於テ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者ハ尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十二年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ但シ尋常小學校ノ課程ヲ卒ラサル者ニ就キテハ試驗ニ依リテ其ノ學力ヲ檢定ス

第一學年入學志願者中尋常小學校ノ課程ヲ卒リタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チテ入學ヲ許スヘキ人員ニ超過スルトキハ試驗ニ依リテ入學者ヲ選拔スヘシ

前二項ノ試驗ハ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フ

第十條　第二學年以上ニ入學スルコトヲ得ル者ハ相當年齡ニ達シ前各學年ノ課程ヲ卒リタル者ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試驗ニ依リテ之ヲ檢定ス

第十一條　高等女學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタルトキヨリ一箇年以内ニ於テ入學ヲ志願シタルトキハ學校長ハ試驗ニ依ラスシテ原學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトヲ得

第十二條　他ノ高等女學校ヨリ轉學ヲ志願スル生徒アルトキハ學校長ハ關員アル場合ニ限リ之ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ規程ニ依リ轉學ヲ許可スル生徒ハ試驗ヲ行ハスシテ同一學年ニ編入スルコトヲ得

第十三條　學校長ハ入學ヲ許可スヘキ者ノ身體及品行ヲ調査スヘシ

第十四條　他ノ高等女學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認メタル場合ニ限リ承認ヲ與ヘ其ノ生徒ノ在學證書及成績表ヲ移轉先學校ニ送付スヘシ

第十五條　生徒退學セムトスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第十六條　各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試驗ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ムヘシ

第十七條　學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第十八條　學校長ハ修業年限ノ終リニ於テ高等女學校ノ學科ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第十九條　學校長ハ生徒又ハ學級其ノ他生徒團ノ成績ヲ表彰スルコトヲ得

第二十條　學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一　成業ノ見込ナシト認メタル者

二　出席常ナラサル者

前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ之ヲ關東都督ニ報告スヘシ

第二十一條　學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

懲戒ハ譴責、停學、放校ノ三トス

第二十二條　授業料ハ一人一箇月金一圓トス但シ一家内ノ生徒二人以上在學スルトキハ上級ノ者一人ヲ全額トシ他ハ總テ半額トス

寄宿舍費ハ學校長之ヲ定ム

第二十三條　授業料ハ毎月十六日ニ於テ其ノ月分ヲ徵收ス但シ納期日休業日ニ當ルトキハ繰下ケ退學又ハ死亡ノ場合ハ隨時之ヲ徵收ス

休業又ハ闕席全月ニ渉リタルトキハ其ノ月分ノ授業料ヲ徴收セス

第二十四條　本令施行ニ關シ必要ナル規程ハ關東都督ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

附　則

第二十五條　第一學年及第二學年ノ生徒ハ當分ノ內之ヲ募集セス

第二十六條　本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●都督府高等女學校名稱位置及授業開始　明治四十三年四月二十日告示第百四號

關東都督府高等女學校ノ名稱位置左ノ通定メ明治四十三年七月一日ヨリ授業ヲ開始ス

名稱	位置
旅順高等女學校	旅順新市街中村町

●教育上ニ關シ學校職員及學生生徒ニ諭ス　明治四十三年七月二日告諭第一號

小學校公學堂ハ其ノ兒童年ヲ逐ヒテ增加シ中等教育專門教育ノ學校亦相踵テ設立セラレ今ヤ教育ノ機關略備ハレリ此ノ機會ニ際シ一言以テ職員及學生生徒ニ告ケ遊由スル所ヲ示サムトス

各學校職員及學生生徒ハ常ニ明治二十三年十月教育ニ關シ下シ給ヒシ勅語ノ御趣旨ヲ奉體シ又戊申詔書ノ聖旨ヲ服膺シ以テ子弟ノ教育ニ任シ日常學修ノ指針トナスヘキコトハ勿論ニシテ今復茲ニ緊說スルノ要ヲ見ス

抑小學教育ハ諸教育ノ基礎ニシテ其ノ要旨トスル所ハ兒童心身ノ發達ニ留意シ其ノ德性ヲ涵養シ道德ノ實踐ヲ指導シ他日社會ニ立チ日常生活ニ必要ナル智識技能ヲ有シ勤勉ニシテ克ク職業ニ勵ミ健全ニシテ克ク國家ノ生產ニ貢獻スヘキ忠良ナル國民ヲ養成スルニ在リ本府小學校ハ設立以來其ノ設備ニ注意シ教員ヲ精選シ以テ小學教育ノ效果ヲ完カラシメムコトヲ期セリ職ヲ教育ニ奉スル者責務ノ重大ナルコトヲ自覺シ教育ニ對スル趣味ヲ深クシ學識ヲ養ヒ又克ク教育ノ理法ニ通シ著實ニシテ時流ヲ趁ハス常ニ兒童ノ環境ニ注意シ精神內ニ充チテ感化外ニ行ハレ以テ初等國民教育ノ效果ヲ確實ナラシメムコトヲ期スヘシ

中學校及高等女學校ハ高等普通教育ヲ施シ以テ國家ノ中堅タルヘキ國民ヲ養成スル所ニシテ他ノ高等教育ニ進ムヘキ門戶ニアラス現今中等教育ノ弊實ハ智識ノ消化技能ノ習熟如何ヲ顧ミス徒ニ高尙ナル理論ト煩瑣ナル事項トヲ授ケ特ニ品性ノ陶冶ヲ閑却スルニ在リ惟フニ軟弱ナル文學ニ耽リ不健全ナル讀書ニ親ミ男子ハ堅忍不拔ノ志ナク剛健質實ノ氣象ニ乏シク女子ハ溫順貞淑ノ美德ヲ少キ浮華輕躁ニ流ルルノ風アルハ蓋シ現今學生中多ク見ルノ狀態ナリ是レ環境ノ然ラシムル所ナリト雖深ク注意ヲ致ササルヘカラス且夫レ中等教育時代ハ最社會ノ惡風ニ染ミ各種ノ誘惑ニ陷リ易シ一タヒ此ノ惡風ニ汚染スルトキハ永ク之ヲ芟除スルコト能ハス終ニ一生ノ幸福ヲ放擲セサル可ラサルニ至ル須ラク學業ヲ砥礪シ運動ヲ奬勵シ規律ヲ重ンシ禮節ヲ尙ヒ強固ナル意志ヲ鍛鍊シ女子ニ在リテハ貞淑ノ德ヲ涵養シ他日良妻賢母タルノ素地ヲ作リ以テ將來ノ大成ヲ期スヘキナリ職員生徒夫レ克ク此ノ旨ヲ體シ以テ中等教育ノ本旨ニ副ハムコトヲ期スヘシ

工科學堂ハ本府最高ノ專門教育機關ニシテ滿洲利源ノ開發ニ關シ重荷ヲ前途ニ擔フモノ職員學生ノ責任輕シトセス熟々輓近工業進步ノ大勢ヲ察スルニ單ニ從來ノ經驗ニ依賴シテ小規模ノ天地ニ跼蹐スルヲ許サス又徒ニ學理ニ拘泥シテ實際ニ迂遠ナル經營ヲ容レス必ス確實ナル科學ノ智識ヲ基礎トス而モ理論ニ偏スルコトナク時ト所トニ從ヒ實地ニ活用シ得ヘキ材幹アル人物ヲ養成セサルヘカラス而シテ一般專門教育ノ通弊ハ動モスレハ教授ノ大根本ヲ忘レテ枝葉ニ走リ徒ニ新研究ヲ穿說シテ要點ヲ逸シ又單ニ技術ノミヲ尊重シテ高尙ナル人格ノ養成ヲ忽ニスルニ在リ是レ職員ノ最意ニ注意ヲ致スヲ要スル所ナリ而シテ學生ハ將來社會ノ中流以上ニ立ツモノ須ラク活用ノ材アル專門家タリ技術家タルト俱ニ特ニ品格ヲ有スル人物タラムコトヲ期スヘシ

支那人子弟ノ教育ハ戰後夙ニ著手セシ所ナリ爾來之カ普及ヲ圖リ專ラ人文ノ發達風氣ノ開發ニ努力セリ幸ニ

各地ノ民心翕然トシテ學事ニ向ヒ漸次文明ノ化ニ浴スルニ至レリ由來言語ヲ異ニシ風俗ヲ同ウセサル子弟ヲ教育シ其ノ效果ヲ擧ケムコト固ヨリ至難ノ事業ニ屬スト雖文化ノ普及ハ正ニ人道ノ完美ヲ圖ル所以ナルヲ思ヒ懇切叮嚀成果ヲ永遠ニ期スルコトヲ努ムヘシ

以上各學校教育ノ目的ハ彼此相異ナル所アリト雖各其ノ目的ニ從ヒ適切ナル教育ヲ施シ理論ニ驚セテ應用ヲ忽ニセス新奇ヲ競ヒテ著實ヲ失ハス以テ國家有用ノ材ヲ陶成セムコトヲ要ス

惟フニ時勢ノ推移ニ伴ヒ我國特有ノ美風ハ將ニ銷磨シ社會ハ一般ニ奢侈ニ流レ人ハ徒ニ私利ヲ重ンシ剛健ノ氣風漸ク地ヲ掃ハムトス而シテ學校ノ教育モ亦社會ノ風潮ト共ニ智識ノ授與ニ是レ急ニシテ人格ノ養成ヲ忽ニスルニ至レリ此ノ故ニ今日ノ教育ニ於テ上下ヲ通シテ最意ヲ致スヘキハ訓育ニ在リ抑人ノ德器ヲ成就セシムルハ之ヲシテ多識ナラシムルニ比シ一層ノ難事タリ且夫レ品性ハ本ナリ智識ハ末ナリ本ヲ忘レテ末ニ馳スルコトナク克ク常識ヲ養ヒ公德ヲ重ンシ偏狹ノ性ヲ去リ快濶ナル氣象ヲ鍊リ堅實ナル思想ヲ養フコトニ注意スルヲ要ス各校職員夫レ克ク一致協同相扶ケ相親ミ忠實熱心職務ニ精勵シ躬ヲ以テ學生生徒ヲ率キ以テ訓育ノ效果ヲ完ウスルコトヲ期スヘシ

教育界ニ於ケル流弊ニシテ最モ戒ム可キモノアリ即チ學生生徒ニシテ動モスレハ職員ニ對シテ反抗ヲ試ミ或ハ上司ニ向ヒテ要請ヲ擅ニシ校則ヲ紊リ校則ヲ壞リ矯激ノ擧動ヲ敢テシ種々ノ紛擾ヲ釀ス者アルコト是ナリ斯ノ如キハ學生生徒ノ本分ヲ忘ルルモノニシテ啻ニ風紀ヲ亂スノミナラス又其ノ一生ノ計ヲ誤ルニ至ル須ラク已ニ克チ自ラ修メ學生タルノ本分ヲ完ウセムコトヲ期スヘシ

品性ノ陶冶ト相俟テ忽ニスヘカラサルハ體育ナリ體育ノ目的トスル所ハ身體各部ノ均齊ナル發育ト體軀ノ强健トヲ計ルニ在リト雖精神ト身體トノ關係ヲ調和發達セシムルモ亦至要ノ事ニ屬ス活潑ナル精神ノ健康ナル身體ニ宿ルコトヲ知ラハ體育ハ則チ智育德育ノ根源タルヲ知ルヘシ古來我國人ハ武術ヲ用テ專ラ身體ト精神トヲ鍛鍊シ以テ能ク剛健ノ氣象ヲ養成セリ惟フニ國民健康ノ如何ハ一國ノ存亡ニ關スルコト大ナリ職員及學生生徒夫レ克ク此ノ點ニ留意スヘシ

本州ハ支那民族ノ我カ統治ノ下ニ生ヲ聊セントスル者衆ク亦世界交通ノ要路ニ當ルヲ以テ各種民族ノ來往居住スル者漸ク多キヲ加ヘムトス此ノ間ニ處シ學生生徒ヲシテ民族的憎惡ノ念ヲ去ラシメ一視同仁以テ人道ノ完美ヲ圖ラシムルハ實ニ各校職員ノ責務タリ若夫レ學生生徒ニシテ放漫自ラ制セス或ハ禮節ヲ藐視シ或ハ冷罵ヲ逞ウシ或ハ粗野ノ行爲ヲ敢テスルカ如キ弊風ヲ長セシムルコトアラハ獨リ教育上ノ失體タルノミナラス國家ノ體面ヲ汚瀆スルコトナキヲ保セス各校職員夫レ克ク戒愼ヲ加ヘ教養ヲ誤ルコトナキヲ期スヘシ

今ヤ滿洲ハ列國環視ノ中ニ在リ蕞爾タル其ノ一角ニ集マレル各校職員及學生生徒ハ寔ニ帝國ヲ代表スル分子タリ各校職員及學生生徒ハ深ク意ヲ此ニ注キ其ノ一擧一動ノ帝國ノ面目ニ關スル所以ヲ察シ又此ノ關東州ノ歷史的事蹟ノ顯著ナルニ考ヘ克ク上述ノ趣旨ヲ體シテ立身報國ヲ期スヘシ

第三章　勸業

●都督府ノ保證又ハ試驗濟等ノ文字記入ニ關スル件

明治四十一年六月二十六日
府令第三十七號
改正(四三、府一三號)

關東都督府ノ保證又ハ試驗濟等ノ文字記入ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條　關東都督府ノ檢査印紙ヲ貼付シタル藥品ノ外物品ノ廣告、揭示、印刷物又ハ其ノ容器、包紙ニ關東都督府ノ保證又ハ試驗濟其ノ他之ニ類スル文字ヲ記入スルコトヲ得ス

關東都督府ノ試驗成績ヲ表示セムトスル者ハ其ノ成績書ノ全文ヲ記載スヘシ

第二條　本令ニ違反シタル者又ハ關東都督府ノ檢査ヲ詐稱シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ明治四十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

關東州石材採掘規則

明治三十年十月二日府令第五十六號

關東州石材採掘規則左ノ通相定ム

關東州石材採掘規則

第一條　關東州內ニ於テ石材ノ採掘ヲ爲サムトスル者ハ本令ニ依リ所轄民政署長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　石材ノ採掘ヲ爲サムトスル者ハ其ノ本人又ハ代理人カ關東州內ニ住居スルコトヲ要ス但シ法人ニ在テハ關東州內ニ事務所ヲ有シ又ハ代表者カ住所ヲ有スルコトヲ要ス

第三條　營業ノ爲石材ノ採掘ヲ爲サムトスル者ハ別記書式ニ準シタル書面ニ各事業設計明細書、借區ノ位置、形狀及坪數ヲ記載セル圖面ヲ添ヘ所轄民政署長ニ願出ツヘシ

借區地カ他人ノ採掘地ト隣接セルトキハ六間以上ノ間隔ヲ存スヘシ

第四條　城堡、軍港、要港、火藥庫、火藥製造所及彈藥庫ノ周圍三百間以內ノ場所竝要塞地帶內ハ石材ノ採掘ヲ爲シ又ハ使用スルコトヲ得ス但シ所轄官憲ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　鐵道、公道、社寺境內、公園及墓地內ニ於テ石材ノ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但シ官ノ許可及關係人ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條　官有地ニ於テ石材採掘ヲ爲ス者ハ土地使用料トシテ百坪ニ付一箇年金六十錢ヲ納ムヘシ但シ百坪ニ滿タサルトキト雖百坪トシテ計算ス

前項ノ使用料ハ事業設計書ニ依リ豫定採掘坪數ニ對スル一箇年分ノ金額ヲ納付スヘシ

第七條　土地使用料ハ前年十二月十五日迄ニ初年ニ係ルモノハ月割ヲ以テ許可ノ日ヨリ六十日以內ニ之ヲ納ムヘシ

第八條　官有地借區ノ面積ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特ニ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　營業ヲ目的トスルモノ　五萬坪以內

一　自家ノ使用ヲ目的トスルモノ　百坪以內

第九條　石材ノ採掘ヲ營業トスル者ハ每年六月、十二月ノ兩期ニ前月迄ノ事業ノ經過、採掘高、販路及販賣高ヲ記載シタル書面ヲ作リ所轄民政署長ニ屆出ツヘシ

第十條　官ノ許可ヲ得スシテ採掘ノ權利ヲ債權ノ擔保トナシ又ハ賣買、讓與其ノ他ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條　石材採掘ノ許可ヲ得タル官有地ハ他ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第十二條　石材採掘者ニシテ六十日以上休業セムトスルトキハ所轄民政署長ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條　左ノ場合ニ於テハ民政署長ハ石材採掘ノ停止ヲ命シ又ハ許可ヲ取消スコトヲ得

一　危險又ハ公益ニ害アリト認メタルトキ

二　官ノ命令ニ從ハサルトキ

三　許可ノ日ヨリ三箇月以內ニ著手セス又ハ一箇年以上休業シタルトキ

四　期限內ニ料金ヲ納入セサルトキ

五　第二條ノ要件ヲ缺キタルトキ

六　其ノ他官ニ於テ必要ト認メタルトキ

第十四條　許可ヲ得スシテ石材ヲ採掘シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第十五條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條　本令公布前ニ石材採掘ノ許可ヲ受ケ仍引續キ採掘スル者ハ本令施行ノ日ヨリ二十日以內ニ所轄民政署長ニ屆出ツヘシ

第十七條　土砂ノ採取ニ付テハ本令ヲ準用ス

（書式）用紙美濃罫紙

石材採掘許可願

一　何會何屯

坪數何坪　官有地　民有地　何坪　何坪

右ノ地内ニ於テ營業（又ハ自家用）ノ爲石材採掘致度候ニ付御許可被成下度別紙事業設計明細書竝圖面相添ヘ此段奉願候也

年　月　日

關東都督宛

原籍

住所

出願人　氏　名　㊞

●螣虫發生豫防方

明治三十九年九月一日　告諭第一號

本年立秋以來金州、普蘭店、柳樹屯各地ニ於テ螣虫發生シテ稼禾ヲ害スルノ報アリ誠ニ憂慮ニ堪ヘス抑害虫ノ發生スルハ天候ノ時アリテ翹虫ノ生存、卵子ノ孵化、仔虫發育ヲ促スニ因ル而シテ本年其ノ發生特ニ多キハ本年冬期ニ於ケル積雪ノ極メテ深カリシコトト夏期ニ於ケル降雨少カリシコトトニ基因スルモノニシテ漢土及英米諸國ニ於テモ古來屢其ノ發生災害ヲ被ムレリ査スルニ金州地方亦然リ聞ク所ニ據レハ農人一般豪雨ヲ渇望シツツアリト宜ナリ驟雨沛然トシテ至ラムカ何ソ獨農人ノ喜悅ノミナラムヤ然リト雖天候ハ人力ヲ以テ如何トモ爲シ能ハサルコトニ屬ス徒ニ驅除其ノ機ヲ失シ漫リニ蟲勢ヲシテ彌漫セシムルカ如キハ深ク遺憾トスル所ナリ此ノ時ニ當テハ官民力ヲ竭シテ唯其ノ撲滅ヲ圖リテ害ヲ避ケ併セテ明年ノ蟲種ヲモ敢テ遺コスコト無キニ在ルノミ其ノ驅除勦滅ノ方法ニ至リテハ種々アルヘシト雖左ニ主ナル害虫ノ形狀習性變化ノ大要竝驅除ノ方法ヲ掲ケテ驅除上ノ便益ニ供ス若シ夫レ知得了解シ難キ所ハ進テ官衙或ハ識者ニ就テ教導ヲ受クヘシ然レトモ害虫驅除ノ事タル細密ナル注意不屈不撓ノ精神ト隣保相助クルノ精神之レ存スルニ非サレハ完全ナル效果ヲ收ムルコト能ハス爾民此ノ意ヲ了シ宜シク協同一致シテ驅除勦滅ニ努メ以テ遺算無キヲ期スヘシ

○一般害虫

凡ソ螣虫類ハ柞蠶椿樹蠶等ト同シク繭ヲ造リ或ハ造ルコト無クテ蛹トナリ終リニハ翹ヲ生シテ蝶蛾ノ類トナリ產卵シテ死ス其ノ卵孵化スレハ則チ虫ト成ル故ニ其ノ一生ヲ卵、幼虫（仔虫）蛹及成虫ノ四期ニ分ツヘシ仔虫ノ時代ニ於テハ禾穀蔬菜樹木ノ葉ヲ蝕害スルコト甚タシクシテ雨ヲ忌ム螣虫ノ如キハ即チ此ノ時期ノ虫ナリ冬ハ卵ニテ越スモノアリ或ハ蛹ニテ越スモノアリ或ハ成虫ニテ越スモノアリ之ヲ以テ害虫ヲ驅除シテ其ノ災害ヲ避ケムトセハ單ニ幼虫ヲ勦捕スルニ止マラスシテ須ク各害虫ニ就テ注意觀察シテ其ノ性質ヲ知リ其ノ卵ヲ採リ蛹ヲ捕ヘ成虫ヲモ殺スコトニ努メサルヘカラス

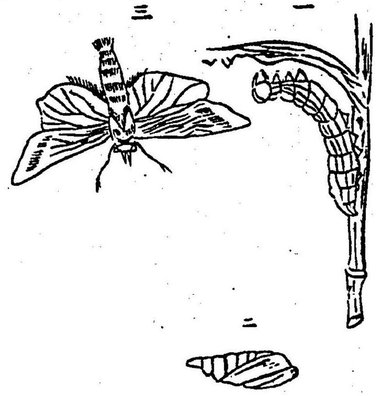
○禾穀夜盜虫（螣虫、締虫、里虫、黃虫）

大暑ノ候禾穀ノ葉鞘内ニ產卵シテ立秋ニ至レハ孵化シテ粟（穀子）高粱、玉蜀黍（包米）黍（糜子）及雜草ノ葉ヲ蝕害シ隊ヲ成シテ地上ヲ匍匐シテ他ニ移ル初メ晝夜共ニ害スレトモ暑中後ニ至レハ一寸ニ達シ晝ハ主ニ地又ハ葉鞘内ニ隱レテ夜間ハ出テテ害ス、體ニハ數條ノ縱線アリ虫ニ因テ其ノ色多少異レリ總體黑色ヲ帶ヒタルモノアリ暗色ナルモノアリ、何レモ白露ニ至レハ地下一二寸ノ深サニ入リ長六七分褐色ノ蛹トナリ後成虫ニ化シテ叢間落葉ノ下ニ隱レテ冬ヲ越シ翌年產卵ス

○驅除法

一　蝕害シツツアルモノハ急ニ作物（稼禾）ヲ打チ若ハ動搖シテ簸箕、撮子ノ如キモノニテ受ケ或ハ手ニテ捕フヘシ

第一圖　夜盜虫



一、仔　虫

二、蛹

三、成　虫

一　地上ヲ匍匐スルニ至レハ深サ凡八寸幅八寸ノ溝ヲ畝地ノ周圍及內部ノ所々ニ設ケテ更ニ其ノ溝ノ底ニ凡ソ六七尺ヲ隔テテ穴ヲ掘レハ此ノ所ニ集マルカ故ニ是ヲ捕フヘシ

一　畝間地ニ隱クルルニ至レハ之ヲ披探シ後ニハ驅除用ニ設ケタル溝內其ノ他畝地ノ塲溝塲臺ニ就テ地下一二寸ノ深サヲ披カシテ蛹ヲ捕フヘシ

一　捕ヘタルモノハ皆燒殺若ハ熱湯ヲ注キテ殺シ馬糞等ニ混シテ肥料ニ供スヘシ

一　降雪至ルニ先チ秋耕ヲ爲シ不用ノ畝地ハ燒却スヘシ

○櫻毛虫

第二圖　毛　虫

一、仔　虫

二、蛹

三、成　虫

幼虫ノ孵化期ハ粟夜盜虫ト似タリ、卵ハ立秋前後ニ孵化シテ杏、苹果、櫻、梅等ノ葉ヲ蝕害ス殆ト全身毛ヲ以テ覆ハレ白露前ニ至レハ長一寸二三分トナル後根邊ノ土中ニ入テ蛹ト成リ冬ヲ越シテ翌年立秋前ニ至テ蛾トナリテ葉ニ產卵ス

一　白露後ニ至レハ被害樹根邊ノ土中ニ就テ蛹ヲ捕フヘシ
一　幼虫老熟セムトスル頃ニ至レハ病菌ノ寄生ヲ受ケ黒色ニ變シテ斃死スルモノアルカ故ニ病虫ハ其ノ儘ニナシ置クヘシ
一　鳥鵲ノ類ハ幼虫ヲ食スルカ故ニ之ヲ保護スヘシ

○驅除法

一　枝幹ニ群棲スルカ故ニ急ニ之ヲ振リ落シ或ハ打落シ或ハ挟ミ捕ヘテ潰殺スヘシ
一　吐水器ニテ藥液ヲ注カムトセハ洋油乳劑其ノ功ヲ奏スレトモ虫體ニハ毛ヲ生スルカ故ニ十分ニ注クヲ要ス成ルヘク降雨後ヲ良トス洋油ハ多少樹勢ヲ痛メ果實アルモノニ之ヲ注ケハ從テ食スルニ良好ナラサルカ故ニ代フルニ鯨油ヲ以テセハ最モ良シ

○洋油乳劑

水ニ洗濯石鹸ヲ刻ミ込ミ攪拌シツツ火熱ヲ加ヘテ其ノ溶解スルヲ待テ取上ケ直ニ洋油ヲ滴ラシツツ十分ニ攪拌ス其ノ割合左ノ如シ

水一升　石鹸十三匁　洋油三合

●松蛤蠣驅除方　明治二十六年六月八日告諭第二號

關東州ノ山地ニ生育セル松樹ニシテ其ノ被害ノ最モ恐ルヘキハ松蛤蠣（マツカレハ）ノ害ナリ若一タヒ其ノ蝕害ニ遇フトキハ稚樹ハ全滅シ成樹ト雖萎縮シ遂ニ豫期ノ生育ヲ爲ス能ハサルニ至ル抑モ該虫ハ春暖ニ至リテ其ノ潜伏箇所ヨリ現出シ六月ノ頃粗繭ヲ營ミ蛹トナリ七月ニ至リ化シテ蛾ト成リ松樹ノ梢部ニ產卵シ尋テ孵化シテ松蛤蠣トナリ松樹ヲ滲害スルモノナレハ其ノ驅除ヲ行フハ蛹ト成リテ繭内ニ熱息スル時若ハ孵化ノ當時ニ在リ即チ六、七月ノ候ヲ以テ好期トナス故ニ自今一、二箇月ハ最モ必要ノ期間ナルヲ以テ各自周到ノ注意ヲ爲シ苟モ其ノ被害ヲ發見セルトキハ直ニ官ニ通報シ其ノ驅除方法ニ就キ指揮ヲ待チ之カ撲滅ヲ圖ルコトヲ期スヘシ

●關東州造林奬勵規則　明治四十二年八月八日府令第四十五號

關東州造林奬勵規則左ノ通相定ム

關東州造林奬勵規則

第一條　造林ノ爲官有地ヲ使用セムトスル者ニシテ關東都督ノ適當ト認ムル者ニハ無償ニテ其ノ土地ヲ貸付ス

村又ハ會ニ於テ造林ノ爲官有地ヲ使用セムトスルトキ亦前項ニ同シ

第二條　造林ヲ爲サムトスル者ニシテ關東都督ノ適當ト認ムル者ニハ無償ニテ種苗ヲ下付ス

第三條　土地ノ貸付ヲ受ケムトスル者ハ別記第一號書式ニ依リ、種苗ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ毎年九月末日迄ニ別記第二號書式ニ依リ願書ヲ所轄民政署長ヲ經テ關東都督ニ差出スヘシ

第四條　造林地ハ免租地トス

第五條　關東都督ハ官有地ノ貸付ヲ受ケタル者ニ貸付條件ヲ記載シタル貸付地證書ヲ交付スヘシ種苗ヲ無償下付スル場合ニ於テハ條件ヲ附スルコトアルヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（第一號書式）

造林ノ爲官有地無償貸付願

何會何村字何々

一　官有地面積

願地ノ境界　東ハ何溪ヲ以テ界ス南ハ何西ハ山頂ヲ以テ界ス北ハ何

右造林ノ爲無償ニテ御貸付被成下度別紙見取圖竝起業方法書添附關東州造林獎勵規則ニ依リ此段相願候也

年　月　日

住所　某
（又ハ）
何會（村）總代　住所　某

關東都督宛

起業方法書

何會何村字何々

一　官有地面積

內譯

造林面積

道路、防火線

其ノ他ノ除地面積

一　植栽方法、種苗ノ種類及數量

一　出資又ハ管理ノ方法

本項ハ會又ハ村ニ於テ造林スル場合ニ限リ出資ニ關シテハ金錢若ハ勞力供給ノ方法管理ニ關シテハ造林地保護ノ要項ヲ記載スヘシ

一　事業配當程度

初年　（明治何年）

面積

何種苗　何本　一坪何本ノ割

此ノ植栽費何圓、又ハ人夫何人　林道、防火線設置費等ヲ含ム

二年以下初年ニ同シ

（第二號樣式）

種苗下付願

一　何苗（種）　何本　（石）

但シ何會何村字何々官有地

（民有地）何坪ニ植付用　一坪何本植

右明治何年何月ヨリ何月迄ニ造林（播種）致度候條御下付被成下度關東州造林獎勵規則ニ依リ此段相願候也

年　月　日

住所　某
（又ハ）
何會（村）總代　住所　某

關東都督宛

●樹木伐採禁止　明治三十八年十二月十二日關東州民政署告示第三十五號

山地ノ林木路傍ノ竝木竝寺廟公園苗圃墓地ノ內外等ニ生育スル一切ノ樹木ハ其ノ官有タルト民有タルトヲ問ハス官ノ許可ヲ得スシテ之ヲ伐採スルコトヲ嚴禁ス

●新年ノ門飾リニ松樹使用禁止　明治四十二年十二月二十六日告諭第二號

新年ニ際シ戸々門松ヲ樹テ以テ祝意ヲ表スルハ我習慣ナリト雖本州ノ山野ハ元ト樹木ニ乏シク今ヤ努ヲ松樹移植ノ經營中ニ屬スルヲ以テ濫ニ之ヲ伐採スルカ如キコトアラハ爲ニ造林ノ目的ヲ沮害スルノ虞ナシトセス依テ官衙及會社ハ勿論一般市民ニ於テモ自今新年ノ門飾リハ松樹ヲ用キス宜ク他ノ方法ヲ取ルヘシ

關東州水産組合規則

（明治三十九年三月二十七日關東州民政署令第十號　改正（四一、府四四號）

關東州水産組合規則左ノ通相定ム

關東州水産組合規則

第一條　水産動植物ノ採捕、養殖、製造及販賣ヲ業トスル者ハ此ノ規則ニ依リ水産組合ヲ設置スヘシ

第二條　組合ハ水産業ノ改良發達及水産動植物ノ蕃殖保護ニ任シ且其ノ營業上ノ弊害ヲ矯正シ利益ヲ增進スルヲ以テ目的トス爲スヘシ

第三條　組合ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　組合ノ區域ハ關東州ノ區域ニ依ルヘシ

第五條　組合ハ關東州水産組合ト稱スヘシ此ノ規則ニ依リ設置シタル者ニ非サレハ水産組合ナル名稱ヲ附スルコトヲ得ス

第六條　組合ノ區域內ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ總テ組合ニ加入スヘシ

第七條　組合ヲ設置セムトスルトキハ組合會議ノ決議ヲ以テ定款ヲ定メ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第八條　定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　組合ノ名稱及事務所ノ位置

二　組合員ノ加入及脫退ニ關スル事項

三　組合員ノ權利義務ニ關スル事項

四　役員ノ職務權限ニ關スル事項

五　會議ニ關スル事項

六　處務及會計ニ關スル事項

七　組合費ノ分賦收入ニ關スル事項

八　業務ニ關スル事項

九　財產ニ關スル事項

十　違約者處分ニ關スル事項

十一　定款ノ變更ニ關スル事項

第九條　組合ニハ組長一名評議員七名ヲ置クヘシ

組長及評議員ノ任期ハ二箇年トシ關東都督之ヲ任免ス

組長事故アル場合ニ於ケル代理者ハ豫メ評議員中ヨリ之ヲ互選シ關東都督ニ屆出ッヘシ

第十條　組合經費ノ豫算ハ組合會議ノ決議ヲ經テ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ

第十條ノ二　組合ハ其ノ現存基金ヲ積立金トシ之ヨリ生スル收入及各年度剩餘金ヲ之ニ編入スヘシ

第十條ノ三　組合ハ關東都督ノ認可ヲ受クルニアラサレハ起債ヲ爲シ又ハ積立金ヲ處分スルコトヲ得ス

第十一條　組合會議ニ於テ決議シタル事項ハ其ノ都度關東都督ニ報告スヘシ但シ認可ヲ受クヘキ事項ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　組合ノ事業成績經費決算及前年度末積立金收支計算ハ每年度後三箇月以內ニ關東都督ニ報告スヘシ

第十三條　關東都督ハ組合ノ爲スヘキ業務ヲ指示シ又ハ所屬官吏ヲシテ組合ノ業務ヲ指揮監督セシムルコト

ヲ得

第十四條　第六條ニ違背シタル者ハ之ヲ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

組合ハ本令施行ノ日ヨリ七日以内ニ本令ノ規定ニ從ヒ其ノ定款ヲ改正スヘシ

●關東州漁業取締規則

明治三十九年三月二十七日關東州民政署令第十一號

關東州漁業取締規則左ノ通相定ム

關東州漁業取締規則

第一條　左ニ揭ク漁業ヲ爲サムトスル者ハ民政長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一　一定ノ水面ニ漁具ヲ敷設シテ爲ス漁業

二　一定ノ水面ヲ區劃シテ爲ス漁業

三　一定ノ曳揚場及網場ヲ有スル網漁業

四　隨所ニ運用スル網漁業

五　船ヲ使用スル釣漁業

六　叉釣漁業

七　潛水漁業

第二條　前條ノ漁業ヲ許可シタルトキハ漁業鑑札ヲ下付ス

第三條　第一條ノ漁業ニシテ水產動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益ニ害アリト認ムルトキ又ハ既ニ許可ヲ受ケタル漁業ニ支障アリト認ムルトキハ之ヲ許可セス

前項ノ場合ニ於テ既ニ許可シタル者ニ在リテハ之ヲ制限停止シ若ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第四條　漁業鑑札ハ出漁ノ際之ヲ携帶スヘシ

第五條　漁業鑑札ハ之ヲ讓渡又ハ貸付スルコトヲ得ス

第六條　漁業鑑札ヲ亡失毀損シ若ハ鑑札記載ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ二十日以内ニ其ノ鑑札ヲ返納スヘシ

スヘシ

第七條　漁業ヲ廢止シタルトキ又ハ鑑札無效ニ歸シタルトキハ二十日以内ニ其ノ再下付又ハ書換ヲ申請

漁業者死亡シタルトキハ其ノ相續者又ハ家族ハ死亡ノ日ヨリ三十日以内ニ其ノ鑑札ヲ返納スヘシ

第八條　二箇年間引續キ漁業ヲ休止シタルトキハ廢業シタルモノト看做ス

第九條　漁業者ハ他人ノ漁業カ直接自己ノ漁業ヲ妨害スルニ非サレハ其ノ漁業ヲ拒ムコトヲ得ス

第十條　第一條第一號乃至第三號ノ漁業者ハ漁場標識ヲ建設スヘシ

前項ノ標識ヲ建設セル漁業區域内ニ於テ魚類ノ通路ヲ遮斷シ若ハ之ヲ散逸セシムヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條　此ノ規則ニ依リ民政長官ニ提出スル書類ハ總テ關東州水產組合ヲ經由スヘシ

第十二條　第一條ニ違背シタル者ハ之ヲ五十圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ漁具及漁獲物ヲ沒收ス

第四條第五條第九條又ハ第十條第二項ニ違背シ若ハ漁場標識ヲ移轉シ若ハ破壞シタル者ハ之ヲ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

第十三條　此ノ規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條　既ニ漁業ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ規則施行ノ日ニ於テ此ノ規則ニ依リ其ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ此ノ規則施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ漁業鑑札ノ下付ヲ申請スヘシ

前項ノ但書ニ依リ鑑札ノ下付ヲ受クル迄ハ仍鑑札ヲ携帯セスシテ漁業ヲ爲スコトヲ得
第一項但書ノ申請ヲ爲ササルトキハ廢業シタルモノト看做ス

出願申請書届書書式及漁場標式ノ雛形

第一號（漁業取締規則第一條第一號乃至第三號ニ該當スルモノ）
漁業許可願

一　漁場ノ位置及區域（別紙圖面ノ通）
一　漁業ノ種類
一　漁獲物ノ種類
一　漁業ノ時期

前記ノ通漁業許可相受度別紙漁場ノ圖面相添ヘ此段奉願候也

年　月　日

住所
出願者　氏　名　㊞

關東都督宛

注意　添付ノ圖面ハ實測圖又ハ見取圖ニシテ方位間數面積等ヲ明記スヘシ
本願ハ一箇所毎ニ願書ヲ作成スヘシ

第二號（漁業取締規則第一條第四號乃至第七號ニ該當スルモノ）
漁業許可願

一　漁業ノ場所
一　漁業ノ種類
一　漁具ノ員數

前記ノ通漁業許可相受度此段奉願候也

年　月　日

住所
氏　名　㊞

關東都督宛

注意　同一人ニシテ二以上ノ漁業ヲ爲サムトスルトキハ一通ノ願書ニ記載スルコトヲ得

第三號（漁業取締規則第六條ニ該當スルモノ）
漁業鑑札再下付書換申請書

一　漁業ノ種類
一　鑑札番號
一　許可ノ年月日

前記ノ鑑札何々ノ事由ニ依リ亡失（毀損）（異動）致候ニ付再下付（書換）相成度此段申請候也

年　月　日

住所
氏　名　㊞

關東都督宛

注意　鑑札存在スル場合ハ申請書ニ之ヲ添フヘシ

第四號（漁業取締規則第七條ニ該當スルモノ）

漁業鑑札返納届

一　漁業ノ種類
一　鑑札番號
一　許可年月日

右何年何月何日廢業（鑑札無效ト相成）（漁業者何某死亡）致候間鑑札相添此段及御届候也

年　月　日

住所
氏名　㊞

關東都督宛

第五號（漁業取締規則第十條ニ該當スルモノ）

何漁業漁場標識

明治何年何月何日許可

三寸角以上　地上五尺以上

從是何方位何間

住所　漁業者氏名

●遠洋出漁船ニ對スル不法行爲者ニ戒告　明治四十二年六月四日告諭第一號

近時遠洋出漁船ニ對シ保護其ノ他ノ口實ヲ藉リ不法ノ行爲ヲ敢テスル者アリト聞ク惟フニ此ノ如キハ曾ニ漁業ノ發展ヲ阻害スルノミナラス又國法ノ嚴禁スル所タリ自今若シ此ノ如キ行爲ヲ爲ス者アラハ一々法ニ照シテ假借スル所ナカルヘシ事ニ從フ者深ク此ノ意ヲ體シ恪ミテ違背スル勿レ

●水產會社又ハ組合監督ノ件　明治四十二年府令第五十六號

水產業ニ關スル會社又ハ組合監督ノ件左ノ通相定ム

第一條　水產業ニ關シ會社又ハ組合ヲ設ケムトスルトキハ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ

第二條　關東都督ハ會社又ハ組合ノ監督ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトアルヘシ

第三條　會社又ハ組合カ法令定款若ハ關東都督ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ關東都督ハ其ノ事業ノ停止若ハ取締役ノ改選ヲ命シ又ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●旅順ニ於ケル漁業許可願書提出方　明治三十九年六月八日關東州民政署告示第三十一號

旅順支署管轄區域內ニ於テ關東州漁業取締規則ニ依リ漁業ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ關東州水產組合旅順支部ヲ經由シタル願書ヲ旅順支署ニ提出スヘシ

●大連ニ於ケル漁業許可願書提出方　明治三九年六月二日告示第十三號

大連民政署管轄區域內ニ於テ關東州漁業取締規則ニ依リ漁業ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ關東州水產組合本部ヲ經由シタル願書ヲ大連民政署ニ提出スヘシ

關東州鹽田規則

明治三十九年二月二十三日
關東州民政署令第八號

關東州鹽田規則左ノ通相定ム

關東州鹽田規則

第一條　鹽田ヲ開設セムトスル者ハ民政長官ニ願出テ土地ノ貸付ヲ受クヘシ

第二條　前條ノ許可ヲ受ケタル者ニハ土地ヲ無償ニテ貸付シ鹽田成功ノ後其ノ使用ヲ許可ス

第三條　鹽田ノ使用料ハ之ヲ徵收セス

第四條　鹽田開設ノ爲貸付スル土地ノ面積ハ一人ニ對シ百町歩以内トス但シ既ニ貸付シタル土地ヲ成功シタル者又ハ相當ノ資力アリテ成功シ得ヘシト認ムル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第五條　鹽田開設ノ成功期間ヲ定ムルコト左ノ如シ

十町歩未滿	二年以內
二十町歩未滿	三年以內
五十町歩未滿	四年以內
百町歩未滿	五年以內
百町歩以上	七年以內

天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ依リ法定期間內ニ成功スルコト能ハサルトキハ其ノ半期間之ヲ延期スルコトヲ得

第六條　第二條ニ依リ貸付シタル土地ニシテ豫定ノ如ク成功セサルトキハ其ノ成功地ノ一部若ハ全部ヲ無償ニテ返還セシムルヘシ

前項ノ場合ニ於テ土地整理上支障アリト認ムルトキハ其ノ半期間之ヲ延期スルコトアルヘシ

第七條　前條ニ依リ貸付地ヲ返還セシメ若ハ自己ノ便宜ニヨリ貸付地ヲ返還シタル場合ニ於テ其ノ土地ニ在スル建設物其ノ他ノ物件アルトキハ指定ノ期間內ニ之ヲ撤去スヘシ若其ノ期間內ニ撤去セサルトキハ其ノ物件ハ官ノ所有ニ歸ス

第八條　鹽田開設ノ許可ヲ受ケタル後天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ依ルニ非スシテ一箇年以內ニ事業ニ著手セサルトキ又ハ其ノ意思ナシト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消シ貸付ノ土地ヲ返還セシム

第九條　二箇年以上引續キ製鹽業ヲ廢止シタルトキ若ハ鹽ニ關スル法規ニ違背シタルトキハ鹽田使用ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十條　鹽田ノ使用ハ民政長官ノ許可ヲ得テ之ヲ相續讓渡スコトヲ得

第十一條　鹽田ヲ變更シ之ヲ製鹽以外ノ目的ニ使用セムトスルトキハ民政長官ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條　許可ヲ受ケスシテ鹽田ヲ開設シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處シ且其ノ土地ニ存在スル總テノ物件ヲ沒收ス

附　則

第十三條　此ノ規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條　既設鹽田ノ使用者ハ此ノ規則施行ノ日ニ於テ其ノ使用ヲ許可セラレタルモノト看做ス

既設鹽田ノ使用者ハ此ノ規則施行ノ日ヨリ一箇年以內ニ別ニ定ムル所ニ依リ民政長官ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ爲サヽル者ハ其ノ鹽田ノ使用ヲ拋棄シタルモノト看做ス

鹽田規則施行細則

明治三十九年二月二十三日
關東州民政署令第九號

關東州鹽田規則施行細則左ノ通相定ム

關東州鹽田規則施行細則

第一條　鹽田規則第一條ニ依リ土地ノ貸付ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ノ願書ニ設計書、圖面、戶籍謄本、財產調書及事業經歷書ヲ添ヘ民政長官ニ提出スヘシ

第二條　鹽田開設地ノ貸付ヲ受ケタル者第二號書式ニ依リ十日以內ニ民政長官ニ屆出ツヘシ

第三條　鹽田開設ノ成功期間數年ニ亘ル者ハ前年中ノ事業功程ヲ每年一月三十一日限リ民政長官ニ提出スヘシ

第四條　鹽田開設地ノ貸付ヲ受ケタル者ニシテ死亡又ハ失踪シタルトキハ其ノ相續者ヨリ戶籍謄本ヲ添ヘ民政長官ニ屆出ツヘシ

第五條　貸付中ノ土地ヲ返還セムトスルトキハ第三號書式ノ願書ニ圖面ヲ添ヘ民政長官ニ提出スヘシ著手以前ニ於テ全部ノ返還ヲ爲サムトスルトキハ同書式ニ依リ其ノ旨屆出ツヘシ

第六條　鹽田開設地ノ貸付ヲ受ケタル後豫定ノ設計方法ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ民政長官ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　鹽田開設成功ノ後其ノ使用ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ第四號書式ノ願書ニ實測圖正副二通ヲ添ヘ民政長官ニ願出ツヘシ

鹽田ノ使用ヲ許可スルトキハ許可書ニ前項實測圖ノ副本ヲ添ヘ之ヲ下付ス

第八條　鹽田開設地ノ貸付ヲ受ケタル者ハ其ノ土地ノ境界ニ標木ヲ建設スヘシ

鹽田規則第六條ニ依ル點檢ノ際ハ其ノ開設區域ニ標木ヲ建設スヘシ

第二項ノ標木ハ其ノ土地使用許可ノ處分ヲ了ルマテ之ヲ存置スヘシ

第九條　鹽田調査ニ關シ當事者及其ノ他ノ關係者ノ立會ヲ必要ト認メ當該官吏ヨリ通知ヲ爲シタルトキハ之ニ立會フヘシ

前項ノ場合ニ於テ立會ヲ爲ササル爲生シタル損害ハ官ニ於テ其ノ責ニ任セス

第十條　鹽田規則第五條ノ開設期間ハ貸付ノ翌月ヨリ起算ス

第十一條　左ノ場合ニ於テハ其ノ出願ヲ無效トス

一　鹽田開設出願者ニシテ第九條第一項ニ違背シタルトキ

二　出願者又ハ其ノ代理者ノ所在不明ニシテ發送ノ日ヨリ六十日ヲ經過スルモ尙指令若ハ令達等ヲ下付スルコト能ハサルトキ

三　願書ノ訂正ヲ命シタル後六十日ヲ經過スルモ訂正願書ヲ差出ササルトキ

第十二條　鹽田開設地ノ貸付ヲ受ケタル者ニシテ關東州內ニ居住セサルトキハ州內居住者中ヨリ代理者ヲ定メ民政長官ニ屆出ツヘシ

第十三條　鹽田ニハ別記雛形ノ標木ヲ建設スヘシ

第十四條　鹽田ノ使用ヲ相續讓渡スルトキハ相續者又ハ當事者雙方ハ其ノ事由ヲ證スヘキ願書ニ許可書ヲ添ヘ三十日以內ニ許可書ノ書換ヲ申請スヘシ

許可書ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ再下付ヲ申請スヘシ

附　則

第十五條　此ノ規則ハ鹽田規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條　鹽田規則第十四條第二項ノ屆出ハ第七條ニ準據シテ之ヲ爲スヘシ

（第一號書式）

鹽田開設貸付願

地名

一　干潟地何坪

右關東州鹽田規則第一條ニ依リ貸付相成度別紙設計書、圖面、戸籍謄本、財産調書及事業經歷書相添ヘ此段奉願候也

年　月　日

住所
氏名　㊞

關東州民政署民政長官宛

注意　一　代理ヲ以テ出願スル者ハ委任狀若ハ其ノ謄本ヲ添附スヘシ以下之ニ同シ
二　設計書ニハ事業經營ノ方法、鹽田ノ構造法、年別事業配當程度、經費豫算等ヲ詳記スヘシ
三　圖面ニハ年別開設成功程度ノ區別及其ノ面積竝四圍ノ狀況等ヲ表示スヘシ

（第二號書式）

鹽田開設事業著手屆

地名

一　貸付地何坪

但シ明治何年何月何日指令第何號ヲ以テ貸付ノ分

右明治何年何月何日事業著手致候ニ付關東州鹽田規則施行細則第二條ニ依リ此段及御屆候也

年　月　日

住所
氏名　㊞

關東州民政署民政長官宛

（第三號書式）

貸付地返還願

地名

一　貸付地何坪

但シ明治何年何月何日指令第何號ヲ以テ貸付ノ分

二　土地ノ現況（貸付當時ノ形狀ヲ變更シタル時ハ之ヲ詳記シ且圖面ニ表示スヘシ但シ屆書ニハ本項ノ記載ヲ要セス）

右關東州鹽田規則第一條ニ依リ貸付相成候處今般何々ノ事由有之返還致度候ニ就テハ御聞屆相成度別紙圖面相添ヘ此段奉願候也

（屆書ニハ「返還致度」以下ヲ「此段及御屆候也」トスヘシ）

年　月　日

住所
氏名　㊞

關東州民政署民政長官宛

（第四號書式ノ一）

鹽田使用許可願

地名

一　貸付地何坪

此ノ付數何付

但シ明治何年何月何日指令第何號ヲ以テ貸付ノ分

右關東州鹽田規則第一條ニ依リ貸付相成候處今般開設成功致候ニ付御檢査ノ上使用御許可相成度別紙實測圖正副二通相添ヘ此段奉願候也

年　月　日

住所
氏名　㊞

關東州民政署民政長官宛

（第四號書式ノ二）

鹽田部分使用許可願

地名

一　貸付地　何坪　明治何年何月何日指令第何號ヲ以テ貸付ノ分

一　使用許可出願地　何坪　此ノ付數何付

一　殘地　何坪

外

明治何年何月何日指令第何號ヲ以テ何程使用許可

右（以下前書式同斷）

（標木雛形）

表

鹽田何付此ノ坪數何坪

明治何年何月何日使用許可

裏

住所

氏名

●魚市場規則

明治三十九年三月二十七日　關東州民政署令第十二號　改正（四〇、府六四號）

魚市場規則左ノ通相定ム

第一條　此ノ規則ニ於テ魚市場ト稱スルハ一定ノ場所ニ於テ競賣ノ方法ニ依リ水產物ノ委託販賣ヲ爲スモノヲ謂フ

第二條　魚市場ヲ設立セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ民政長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一　設立者ノ事業經歷書、戶籍謄本、資產證明書

二　設立ヲ要スル事由

三　設立地區內ニ於ケル水產物集散ノ沿革及現況

四　一箇年ノ取扱見込額

五　設立ノ位置及概況圖

六　設計書

七　出資額及資本金使用ノ豫算

八　組合組織ニ係ルモノハ其ノ定款

九　販賣取扱ニ關スル事項

十　手數料ノ定率

十一　營業ノ期間

十二　市場管理者ノ氏名

魚市場設立ノ許可ヲ受ケタル後前項第五號乃至第十二號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ本條ニ依リ民政長官ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　魚市場設立ノ許可ヲ受ケタル者ノ營業保證金トシテ指定ノ金額ヲ關東州民政署ニ供託スヘシ

第四條　魚市場建設物ノ構造ハ官ノ指示ニ遵フヘシ

第五條　魚市場ハ毎月五日限リ其ノ前月ニ於ヲ取引シタル水產物ノ種類、數量及其ノ取引金額、手數料竝時價ノ變動、貨物集散ノ狀況ヲ調査シ民政長官ニ報告スヘシ

第六條　魚市場ハ毎年一月三十一日限リ其ノ前年度ノ收支計算及事業ノ顚末ヲ民政長官ニ報告スヘシ

第七條　民政長官ハ所屬官吏ヲシテ魚市場ノ業務及會計ヲ監査セシムルコトアルヘシ

第八條　魚市場ハ水產物販賣ノ委託ヲ拒ムコトヲ得ス但シ正當ノ理由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　削除

第十條　魚市場ヲ廢止シタルトキハ其ノ事由及清算ヲ明記シ民政長官ニ屆出ツヘシ

第十一條　第二條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

此ノ規則ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●旅順魚市場設立許可

明治三十九年六月二十一日關東州民政署告示第三十三號

今般左記ノ通魚市場設立ノ件ヲ許可セリ

一　市場ノ名稱	合資組合旅順魚市場
二　市場ノ位置	旅順旭町一丁目一番地
三　取引區域	旅順一圓
四　資本金	銀一萬八千圓（內拂込銀四千五百圓）
五　手數料	一割五分
六　開業年月日	明治三十九年六月十六日
七　市場管理者ノ氏名	理事長村上鶴藏

●大連魚市場設立認可

明治三十九年五月二十日關東州民政署告示第二十七號

今般左記ノ通魚市場設立ノ件ヲ認可セリ

一　市場ノ名稱	合資組合關東魚市場
二　市場ノ位置	大連市信濃町
三　取引區域	大連市一圓
四　資本金	銀五萬圓（內拂込濟銀一萬圓）
五　手數料	一割五分
六　開業年月日	明治三十九年五月二十日
七　市場管理者氏名	專務取締役木村政平、取締役山下善五郎

●關東州ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ム者ニ關スル件

明治三十九年六月二十二日勅令第二百九十四號

朕關東州ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ム者ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　內地ニ於テ主務官廳ノ免許ヲ受ケタル保險會社ガ關東州ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ其ノ免許ヲ受ケタル保險事業ヲ營ム場合ニ於テハ保險業法ニ依ル免許及認可ノ規定ハ之ヲ適用セス

前項ノ保險會社ハ關東州ニ於ケル代表者ヲ定メ支店又ハ代理店ノ設置ニ關スル事項ヲ具シ屆出ツヘシ

商法第六十二條ノ規定ハ前項ノ代表者ニ之ヲ準用ス

第二條　前條ノ保險會社ガ內地ニ於テ事業停止ノ處分ヲ受ケタルトキハ關東州ニ於テモ亦其ノ事業ヲ停止セラレタルモノトス

第三條　第一條第二項ノ届出ヲ爲サスシテ保險事業ヲ營ム保險會社ニ付テハ保險業法第九十七條ノ規定ヲ準用ス

第四條　前三條ノ規定ハ保險業法施行前設立シタル保險會社及內地ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ム外國人又ハ外國會社ニ之ヲ準用ス

第五條　保險業法ニ依リ取締役、監査役、清算人又ハ業務ヲ執行スル社員ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ關東州ニ於ケル代表者ニ適用ス

第六條　本令ニ規定スルモノノ外必要ナル事項ハ關東都督之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●支店等ヲ設ケテ保險事業ヲ營ム者ニ關スル件　明治三十六年六月二十日府令第二十一號

關東州ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ム者ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　內地ニ於テ保險事業ヲ營ム者カ關東州ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ其ノ保險事業ヲ營ム場合ニ於テハ內地ニ於ケル主務官廳ノ免許書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附シ其ノ事業ノ本據及代表者ノ氏名住所ヲ關東都督ニ届出ツヘシ

第二條　支店又ハ代理店ノ代表者ハ左ノ書類ヲ事業ノ本據ニ備フヘシ

一　定款

二　本店ニ於テ作リタル財產目錄、貸借對照表、事業報告書及損益計算書

第三條　支店又ハ代理店ノ代表者ハ第一條ノ届出ヲ爲ス場合ニ關東州ニ於ケル事業ノ方法書、普通保險約款及保險料表ヲ關東都督ニ提出スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第四條　前條ノ書類ノ規定ニシテ保險業法ニ違反シ又ハ關東州ノ事業ニ對シ不適當ト認メタルトキハ關東都督ハ其ノ規定ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第五條　支店又ハ代理店ノ代表者ハ每年一回一定ノ時期ニ於テ其ノ關東州ニ於ケル事業ノ報告書ヲ作リ之ヲ關東都督ニ提出スヘシ

第六條　保險事業ヲ營ム者カ事業ヲ廢止シ、解散若ハ合併シタルトキ又ハ事業停止若ハ免許取消ノ處分ヲ受ケタルトキハ支店又ハ代理店ノ代表者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ關東都督ニ届出ツヘシ其ノ支店又ハ代理店ヲ廢止シタルトキ亦同シ

附　則

本令ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前關東州ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ム者ハ其ノ施行ノ日ヨリ四月內ニ本令ニ依リ關東都督ニ届出ツヘシ

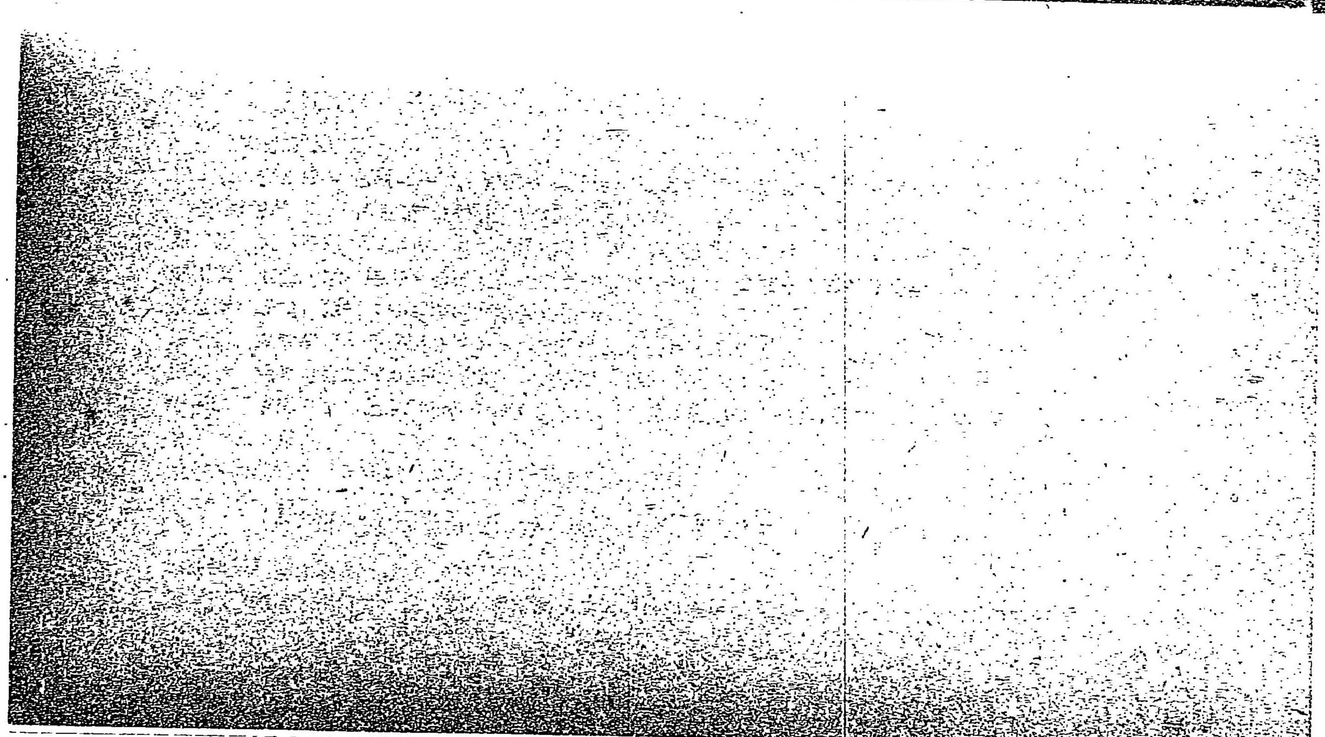
●保險業法ノ施行及外國保險會社ニ關スル件　明治三十六年六月二十日府令第二十二號

保險業法ノ施行及外國保險會社ニ關スル件左ノ通定ム

保險業法ノ施行及外國保險會社ニ關シテハ明治三十三年農商務省令第十九號ニ依ル

附　則

本令ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス



第四類　氣象、標準時

●暴風雨標條例　明治四十一年二月十三日勅令第十一號

暴風雨標條例

第一條　暴風雨ノ位置及進行ノ方向等ヲ船舶ニ周知セシメ航路ノ安全ヲ圖ル爲港務部、海軍望樓、海軍測器庫、要港部、燈臺、築港局及測候所ニ暴風雨標ヲ設置ス

第二條　暴風雨標ヲ設置スヘキ地方測候所及其ノ暴風雨標ノ位置ハ文部大臣之ヲ指定ス

第三條　前條ノ暴風雨標ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス但シ沖繩縣ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第四條　暴風雨標式ハ中央氣象臺長之ヲ定ム

第五條　暴風雨標ハ中央氣象臺ヨリノ警報ニ依リ之ヲ掲揚スヘシ

第六條　郡市區町村又ハ私人ニ於テ暴風雨標ヲ設置セムトスルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　暴風雨標ノ設置、廢止、變更及掲揚中止ハ其ノ所管大臣、臺灣總督、關東都督ニ於テ之ヲ告示スヘシ

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●暴風警報信號標設置規則　明治四十一年二月二十九日府令第六號

暴風警報信號標設置規則左ノ通相定ム

第一條　公私ノ團體其ノ他ニ於テ暴風警報信號標ヲ設置セムトスルトキハ豫メ左ノ諸件ヲ具シ認可ヲ受クヘシ

一　位置及地勢（略圖添附）
二　信號ノ種類
三　信號標ノ高サ
四　設置ノ費途
五　維持ノ方法
六　管理者

第二條　暴風警報信號標ハ關東都督府測候所ヲシテ監督セシム
第三條　暴風警報信號標又ハ管理者ニ異動ヲ生シタルトキハ設置者ハ其ノ事由ヲ具シ直ニ届出ツヘシ
第四條　暴風警報信號標設置者ニ於テ濫ニ既設信號標ノ樣式ヲ變更シ又ハ取締上不都合ノ所爲アリタルトキハ認可ヲ取消スコトアルヘシ
第五條　暴風信號標ヲ新ニ設置シタルトキ又ハ之ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度告示ス

附　則

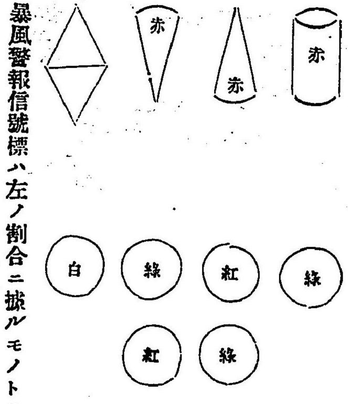
本令ハ明治四十一年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

●暴風警報信號標　明治四十一年三月二九日告示第二十二號

關東都督府暴風警報信號標左ノ通相定ム

第一條　暴風警報信號標ヲ分チテ赤球、赤圓筒、赤圓錐、白圓菱ノ四種トシ夜間ハ紅燈ヲ以テ球ニ綠燈ヲ以テ圓筒ニ紅綠二燈ヲ以テ圓錐ニ白燈ヲ以テ圓菱ニ代用スルモノトス

第二條　球、圓筒及圓錐ハ其ノ地方以外ニ警戒中ノ所アルヲ示シ圓菱ハ其ノ地方以外ニ警戒中ノ所アルヲ示ス其ノ詳細ハ左ノ如シ



天候不穩ノ虞アリ其ノ地方沿海警戒中ナルヲ示ス

天候不穩ノ虞アリ其ノ地方海陸トモ警戒中ナルヲ示ス

天候特ニ危險ノ虞アリ其ノ地方海陸トモ警戒中ニシテ風向東ヨリ南ニ廻ラムトス

同上風向東ヨリ北ニ廻ラムトス

其ノ地以外ニ警戒中ノ所アルヲ示ス

第三條　暴風警報信號標ハ左ノ割合ニ據ルモノトス但シ球ノ直徑ハ三尺以上トス

	直徑（丈）	高サ（丈）
球	一●〇	一●一
圓筒	〇●七	一●一
圓錐	一●一	一●五
圓菱	一●〇	一●一

第四條　暴風警報信號標ハ高サ五間以上ニシテ且三尺毎ニ赤白二色ニ塗分ケタル柱頭ニ掲クルモノトス